

---

---

令和8年度

# 学習指導計画 (前期課程)



千代田区立九段中等教育学校

---

---



# 学習指導計画

## (前期課程)

表紙	.....	1
目次	.....	2
教育課程表	.....	3
令和8年度の教育課程		
評価・評定	.....	4
国語	.....	5
学習指導計画、1年、2年、3年		
社会	.....	12
学習指導計画、1年、2年、3年		
数学	.....	19
学習指導計画、1年、2年、3年		
理科	.....	38
学習指導計画、1年、2年、3年		
音楽	.....	51
学習指導計画、1年、2年、3年		
美術	.....	58
学習指導計画、1年、2年、3年		
保健体育	.....	65
学習指導計画、1年、2年、3年		
技術・家庭	.....	72
(技術分野)	学習指導計画、1年、2年、3年	
技術・家庭	.....	79
(家庭分野)	学習指導計画、1年、2年、3年	
英語	.....	86
学習指導計画、1年、2年、3年		
道徳	.....	102
学習指導計画、1年、2年、3年		

## 令和8年度 教育課程表

単位数 時間数	前期課程			後期課程			単位数 時間数					
	基礎学力養成期		充実期	発展期								
	1年(23回生)	2年(22回生)	3年(21回生)	4年(20回生)	5年(19回生)	6年(18回生)						
1	国語	国語	国語	現代の国語	論理国語	論理国語	1					
2								2				
3						言語文化	古典探究	体育	3			
4									4			
5	社会	社会	社会	地理総合	公共	英語 コミュニケーション Ⅲ	5					
6									6			
7								歴史総合		7		
8	数学	数学	数学	数学Ⅰ ※1	数学Ⅱ ※1	または 世界史探究	8					
9											9	
10											10	
11											11	
12										数学B ※2	数学演習 ※2	12
13											または 数学Ⅲ ※2	13
14	理科	理科	理科	数学A ※1			14					
15						物理基礎	数学C	15				
16							化学	16				
17						化学基礎		17				
18	音楽／美術	音楽	音楽	生物基礎	物理または生物	選択 (0～22)	18					
19											19	
20							美術	美術			20	
21	保健体育	保健体育	保健体育	体育	体育	選択 (0～22)	21					
22										22		
23								保健		23		
24	技術・家庭	技術・家庭	技術・家庭	芸術Ⅰ	保健	選択 (0～22)	24					
25									英語	英語	25	
26	英語	英語	英語	英語 コミュニケーションⅠ	コミュニケーションⅡ	選択 (0～22)	26					
27											27	
28											28	
29									論理・表現Ⅰ	論理・表現Ⅱ	29	
30	E・A	E・A	E・A			30						
31	道徳	道徳	道徳	情報Ⅰ	家庭基礎	31						
32	総合的な学習 の時間	総合的な学習 の時間	総合的な学習 の時間	総合的な 探究の時間	総合的な 探究の時間	総合的な 探究の時間	32					
33											33	
34	HR	HR	HR	HR	HR	HR	34					

※1 4年次 数学Ⅰは4月～9月(週あたり4時間)、数学Aは4月～9月(週あたり2時間)、数学Ⅱは10月～3月(週あたり6時間)  
 ※2 5年次 数学Bは4月～9月(週あたり4時間)、数学演習／数学Ⅲは10月～3月(週あたり4時間)

## 評価・評定

すべての教科科目の評価・評定基準は以下とする。

### ・観点別学習状況評価基準

学習状況	実現状況	評価
十分満足できる	75%以上	A
おおむね満足できる	45%以上 75%未満	B
努力を要する	45%未満	C

### ・評定総括基準

実現状況	評定と標語	
85%以上	5	特に程度が高い
75%以上 85%未満	4	十分満足できる
45%以上 75%未満	3	おおむね満足できる
20%以上 45%未満	2	努力を要する
20%未満	1	一層努力を要する

## 国語科 学習指導計画

教科の目標		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分の考えをもち、目的や場面に応じた的確に書く力、話す力、聞く力、読む力を身に付け、コミュニケーション能力を高める。</li> <li>2 国語を正確に理解し、心情を豊かにするとともに論理的な思考力を伸ばす。</li> <li>3 言語文化に対する関心を高め、国語を尊重する態度を身に付ける。</li> <li>4 近現代の作品や古典作品を多く読むことにより、社会や自己について深く考える力をつける。</li> </ol>			
学年	区分	区分の目標	学習内容	学習の特色	
前期課程	第1学年	基礎学力養成期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活について、相手を尊重しながら話し合う。</li> <li>・構成を工夫して的確に書き、考えをまとめる。</li> <li>・要旨を的確にとらえ、読書で見方や考え方を広げる。</li> <li>・漢字検定5級相当、口語文法の単位～用言、歴史的仮名遣い、漢文訓読を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科との連携による表現活動</li> <li>・百人一首</li> </ul>	
	第2学年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活について、相手を尊重しながら話し合う。</li> <li>・構成を工夫して的確に書き、考えをまとめる。</li> <li>・表現の仕方に注意して読み、読書を広げ役立てる。</li> <li>・漢字口語文法の助動詞～敬語、歴史的仮名遣い、係り結びの法則、漢文訓読を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科との連携による表現活動</li> <li>・百人一首</li> </ul>	
	第3学年	充実期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活について、課題の解決に向けて話し合う。</li> <li>・論理の展開を工夫して書き、考えを深める。</li> <li>・文章の展開や表現の仕方を評価しながら読み、読書を通して自己を向上させる。</li> <li>・漢字検定3級相当、古文単語（最頻出語）、古典文法の単位～用言、再読文字を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科との連携による表現活動</li> <li>・小論文講座</li> <li>・古文文法と単語</li> <li>・百人一首</li> </ul>	
後期課程	第4学年	発展期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間、社会、自然について多角的に考え話し合う。</li> <li>・論拠に基づいて書き、考えを深める。</li> <li>・文章の展開や表現の仕方を評価しながら読み、読書を通して考えを深める。</li> <li>・漢字検定準2級相当、古文単語、古典文法の助動詞、副詞、敬語、識別、漢文句法を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科との連携による表現活動</li> <li>・小論文講座</li> <li>・要約練習</li> </ul>	
	第5学年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間、社会、自然について、文章の批評を通して、考えを豊かにまとめることができる。</li> <li>・論理性や表現の仕方を評価し、意図や描写を的確にとらえ、考えを豊かにすることができる。</li> <li>・作品の特色を理解して味わい、価値を考察し、日本文化の特質について理解を深める。</li> <li>・古文単語、古典文法、漢文句法、漢文における重要漢字、入試頻出漢字最重要語に習熟する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科との連携による表現活動</li> <li>・小論文講座</li> <li>・論述問題対策</li> <li>・要約練習</li> </ul>	
	第6学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間、社会、自然について、文章の批評や情報収集を通して、考えを発展させ、条件や状況に応じた的確に説明する。</li> <li>・論理性や表現の仕方を評価し、意図や描写の味わいや人間・社会・自然について考えを的確に説明する。</li> <li>・作品の特色を理解して味わい、価値を考察し、日本文化の特質をわかりやすく説明する。</li> <li>・古文単語、古典文法、漢文句法、漢文における重要漢字、入試頻出漢字に習熟する。</li> <li>・表現意図に沿って構成を考え、的確に表現できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科との連携による表現活動</li> <li>・習熟度に応じたきめ細かい指導</li> <li>・大学入試を意識した必修授業と入試対策の選択講座</li> </ul>		

学年	1年	教科・科目 【講座名】	国語	単位数 週の授業時数	4
----	----	----------------	----	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書	「中学校国語1」(光村図書)		「中学校書写」(光村図書)		
補助教材	「国語便覧」(浜島書店)		「日常に使える役立つ文法」(正進社)		
	「小倉百人一首」(文英堂)				
	「意味で覚えて漢字を知る 漢トレ」(いいずな)				
	「徹底演習テキスト」(日本教材出版)				

<b>学習の目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、思考力を伸ばし心情を豊かにする。</li> <li>2 言語文化に対する関心を深め、語彙力を身に付け、国語を尊重する態度を育てる。</li> <li>3 話し合い活動や全体発表を積極的に行い、相手の考えを聞いて内容を理解し、分かりやすく自分の話を組み立て、相手に伝える力を伸ばす。</li> </ol> <p>○相手を尊重しながら、まとまった話し合いができる。 ○構成を工夫して的確に書き、考えをまとめることができる。 ○要旨を的確にとらえるとともに、読書を通して見方や考え方を広げることができる。 ○漢字検定4級以上の漢字、口語文法の単位から自立語の品詞全てに習熟し、歴史的仮名遣い、漢文訓読を理解している。</p>					

<b>評価の方法</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 定期考査(前期中間考査、前期期末考査、後期中間考査、後期期末考査)</li> <li>2 授業中に実施する小テスト</li> <li>3 提出物</li> <li>4 平常の授業態度など</li> </ol> <p>これらを総合的に判断して評価を行う。</p>					

<b>学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日頃から様々な文章に触れ、問題意識をもつことで、ものの見方・考え方をひろげましょう。また、語彙力を伸ばすため、読書や授業の予習で分からない言葉が出てきたら、すぐに辞書で調べ、使い方を理解するとともに、実際に生活の中で使ってみることもポイントです。</li> <li>2 説明的文章では、筆者が何を伝えたいか、主題を考えながら読み、文章構成図をつくりましょう。段落相互の関係を見抜き、要旨をとらえようとすることで、読解力が身に付きます。</li> <li>3 文学的文章では、登場人物の心情を読み取れるように、場面の状況をきちんと把握しましょう。情景描写などに着目し、客観的に読むことで、登場人物の心情やその変化が理解できます。</li> <li>4 古典は声に出して読み、古典独特のリズムを味わいましょう。繰り返し音読するうちに体に染みこみ、内容を理解できるようになるでしょう。また、当時の文化のあり方を理解し、昔の人の気持ちに思いを馳せ、現代と共通の考え方を探ってみましょう。</li> </ol>					

<b>その他</b>					
適宜理解を深めるべく、教科書以外の教材をあつかうことがある。					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	「野原はうたう」 「声を届ける」「書き留める」 「はじまりの風」	○音声の働きや仕組みを理解する。 ○比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使うことができる。 ○心理の変化を表す語彙を増やす。	○必要に応じて記録したり質問したりしながら自分の考えをまとめることができる。 ○詩の内容に応じ、読み方に工夫をする。 ○心情の変化、登場人物の関係について描写を基に読み取ることができる。

5月	「漢字の組み立てと部首」 「情報を聞き取り、要点を伝える」 「ダイコンは大きな根？」 「ちょっと立ち止まって」 「文法」	○文章構成を捉える。 ○比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使うことができる。 ○漢字の知識、口語文法を身に付ける。 ○音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。	○文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。 ○文章の要旨をまとめることができる。
<b>前期中間考査</b>			
6月	「情報整理のレッスン」 「音声の仕組みや働き」 「情報を整理して説明しよう」 「話の構成を工夫しよう」 「文法」	○目的や場面に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 ○音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。	○自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えることができる。 ○言葉の知識を生かし、表現を工夫する
7・8月	「空の詩 三編」 「比喩で広がる言葉の世界」 「情報収集の達人になろう」 「文法」	○比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。	○表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。
<b>前期期末考査</b>			
9月	「大人になれなかった弟たちに……」 「星の花が降るころに」 「項目を立てて書こう」	○読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。	○場面の展開や登場人物相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。
10月	「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」 「根拠を明確にして書こう」	○原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。	○文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。 ○書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。
11月	「聴きひたる 大阿蘇」 「蓬萊の玉の枝」 「今に生きる言葉」	○音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。	○事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
<b>後期中間考査</b>			
12月	「『不便』の価値を見つめ直す」 「原因と結果」 「文法」 「書写」	○原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。	○根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章を作ることができる。
1月	「書写」 「少年の日の思い出」 「二十歳になった日」	○事象や行為、心情を表す語句の量を増やし、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするすることができる。
2月	「構成や描写を工夫して書こう」 「文法」	○事象や行為、心情を表す語句の量を増やし、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	○書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。
<b>学年末考査</b>			
3月	「一年間の学びを振り返ろう」 「文法」	○比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方等を理解し、使うことができる。	○相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。

学 年	2年	教科・科目 【講座名】	国語	単位数 週の授業時数	5
--------	----	----------------	----	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書「中学国語2」（光村図書） 「中学校書写」（光村図書）					
補助教材「国語便覧」（浜島書店）					
「日常に使える役立つ文法」（正進社）					
「つなげて覚える漢字マスター」（浜島書店）					
「小倉百人一首」（文英堂）					
「論理エンジン OS1・2」（水王舎）					
「グラusstep現代文1」（尚文出版）★					
「現代文重要キーワード・書き込みドリル」（旺文社）★					
「古典文法用言徹底ワーク」（尚文出版）★					
「アプローチ小論文」（第一学習社）★					
★…新規購入教材					
<b>学習の目標</b>					
1 「読む」活動を基本に言語感覚を豊かにし、思考力や想像力を伸ばす。					
2 ディスカッション、スピーチなど「話す・聞く」「書く」活動を通して、目的や意図に応じたコミュニケーション能力を高め、伝え合う力を身に付ける。					
3 豊富な語彙力を身につけさせそれらを活用させる能力と、国語を尊重する態度を身に付ける。					
4 古典作品を鑑賞する能力を身に着けるため、古典の基礎知識と読解力を身に着けさせる。					
<b>評価の方法</b>					
1 出席状況（履修条件）					
2 授業中の発言や課題、演習の取り組み状況の観察など					
3 年4回の定期考査、及び小テストの素点					
4 課題や問題集への取り組み状況（提出物など）					
上記を総合的に判断して評価を行う。					
<b>学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）</b>					
1 朝読書などでも、小説だけでなく様々な文章に触れるようにし、読書を通じて語彙を増やすように心がけましょう。抽象的な概念を表す語句が文章中に増えてくるので、語彙を豊かにすることを日常的に意識し、内容が理解できるようにしましょう。					
2 文章の全体と部分との関係、登場人物の言動の意味、立場や考え方の違いなどを踏まえ、内容の理解に役立てましょう。					
3 文章の構成や展開・表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる力を付けましょう。自分の書いた文章を読み直し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して読みやすくわかりやすい文章が書けるように練習しましょう。					
4 古文・漢文は文法を正確に理解し、音読を繰り返して、古人のものの見方、考え方を理解しましょう。					
<b>その他</b>					
・人前で自分の意見を発表することに慣れること。					
・読んでいる文章などが自分の生活や社会とどのように関連するのか常に考えること。					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	アイスプラネット 問いを立てながら聞く	○抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに、多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにする。	○文章全体と部分との関係に注意しながら、首長と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉える。
5月	枕草子 多様な方法で情報を集めよう 構成や展開を工夫して書こう	○現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に現れたものの見方や考え方を知る。 ○意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解する。	○文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする。 ○論理の展開などに注意して来き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。 ○段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫する。
	<b>前期中間考査</b>		
6月	クマゼミ増加の原因を探る 魅力的な提案をしよう 文法 メディアを比べよう	○文の構成について理解し、話や文章の構成や展開について理解を深める。 ○言葉には相手の行動を促す働きがあることに気付く。	○文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉える。 ○文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する。
7・8月	短歌に親しむ 短歌を味わう 言葉の力 類義語・対義語・多義語 翻訳作品を読み比べよう	○表現の持つ重層的な意味を捉える。 ○短歌の特徴を理解する。 ○多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにする。	○観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考える。 ○表現の効果を考えて描写する。
	<b>前期期末考査</b>		
9月	盆土産 字のない葉書 表現を工夫して書こう	○抽象的な概念を表す語句の量を増やす。 ○本や文章には様々な立場や考え方が書かれていることを知る。	○登場人物の言動の意味などについて考えて内容を解釈する。
10月	モアイは語る 根拠の適切さを考えて書こう 立場を尊重して話し合おう	○意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解する。	○観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考える。 ○根拠の適切さを考えて説明や具体例を加える。 ○互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめる。
11月	扇の的 仁和寺にある法師 漢詩の風景	○作品の特徴を生かして朗読する。 ○現代語訳や語注を手掛かりに作品を読むことを通して、古典に現れたものの見方や考え方を知る。	○登場人物の言動の意味などについて考えたりして内容を解釈する。 ○文章の構成や論理の展開、表現の効果について考える。
	<b>後期中間考査</b>		
12月	君は「最後の晩餐」を知っているか 魅力を効果的に伝えよう 文法 書写	○意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解する。 ○情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使う。 ○行書・楷書の違いを確認する。	○目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈する ○行書・楷書の特長を理解して、文字を書く。
1月	研究の現場によるこそ 走れメロス 文法 書写	○本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かす。	○登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈する。 ○文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする。
2月	国語の学びを振り返ろう	○情報と情報との関係について理解する。	○読み手の立ち場に立って表現の効果などを確かめて文章を整える。
	<b>学年末考査</b>		
3月	学習を振り返ろう	○敬語の働きについて理解し、話の中で使う。	○自分の立場や考えが明確になるように根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫する。 ○論理の展開などに注意して来き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。

学年	3年	教科・科目 【講座名】	国語	単位数 週の授業時数	5
----	----	----------------	----	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書	「国語3」（光村図書）			「中学校書写」（光村図書）	
補助教材	「国語便覧」（浜島書店） 「小倉百人一首」（文英堂） 「意味で覚えて漢字を知る 漢トレ」（浜島書店） 「日常に使える役立つ文法」（正進社） 「倫理エンジン OS1・2」（水王舎）★ 「ちくま評論文の読み方 改訂版」（筑摩書房） 「読解現代文必携 キーワードの卵」（尚文出版） 「完全マスター古典文法」（第一学習社） 「説話に学ぶ 用言」（浜島書店） 「核心古文単語351」（尚文出版）				
<b>学習の目標</b>					
1 文章を論理的に理解し、論理的に表現する能力を育成する。 2 伝統的な言語文化に対する関心を深め、語彙力を身に付け続ける態度を育てる。 3 目的や場面に応じて「話す」「聞く」活動や、相手の話を論理的に理解し、論理的に自分の話を組み立て、論理的に相手に伝える力を伸ばす。 4 古典作品を鑑賞するための基本的な古典文法や漢文の決まりに関する知識を身に付ける。 ○異なる立場の相手を尊重しながら話し合いができる。 ○構成を工夫して論理的に文章を書くことができる。 ○読書を通して要旨を的確にとらえ、見方や考え方を広げることができる。 ○口語文法に習熟し、基本的な古典文法、漢文句法を理解している。					
<b>評価の方法</b>					
1 定期考査（前期中間考査、前期期末考査、後期中間考査、後期期末考査） 2 授業中に実施する小テスト 3 対話的な活動でまとめた資料など 4 出席状況、平常の授業態度など 5 提出物 これらを総合的に判断して評価を行う。					
<b>学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）</b>					
1 どんなジャンルでも構いません。たくさん読書をしましょう。また、語彙力を伸ばすため、読書や授業の予習で分からない言葉が出てきたら、すぐに辞書で調べ、使い方を理解するとともに、実際に生活の中で使ってみることもポイントです。 2 説明文では、「結局のところ、筆者は何が言いたいのだろう」という視点が大切です。そのためには段落相互の関係を見抜き、要旨をとらえようとするのが大切です。 3 小説では、批判的に読んだり、評価したりすることが求められます。そのためにも正しく読み取ることが必要です。登場人物の設定、登場人物の行動や物語の展開の仕方などに着目し、文脈に沿って客観的に読むことを意識しましょう。 4 古典は声に出して読み、古典独特のリズムを味わいましょう。繰り返し音読するうちに体に染みこみ、内容を理解できるようになるでしょう。また、当時の文化のあり方を理解し、昔の人の気持ちに思いを馳せ、現代と共通の考え方を探ってみましょう。					
<b>その他</b>					
適宜理解を深めるべく、教科書以外の教材をあつかうことがある。					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「握手」井上ひさし</li> <li>・「論語」孔子</li> <li>・情報の信頼性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○会話表現の特徴と効果を捉える。</li> <li>○心理の変化を表す表現を捉え、自分の考えを伝える。</li> <li>○漢文訓読の方法を学び、音読し特有のリズムを味わう。</li> <li>○文章の特長を捉え、内容理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と意見を交わし、自分の考えを深める。</li> <li>○表現から登場人物や作者の思いを読み、文章に表す。</li> <li>○自分で訓読文を書き、内容を理解できる。</li> <li>○主題から自らを振り返り、考えをまとめる。</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の種類を選んで書こう</li> <li>・熟語の読み方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手意識をもって、分かりやすく書く。</li> <li>○熟語の読み方と適切な使い方を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章の種類における内容の変化を理解する。</li> <li>○読み手の理解が深まる書き方を試す</li> <li>○言葉の知識を生かし、表現に工夫をする。</li> </ul>
<b>前期中間考査</b>			
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「作られた物語を超えて」山極寿一</li> <li>・具体化・抽象化</li> <li>・説得力のある構成を考えよう</li> <li>・合意形成に向けて話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○展開に即して要旨を捉える。</li> <li>○構成を理解して筆者の主張を捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章の要旨をまとめる。</li> <li>○作者の主張を読み、自らの考えを深める。</li> </ul>
7・8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報道文を比較して読もう</li> <li>・俳句の可能性</li> <li>・言葉の釣り糸を垂らす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報の集め方、整理の仕方がわかる。</li> <li>○編集の意図をとらえる</li> <li>○俳句を詠み、味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報を集め、活用する。</li> <li>○伝え方によって異なる部分と異なる部分と比較検討する。</li> <li>○俳句の奥行きをとらえ、自分なりの解釈を確立する。</li> </ul>
<b>前期期末考査</b>			
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉を選ぼう</li> <li>・漢語・和語・外来語</li> <li>・読書生活を豊かに</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○場面に応じた適切な言葉を選ぶ。</li> <li>○主題をとらえる。</li> <li>○気に入った本の推薦文を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉の違いを比較検討する。</li> <li>○主題と自分の体験をつなげることができる。</li> <li>○考えたことを文章に表すことができる。</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶</li> <li>・故郷</li> <li>・万葉・古今・新古今</li> <li>・書写</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉と心の関係から文章の主題を捉える。</li> <li>○古典学習の意義がわかる。</li> <li>○行書の特徴を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉や文化と人間のつながりについて考察を深める。</li> <li>○字の形を意識して行書を書く。</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏草一奥の細道一</li> <li>・それでも、言葉を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○内容を理解して音読し、古文特有のリズムを味わう。</li> <li>○古典常識を身に付ける。</li> <li>○論理的な読解ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○古典の世界に触れ、現代の暮らしと人々の生き方について考察する。</li> <li>○論理的な読解を要約できる。</li> </ul>
<b>後期中間考査</b>			
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本は世界への扉</li> <li>・エルサルバドルの少女ヘース</li> <li>・紛争地の看護師</li> <li>・小論文演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章の特長を捉え、内容理解を深める。</li> <li>○小論文の基本的な書き方について学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主題から自らを振り返り、考えをまとめる。</li> <li>○論理の展開に気を付けながら小論文が書ける。</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの悲しみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○独自の視点で書かれた文章に触れ、理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主題に関して価値観を相対化する。</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温かいスープ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○視点を切り替えることによって、読みを深める。</li> <li>○認識したことと言葉の関係について学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章を、視点を変えて読む意義を考え、考察を深める。</li> <li>○さまざまな表現の特徴を理解し、活用する。</li> </ul>
<b>学年末考査</b>			
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしを束ねないで</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、思いや考えを伝え合える。</li> </ul>

## 社会・地理歴史・公民科 学習指導計画

教科の目標		1 広い視野に立って、現代の社会に対する関心を高める。 2 我が国および世界の形成の歴史的過程と、生活・文化の地域的特色について、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する。 3 国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な自覚と公民的資質を身に付ける。 4 主体的に考えたり、判断したりするための基礎知識を学び、教養を身に付ける。				
学年	区分	区分の目標	学習内容			学習の特色
前期課程	第1学年	基礎学力養成期 社会の知識と好奇心を高め、広い視野を身に付ける。	〔地理的分野〕 ・世界と日本の地域構成 ・人々の生活と環境 ・世界の諸地域 ・日本の地域的特色		〔歴史的分野〕 ・歴史へのとびら ・古代までの日本 ・中世の日本	・地理総合、日本史探究、世界史探究の内容を取り入れた学習 ・千代田区の資料の活用 ・総合的な探究の時間と連携した情報技術の活用 ・世界の地域に関する調査学習の実施
	第2学年		〔地理的分野〕 ・日本の諸地域 ・地域の在り方(地域調査)		〔歴史的分野〕 ・近世の日本 ・開国と近代日本の歩み	・地理総合、日本史探究、世界史探究の内容を取り入れた学習 ・総合的な探究の時間と連携して、情報の収集、史資料の読み方、レポートの書き方などの技法を習得
	第3学年	充実期 現代社会の課題を認識し、分析的思考を身に付ける。	〔公民的分野〕 ・現代社会と私たち ・個人の尊重と日本国憲法 ・現代の民主政治と社会 ・私たちの暮らしと経済 ・地域社会と私たち		〔歴史的分野〕 ・二度の世界大戦と日本 ・現代の日本と私たち	・日本史探究、世界史探究、公共、政治・経済、倫理の内容を取り入れた学習 ・金融学習の実施
	第4学年		〔地理総合〕 ・地図 ・自然環境		〔歴史総合〕 ・近代化と私たち ・国際秩序の変化や大衆化と私たち ・グローバル化	・地理的・歴史的事象の根拠をとらえるために資料を積極的に活用した授業 ・大学の入試問題などを活用した学習
後期課程	第5学年	発展期 国際社会の課題を探求し、系統的思考を身に付ける。	〔世界史探究〕 ・古代～中世	〔日本史探究〕 ・古代～中世	〔公共〕 ・公共の扉 ・自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち ・持続可能な社会づくりの主体となる私たち	・歴史的な思考力や現代の諸課題の解決能力の向上を図るために資料を積極的に活用した授業 ・大学の入試問題などを活用した学習
	第6学年		〔世界史探究〕〔日本史探究〕〔地理探究〕〔公共〕〔倫理〕〔政治・経済〕を自身の進路に応じて選択、学習する。			・現代社会の課題を考えるテーマ学習を実施 ・大学の入試に向けた演習の実施(過去問などを活用し、基本事項の定着と応用力を身に付ける。)

学年	1年	教科・科目 【講座名】	社会【地理的分野、歴史的分野】	単位数 週の授業時数	4
----	----	----------------	-----------------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書	「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」(帝国書院) 「中学校社会科地図」(帝国書院) 「新しい社会 歴史」(東京書籍)				
補助教材	「地理の資料」(正進社)(予定) 「中学歴史資料集 学び考える歴史」(浜島書店)(予定) 「よくわかる社会の学習 地理1」(明治図書)(予定) 「よくわかる社会の学習 歴史1」(明治図書)(予定) 「よくわかる社会の学習 地理2」(明治図書)(予定)				
<b>学習の目標</b>					
1 地理的事象の因果関係や地域間の共通点や相違点を理解し、多面的・多角的に考察し、的確に表現する力を身に付ける。					
2 歴史的事象の基礎的な内容の定着を図るとともに、歴史の大きな流れを理解し、歴史について多面的・多角的に考察する力や説明する力を身に付ける。					
3 地図やグラフ、歴史史料など様々な資料を読み取る力とともに、それらを的確に表現する技能を身に付ける。					
4 社会的事象に関する基本的な知識を身に付け、現代社会の理解に応用できる力を養う。					
<b>評価の方法</b>					
1 4回の定期考査の点数					
2 レポート等の課題					
3 ノート、ワーク等の提出					
<b>学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)</b>					
<p>中学校の社会では、小学校で学習した内容を、地理的分野・歴史的分野・公民的分野の3分野に分けて学習します。このうち1年では、地理的分野と歴史的分野について学習します。それぞれの分野の学び方の基礎を養う段階ですので、1時間、1時間の授業を大切にしてください。</p> <p>1 予習について 復習に重点をおいて学習してほしいため、特に必要ありませんが、事前に教科書の内容を確認しておく、学習内容の理解を深めることができます。</p> <p>2 授業について 授業では、地理的事象や歴史的事象の確認や、因果関係(「なぜ、そのようになるのか」)を中心に授業を行います。これらの事項に関する発問を行いますので、間違いを恐れずに積極的に発言をしましょう。また、グループワークを行う際には、与えられた課題に対する自分の考えを発表するとともに、グループ内の生徒の発表をきちんと聞き、自分の考えを深めていきましょう。 授業内容を振り返るためには、ノートづくりが重要になります。板書内容を写すだけでなく、先生のポイントとなる話や興味をもった内容、疑問に思ったことなどもノートに書き加えながら、後で復習のしやすいノートづくりを心がけましょう。</p> <p>3 復習について 授業ノートを活用しながら、教科書にある「確認しよう」や「説明しよう」に書かれている課題について、文章でまとめるようにしましょう。また、まとめた内容を、自分の言葉で説明できるまで理解を深めましょう。</p>					
<b>その他</b>					
<p>社会科を得意にするためには、社会的事象に対する興味・関心を持つことが何よりの近道です。ですから、図書館で学習内容に関連した本を借りて読んだり、新聞やニュースで取り上げられた内容について自分の考えを深めたり、地理や歴史に関する映像を見たりしましょう。こうして学びの幅を広げていってください。</p>					

月	単元		標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	地理	世界と日本の地域構成 1) 世界の姿1	緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解できる。	緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し、説明できる。
	歴史	歴史へのとびら 1) 歴史をとらえる見方・考え方 2) 身近な地域の歴史	年代の表し方などを理解し、資料から歴史に関する情報を読み取る技能を身に付けている。また、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察できる。	年代の表し方などを理解し、資料から歴史に関する情報を読み取る技能を身に付け、説明できる。また、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、的確に表現できる。
5月	地理	2) 世界の姿2	世界の地域構成の特色を、多面的・多角的に考察できる。	世界の地域構成の特色を、多面的・多角的に考察し、それを的確に表現できる。
	歴史	古代までの日本 1) 世界の古代文明と宗教のおこり	人類の出現と進化、世界の古代文明、三大宗教などについて理解し、考察できる。	人類の出現と進化、世界の古代文明、三大宗教などについて理解、考察し、的確に表現できる。
<b>前期中間考査</b>				
6月	地理	3) 日本の姿	日本の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解し、多面的・多角的に考察できる。	日本の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解し、多面的・多角的に考察し、的確に表現できる。
	歴史	2) 日本列島の誕生と大陸との交流	日本列島における農耕の広まりと生活の変化について理解し、考察できる。	日本列島における農耕の広まりと生活の変化について理解、考察し、的確に表現できる。
7・8月	地理	世界のさまざまな地域 1) 人々の生活と環境	人々の生活と自然及び社会的条件の関係や、世界の人々の生活や環境、宗教について理解し、多面的・多角的に考察できる。	人々の生活と自然及び社会的条件の関係や、世界の人々の生活や環境、宗教の多様性を理解し、多面的・多角的に考察し、的確に表現できる。
	歴史	3) 古代国家の歩みと東アジア世界	大和朝廷による統一の様子と東アジアとの関わりについて理解し、考察できる。	大和朝廷による統一の様子と東アジアとの関わりについて理解、考察し、的確に表現できる。
<b>前期期末考査</b>				
9月	地理	2) 世界の諸地域 ①アジア州	アジア州の地域的特色や社会的課題を理解し、その要因や影響を多面的・多角的に考察できる。	アジア州の地域的特色や社会的課題を理解し、その要因や影響を多面的・多角的に考察し、的確に表現できる。
	歴史	3) 古代国家の歩みと東アジア世界2	律令国家の確立までの過程や、国家の仕組みについて理解し、考察できる。	律令国家の確立までの過程や、国家の仕組みについて理解、考察し、的確に表現できる。
10月	地理	2) 世界の諸地域 ②ヨーロッパ州	ヨーロッパ州の地域的特色や社会的課題を理解し、その要因や影響を多面的・多角的に考察できる。	ヨーロッパ州の地域的特色や社会的課題を理解し、その要因や影響を多面的・多角的に考察し、的確に表現できる。
	歴史	中世の日本 1) 武士の政権の成立	武士の成長から武家政治の成立について理解し、考察できる。	武士の成長から武家政治の成立について理解、考察し、表現できる。
11月	地理	2) 世界の諸地域 ③アフリカ州	アフリカ州の地域的特色や社会的課題を理解し、その要因や影響を多面的・多角的に考察できる。	アフリカ州の地域的特色や社会的課題を理解し、その要因や影響を多面的・多角的に考察し、的確に表現できる。
	歴史	2) ユーラシアの動きと武士の政治の展開	東アジアとの交流や、産業や文化が発達する中で、日本社会や人々の生活の変化について理解し、考察できる。	東アジアでの交流が進み、産業や文化が発達する中で、日本はなぜ多くの戦乱が起きたのかを考察し、表現できる。
<b>後期中間考査</b>				
12月	地理	2) 世界の諸地域 ④北アメリカ州	北アメリカ州の地域的特色や社会的課題を理解し、その要因や影響を多面的・多角的に考察できる。	北アメリカ州の地域的特色や社会的課題を理解し、その要因や影響を多面的・多角的に考察し、的確に表現できる。
	歴史	2) ユーラシアの動きと武士の政治の展開2	東アジアとの交流や、産業や文化が発達する中で、日本社会や人々の生活の変化について理解し、考察できる。	東アジアでの交流が進み、産業や文化が発達する中で、日本はなぜ多くの戦乱が起きたのかを考察し、表現できる。
1月	地理	2) 世界の諸地域 ⑤南アメリカ州	南アメリカ州の地域的特色や社会的課題を理解し、その要因や影響を多面的・多角的に考察できる。	南アメリカ州の地域的特色や社会的課題を理解し、その要因や影響を多面的・多角的に考察し、的確に表現できる。
	歴史	中世の日本 まとめ	中世において、どのような勢力の成長や対立が起こったのかを理解し、考察できる。	古代との比較から中世の特色を多面的・多角的に考察し、表現できる。
2月	地理	2) 世界の諸地域 ⑥オセアニア州	オセアニア州の地域的特色や社会的課題を理解し、その要因や影響を多面的・多角的に考察し、的確に表現できる。	オセアニア州の地域的特色や社会的課題を理解し、その要因や影響を多面的・多角的に考察し、的確に表現できる。
	歴史	近世の日本 1) ヨーロッパ人の出会いと全国統一	ヨーロッパ人との出会いによって日本の社会はどのように変化したのかを理解し、考察できる。	ヨーロッパ人との出会いを経て、なぜ戦乱の世が終わり、をむかえたのかを考察し、表現できる。
<b>学年末考査</b>				
3月	地理	2) 世界の諸地域 まとめ	各州の地域的特色や課題を理解し、各州のつながりを多面的・多角的に考察できる。	各州の地域的特色や課題を理解し、各州のつながりを多面的・多角的に考察し、的確に表現できる。
	歴史	1) ヨーロッパ人の出会いと全国統一2	戦国時代に入り、日本社会や人々の生活がどのように変化したか理解し、考察できる。	戦国時代に入り、日本社会や人々の生活がどのように変化したかを考察し、表現できる。

学年	2年	教科・科目 【講座名】	社会【地理的分野、歴史的分野】	単位数 週の授業時数	4
----	----	----------------	-----------------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書	「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」(帝国書院) 「中学校社会科地図」(帝国書院) 「新しい社会 歴史」(東京書籍)				
補助教材	「地理の資料」(正進社) 「中学歴史資料集 学び考える歴史」(浜島書店) 「よくわかる社会の学習 地理2」(明治図書) 「よくわかる社会の学習 歴史2・3」(明治図書)				
<b>学習の目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地理的事象の因果関係や地域間の共通点や相違点を理解し、多面的・多角的に考察し、的確に表現する力を身に付ける。</li> <li>2 歴史的事象の基礎的な内容の定着を図るとともに、歴史の大きな流れを理解し、歴史について多面的・多角的に考察する力や説明する力を身に付ける。</li> <li>3 様々な資料を読み取る力とともに、それらを的確に表現する技能を身に付ける。</li> <li>4 社会的事象に関する基本的な知識を身に付け、現代社会の理解に応用できる力を養う。</li> </ol>					
<b>評価の方法</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 4回の定期考査の点数</li> <li>2 レポート等の課題や、プレゼンテーション等のパフォーマンス課題</li> <li>3 ノート、ワーク等の提出</li> </ol>					
<b>学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 予習について 復習に重点を置いて欲しいため、特に必要ありませんが、事前に教科書を読むなどしておく、学習内容の理解をより深めることができます。</li> <li>2 授業について 授業では、地理的・歴史的事象の確認や、因果関係を中心に授業を行います。これらの事項に関する発問を行いますので、間違いを恐れずに積極的に発言をしましょう。また、グループワークを行う際には、与えられた課題に対する自分の考えを発表するとともに、グループ内の生徒の発表をきちんと聞き、自分の考えをより深めていきましょう。学びあい、高めあっていきましょう。 授業内容を振り返るためには、ノートづくりが重要となります。板書内容を書き写すだけでなく、先生のポイントとなる話や興味を持った内容、疑問に思ったことなどもノートに書き加えながら、後で復習のしやすいノートづくりを心がけましょう。</li> <li>3 復習について 授業ノートを活用しながら、教科書の「確認しよう」や「説明しよう」にある課題について、文章でまとめましょう。まとめた内容を、自分の言葉で説明できるようになるまで理解を深めましょう。用語の確認、整理に関しては、授業ノートやワークを活用しましょう。また、資料集や地図にもたくさんの情報が載っています。ぜひ、活用しましょう。</li> </ol>					
<b>その他</b>					
<p>社会科を得意にするためには、社会的事象に対する興味・関心を持つことが何よりの近道です。ですから、図書館で学習内容に関連した本を借りて読んだり、新聞やニュースで取り上げられた内容について自分の考えを深めたり、地理や歴史に関する映像を見たりしましょう。こうして学びの幅を広げていってください。</p>					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標	
4月	地理	日本のさまざま地域 1) 身近な地域の調査	地理的なまとめ方の基礎や、読図などの地理的技能を身につけたうえで地域調査を行い、多面的・多角的に考察できる。	地理的なまとめ方の基礎や、読図などの地理的技能を身につけたうえで地域調査を行い、多面的・多角的に考察し、的確に表現できる。
	歴史	近世の日本 2) 江戸幕府の成立と対外政策	江戸幕府は、どのように全国を支配していたのかについて理解している。	なぜ江戸幕府の支配は約260年も続いたのか、内政面から説明できる。
5月	地理	日本のさまざま地域 2) 日本の地域的特色1	日本の自然環境に関する知識を理解し、これらに関する地域的特色や課題を、多面的・多角的に考察できる。	日本の自然環境に関する知識を理解し、これらに関する地域的特色や課題を、多面的・多角的に考察し、的確に表現できる。
	歴史	近世の日本 2) 江戸幕府の成立と対外政策2	江戸幕府は、どのように諸外国や周辺地域と関わっていたのかについて理解している。	なぜ江戸幕府の支配は約260年も続いたのか、外政面から説明できる。
<b>前期中間考査</b>				
6月	地理	日本のさまざま地域 3) 日本の地域的特色2	日本の人口に関する知識を理解し、これらに関する地域的特色や課題を、多面的・多角的に考察できる。	日本の人口に関する知識を理解し、これらに関する地域的特色や課題を、多面的・多角的に考察し、的確に表現できる。
	歴史	近世の日本 3) 産業の発達と幕府政治の動き	江戸時代の産業や文化の発展と、幕政改革について理解している。	産業や文化が発達する中で、なぜ幕府は改革をせまられたのか説明できる。
7・8月	地理	日本のさまざま地域 4) 日本の地域的特色3	日本の資源・エネルギーと産業、交通・通信に関する知識を理解し、これらに関する地域的特色や課題を、多面的・多角的に考察できる。	日本の資源・エネルギーと産業、交通・通信に関する知識を理解し、これらに関する地域的特色や課題を、多面的・多角的に考察し、的確に表現できる。
	歴史	近世の日本 3) 産業の発達と幕府政治の動き2	江戸時代の産業や文化の発展と、幕政改革について理解している。	産業や文化が発達する中で、なぜ幕府は改革をせまられたのか説明できる。
<b>前期期末考査</b>				
9月	地理	日本の諸地域 九州地方 中国・四国地方	九州地方、中国・四国地方に関する地域的特色を理解し、それを説明できる。	自然環境や交通網・通信網の整備が地域に与える影響について説明できる。
	歴史	近世の日本 まとめ	近世では、どのように社会が安定したのかを理解し、考察できる。	中世との比較から近世の特色を多面的・多角的に考察し、表現できる。
10月	地理	日本の諸地域 近畿地方	近畿地方に関する地域的特色を理解し、それを説明できる。	歴史的景観の保全の取り組みが地域に与える影響について説明できる。
	歴史	開国と近代日本の歩み 1) 欧米における近代化の進展	市民革命、産業革命は欧米諸国にどのような影響を与えたのかについて理解している。	なぜ欧米諸国は世界に先がけて発展したのか、について説明することができる。
11月	地理	日本の諸地域 中部地方	中部地方に関する地域的特色を理解し、それを説明できる。	産業の発展が地域に与える影響について説明できる。
	歴史	開国と近代日本の歩み 2) 欧米の進出と日本の開国	欧米とアジアとの関係が変化する中で、江戸幕府がいかにほろんでいったのかについて理解している。	欧米とアジアとの関係が変化する中、なぜ江戸幕府はほろんだか説明できる。
<b>後期中間考査</b>				
12月	地理	日本の諸地域 関東地方	関東地方に関する地域的特色を理解し、それを説明できる。	人口の集中が地域に与える影響について説明できる。
	歴史	開国と近代日本の歩み 3) 明治維新	新政府は近代国家を造るためにどのような改革を行ったのかについて理解している。	なぜ日本ではほかのアジア諸国に先がけて、近代化が進んだのか説明できる。
1月	地理	日本の諸地域 東北地方	東北地方に関する地域的特色を理解し、それを説明できる。	人々の生活や文化が地域に与える影響について説明できる。
	歴史	開国と近代日本の歩み 3) 明治維新2	国会の開設や憲法の制定のためにどのような改革を行ったのかについて理解している。	なぜ日本ではほかのアジア諸国に先がけて、近代化が進んだのか説明できる。
2月	地理	日本の諸地域 北海道地方	北海道地方に関する地域的特色を理解し、それを説明できる。	自然環境が人々の生活や産業に与える影響について説明できる。
	歴史	開国と近代日本の歩み 4) 日清・日露戦争と近代産業	日清・日露戦争は国内外にどのような影響を与えたのかについて理解している。	近代化を進める中で、なぜ日本は日清戦争・日露戦争をすることになったのか説明できる。
<b>学年末考査</b>				
3月	地理	地域の在り方	学習内容をふまえ、地域を發展させていくための方法についてまとめ、適切に表現することができる。	地理的な見方・考え方を働かせて地域をとらえ、發展させていく方法についてまとめ、適切に表現することができる。
	歴史	開国と近代日本の歩み まとめ	近代化によって、日本の国家や社会はどのように変化したのかを理解し、考察できる。	明治時代以降に強まった世界との結び付きについて説明できる。

学年	3年	教科・科目 【講座名】	社会【歴史的分野、公民的分野】	単位数 週の授業時数	4
----	----	----------------	-----------------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書	「新しい社会 歴史」(東京書籍) 「新しい社会 公民」(東京書籍)				
補助教材	「中学歴史資料集 学び考える歴史」(浜島書店) 「よくわかる社会の学習 歴史2・3」(明治図書) 「新しい公民」(浜島書店)「よくわかる社会の学習 公民」(明治図書)				
<b>学習の目標</b>					
<p>1 【歴】近現代の日本と世界の歴史について学び、歴史の大きな流れを世界史的視野に立って客観的に理解する。 【公】現代の政治・経済・国際関係について、歴史的な経緯に基づいて客観的に理解する。</p> <p>2 【歴】我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を高める。 【公】現代社会の諸課題について主体的に考察し、公正に判断する力や良識ある公民として必要な能力・態度を身に付ける。</p> <p>3 情報やデータを的確に読みこなし、分析する力を身に付ける。</p> <p>4 調査・研究した事柄を的確に表現する力を身に付ける。</p>					
<b>評価の方法</b>					
<p>1 4回の定期考査の点数</p> <p>2 レポート等の課題や、プレゼンテーション等のパフォーマンス課題</p> <p>3 ノート、ワーク等の提出</p>					
<b>学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)</b>					
<p>歴史的分野の内容を理解し定着させるためには、当時の社会の雰囲気や人々の暮らしぶり等、歴史のイメージを持っているかどうかがかギになります。このイメージがないまま、ただひたすらに膨大な量の情報を無意味に暗記しようとしても、機械ではない生身の人間に覚えさせるはずがありません。小説、新聞、雑誌、駅での配布物、テレビ番組(歴史番組、教養番組)、ドラマ、映画など、歴史に関する情報は身の回りのいたるところにあります。アンテナを張り巡らせ、常に歴史の情報を収集して蓄積し、イメージやエピソードと関連付けた、意味記憶を定着させましょう。そのうえで、友人同士で議論することが、他のいかなる方法と比較しても一番学びが深まり知識が定着する方法です。</p> <p>公民的分野に関しては、授業で学習した内容について、現実の世の中で起こっている出来事に即して考えることが求められます。時事問題には常に注目していきましょう。テレビのニュースだけではなく、新聞も読み、とくに関心を持った出来事については、記事をスクラップし、経過を追い、自分なりの考察を加えてコメントをつけることなどもしてみましょう。</p> <p>予習は教科書を一読する程度で構いません。復習をより重視してください。用語の確認、整理には授業で配布したワークシートを活用しましょう。個々の用語とその意味を理解するだけでなく、社会の「しくみ」や他のことととの関連性のなかでとらえるように心がけましょう。</p>					
<b>その他</b>					
<p>公民的分野の学習に関しては、現代社会の諸課題について、地理的分野・歴史的分野で学習した内容も踏まえて考察できるようにしましょう。公民的分野で学習する内容は、後期課程で学ぶ地理や倫理、世界史、日本史、政経の理解にも欠かせません。4年次以降での学習も意識しながら、授業に臨みましょう。</p>					

月	単元		標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	歴史	日清・日露戦争と近代産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>日清・日露戦争の原因と結果、その後国内外の情勢を理解する。</li> <li>近代文化の形成を学問や科学の分野で国際的な業績が生まれたことや教育の普及から理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本をとりまく、当時の国際関係について、さまざまな角度から考察し、説明できる。</li> <li>近代文化は、伝統的な文化の上に、欧米文化を受容して形成されたものであることを理解し、説明できる。</li> </ul>
	公民	人権と日本国憲法①	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権がどのように発展してきたのかを理解する。</li> <li>憲法の基本原則を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権思想の歴史や日本国憲法の制定、平和主義について、歴史的な分野の学習を踏まえて理解をし、説明できる。</li> </ul>
5月	歴史	第一次世界大戦と日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>第一次世界大戦を、起こった背景、経過、被害などを通して理解する。</li> <li>戦後の国際協調について国際連盟の面と日本の対外政策面から理解をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>帝国主義の背景や現在まで続く民族問題について考察し、説明できる。</li> <li>戦後の欧米諸国の動きを理解し、説明できる。</li> </ul>
	公民	人権と日本国憲法②	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権がどのように発展してきたのかを理解する。</li> <li>憲法の基本原則を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権思想の歴史や日本国憲法の制定、平和主義について、歴史的な分野の学習を踏まえて理解をし、説明できる。</li> </ul>
<b>前期中間考査</b>				
6月	歴史	大正デモクラシーの時代 世界恐慌と日本の中国侵略	<ul style="list-style-type: none"> <li>大正デモクラシーについて、護憲運動や普通選挙の実現を通して理解する。</li> <li>世界恐慌の概要を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大正期の教育や、市民生活の変化による文化の変容について理解をする。</li> <li>資本主義経済の仕組みについて理解し、説明できる。</li> </ul>
	公民	人権と共生社会①	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権尊重の役割と共生社会を築く取り組みについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人を尊重し、共生社会を実現するために自分たちにできることについて考察し説明できる。</li> </ul>
7・8月	歴史	世界恐慌と日本の中国侵略	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファシズムの実体や、日本に与えた影響について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファシズムの問題点について現代の社会と関連させながら理解し、説明できる。</li> </ul>
	公民	人権と共生社会②	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権尊重の役割と共生社会を築く取り組みについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人を尊重し、共生社会を実現するために自分たちにできることについて考察し説明できる。</li> </ul>
<b>前期期末考査</b>				
9月	歴史	世界恐慌と日本の中国侵略	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の中国侵略の実体とそれに対する中国民衆の動きを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当時の日本の状況と中国の民衆の立場を理解し、説明できる。</li> </ul>
	公民	これからの人権保障	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会の発展にともない主張されるようになった権利について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットと人権との関係や人権保障の国際的な広がりについて理解を深め、解決策について多面的に考察し、説明できる。</li> </ul>
10月	歴史	第二次世界大戦と日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦争がヨーロッパで起こり、拡大していった経緯を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第二次世界大戦の原因や概要について理解させ、ヨーロッパとアジアの動きを比較しながら日本の動向を理解し、説明できる。</li> </ul>
	公民	現代の民主政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>民主主義の考え方と政治の関係、政治参加の方法としての選挙について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選挙に関する課題について多面的な視点から考察し、表現できる。</li> </ul>
11月	歴史	戦後日本の出発 冷戦と日本の発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>第二次世界大戦後の日本の民主化と再建、国際社会への復帰について、世界の動きと関連させながら理解する。</li> <li>高度経済成長期以降から現在までの日本と世界の動きの概要を国民の生活と関連させて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>敗戦後の日本の状況や発生した問題や、戦前との比較を通して、日本の戦後の状況を理解し、説明できる。</li> <li>高度経済成長期の日本国内の変化や、国際的な立場の変化について理解し、説明できる。</li> </ul>
	公民	現代の民主政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>民主主義の考え方と政治の関係、政治参加の方法としての選挙について理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選挙に関する課題について多面的な視点から考察し、表現できる。</li> </ul>
		消費生活と経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な消費社会を中心に経済活動の意義を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な消費社会を中心に経済活動の意義を理解し説明することができる。</li> </ul>
<b>後期中間考査</b>				
12月	歴史	新たな時代の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷戦終結から現在までの日本の歩み理解し、将来の日本と世界について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各家庭における冷戦終結から現在までの出来事と、日本や世界の歴史を比較しながら考察し、説明できる。</li> </ul>
	公民	国の政治の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> <li>三権のあり方や仕組みについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国の政治の課題について、様々な資料を用いて比較し、理解するとともに説明できる。</li> </ul>
1月	公民	生産と労働、価格の働きと金融	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済活動が、生活の維持・向上のために不可欠であることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の企業のあり方を多面的に理解し、説明できる。</li> </ul>
	公民	国の政治の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> <li>三権のあり方や仕組みについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国の政治の課題について、様々な資料を用いて比較し、理解するとともに説明できる。</li> </ul>
2月	公民	地方自治と私①	<ul style="list-style-type: none"> <li>国や地方公共団体が果たしている役割、財政、租税の意義と納税の義務を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方財政の考え方、仕組みについて理解し、説明できる。</li> </ul>
	公民	これからの経済と社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからの日本経済の諸課題、豊かな社会とはどのような社会なのかについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境保全や公害の防止をはじめ、豊かな社会実現に向けて何が必要かを考察し、表現できる。</li> </ul>
<b>学年末考査</b>				
3月	公民	地方自治と私② 地球社会と私たち	<ul style="list-style-type: none"> <li>国や地方公共団体が果たしている役割、財政、租税の意義と納税の義務を理解する。</li> <li>国際社会の現状や諸課題について、理解するとともに日本の果たすべき役割を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方財政の考え方、仕組みについて理解し、説明できる。</li> <li>世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が取り組める取組について考察し、表現できる。</li> </ul>

## 数学科 学習指導計画

教科の目標		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中学数学で学んだ基礎的な概念や原理・法則を高校数学につなげて体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高める。</li> <li>2 数学的活動を通して、その楽しさを実感しながら、創造性の基礎を培う。</li> <li>3 数学のよさを認識し、既習事項を積極的に活用して、数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。</li> <li>4 目標に応じた学力を身に付け、自己の進路実現を図る。</li> </ol>				
学年	区分	区分の目標	学習内容		学習の特色	
前期課程	第1学年	基礎学力養成期	数学の表現や計算方法ととも、日常生活の様々な事象を数学的に考察し、表現する能力を高める。	・正負の数 ・文字式の計算 ・1次方程式 ・連立方程式 ・1次不等式 (I) ・資料の整理と活用 ・平面図形 ・空間図形 ・比例と反比例 ・1次関数 ・図形と合同 ・資料の整理と活用	・習熟度別の少人数展開授業	
	第2学年			・三角形と四角形 ・確率 ・展開と因数分解 ・平方根・2次方程式 ・円、図形と相似 ・三平方の定理 ・関数 $y = ax^2$		・習熟度別の少人数展開授業 ・図形分野では、操作活動や作図と証明による言語活動を行う。
	第3学年	充実期	さまざまな事柄を数学的に考察し表現するとともに、数学的論拠に基づいて思考、判断する態度を身に付ける。	・数と式 (指数法則含む) (I・II) ・複素数と方程式 (II) ・2次関数とグラフ (I) ・平面図形、空間図形 (A) ・確率と標本調査 (I・A) ・集合と論理 (A)	・高校数学の内容に入る ・習熟度別の少人数展開授業	
第4学年	[数学I] ・三角比 ・データの分析			[数学A] ・場合の数と確率 ・数学と人間の活動 ・平面図形の復習 空間図形の復習	・数学I、Aともに習熟度別の少人数展開授業 ・年度の途中で数学IIを履修する	
後期課程	第5学年	発展期	希望進路の実現に向け既習内容を活用し、数学的に問題解決を図る能力を高める。	[数学II] ・三角関数 ・指数関数、対数関数 ・図形と方程式 ・微分法と積分法		[数学B] ・数列 ・統計的な推測
	第6学年			[数学III] ・極限 ・微分法 ・積分法	[数学演習] ・数学IAII BCの演習	[数学C] ・ベクトル ・式と曲線
	第6学年		[数学探究III C] [理系数学探究演習] [文系数学探究演習] [総合数学IA]、[総合数学II BC] ・大学入試総合演習	・総合数学IA・II BC以外は習熟度 ・進路別の少人数展開授業		

学年	1年	教科・科目 【講座名】	数学 【発展クラス】	単位数 週の授業時数	5
----	----	----------------	------------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書「新編 新しい数学 ～MATH CONNECT 数学のつながり～」(東京書籍)					
補助教材「改訂版 体系数学1(代数編)」(数研出版)					
「改訂版 体系数学1(幾何編)」(数研出版)					
「改訂版 体系数学2(代数編)」(数研出版)					
「改訂版 体系問題集 数学1(代数編)標準」(数研出版)					
「改訂版 体系問題集 数学1(幾何編)標準」(数研出版)					
「改訂版 体系問題集 数学2(代数編)標準」(数研出版)					
<b>学習の目標</b>					
1 数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いることや方程式の意味を理解するとともに、数量の関係や法則などを表現して処理する能力を培う。					
2 文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりする能力を養うとともに、連立二元一次方程式について理解し用いる能力を培う。					
3 平面図形や空間図形についての観察、操作や実験などの活動を通して、図形に対する直感的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。					
4 基本的な平面図形の性質について、理解を深めるとともに、図形の性質の考察における数学的な推論の必要性と意味及びその方法を理解し、論理的に考察し表現する能力を培う。					
5 具体的な事象を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数の関係を見だし表現し考察する能力を養う。					
6 データ分析における基本的な用語の意味を理解し、処理する力を身につける。					
7 上記1～6における発展的な問題に関しても触れることで、将来的な数学的思考力を高める。					
<b>評価の方法</b>					
1. 年4回の定期考査		以下の基準で評定を決める 5…達成率85%以上 4…達成率75%以上85%未満 3…達成率45%以上75%未満 2…達成率20%以上45%未満 1…達成率20%未満			
2. 単元テスト、小テスト					
3. 問題集などの課題への取り組み状況					
4. 授業中への取り組み状況					
※1, 2の項目を80%、3, 4の項目を20%に換算し、総合的に評価を行い右の達成率の基準で評定を決める。					
<b>学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)</b>					
数学は既習事項を利用する教科である。したがって、前回の授業で学んだことを復習し、さらに次の授業の内容を予習してから授業に入ることが望ましい。					
1 授業について 授業は入力・理解・応用・確認の4段階を繰り返すことで成立する。解説や教材を通して定理や公式を自分自身に入力する。自分でじっくり考えその意味や、それが導き出された過程(証明)を理解する。自分の考えたことを積極的に発言・問題演習で応用する。発言が趣旨に沿っているか、問題演習でどのような点に着眼すると解答を導くことができるのかを確認する。授業中にノートを使うことは、書くという行為や記録をまとめることがそれぞれの段階の一助となるため必須とする。					
2 復習について 授業中に解いた練習問題や、問題集にある授業で扱った内容の問題を解き、理解を深める。授業のノートや参考書を活用し、模範解答を利用して解答方法を学び、あきらめず自力で完答できるまで繰り返し取り組んでほしい。他の単元との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。					
3 予習について 復習をした上で、行うことが望ましい。前回の授業の先の部分の教材に目を通しておき、どんな内容を学習するのかを知っておくと、授業に参加しやすい。					
<b>その他</b>					
・ 通年で習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査の結果によりクラス編成を見直す。					
・ 授業に関する質問は、担当の教員だけでなく、数学科の教員ならば誰でもよいので積極的に質問すること。					

月	単元	学習目標
4月	体系数学1 代数編 第1章 正の数と負の数 ・正の数と負の数 ・加法と減法, 乗法と除法 ・四則の混じった計算	具体的な場面で正の数と負の数を用いて表現したり処理したりできる。その上で、複雑な四則演算にも早く正確な処理ができる。
5月	第2章 式の計算 ・文字式 ・多項式の計算 ・文字式の利用	異なる単位をそろえ, 同類項でまとめる。また, 規則性を見出し, 文字式を用いて説明することができる。また, 文字を用いるとき, 取りうる値の範囲を意識できる。
<b>前期中間考査</b>		
6月	第3章 方程式 ・方程式とその解 ・1次方程式の解き方 ・1次方程式の利用	一元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用することができる。また, 解答において適切に自分の考えを説明することができる。
7・8月	・連立方程式 ・連立方程式の利用	連立二元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用することができる。
<b>前期期末考査</b>		
9月	体系数学1 幾何編 第1章 平面図形 ・平面図形の基礎, 図形の移動 ・作図・面積と長さ	対称や移動など, 図形を多角的に捉え, 適切に作図し, 面積や長さを求めることができる。また, 平面図形に成り立つ性質についてその理由を的確に表現できる。
10月	第2章 空間図形 ・いろいろな立体 ・空間における平面と直線 ・立体の表面積と体積	立体の切断面を考察することができる。また, 展開図を考え, 辺や面の位置関係を適切に捉えることができる。表面積・体積を正しく計算処理できる。
11月	体系数学1 代数編 第4章 不等式 ・不等式の性質 ・不等式の解き方 ・不等式の利用 ・連立不等式	不等式を適切に変形し, 解くことができる。 $x$ についての不等式の解が分かっているとき定数の値を求めることができる。応用的な事象を不等式で表現し, 的確に処理できる。不等式の性質を理解し, 問題の解決に活用できる。
<b>後期中間考査</b>		
12月	第5章 1次関数 ・比例, 反比例とそのグラフ ・比例, 反比例の利用 ・1次関数とそのグラフ	比例, 反比例の性質を理解し, 値域や定義域などを踏まえてグラフに書き表すことができる。また, グラフから式を読み取ることができる。
1月	・1次関数の方程式 ・1次関数の利用	与えられた条件から1次関数を求めることができる。1次関数を利用して具体的な問題を解くことができる。
2月	体系数学2 代数編 第5章 データの活用 ・資料の整理, 代表値 ・データの散らばりと四分位範囲	ヒストグラムや代表値の必要性和意味を理解し, 資料の傾向をとらえ説明することができる。
<b>学年末考査</b>		
3月	体系数学1 幾何編 第3章 図形と合同 ・平行線と角 ・多角形の内角と外角	多角形を三角形に分けて考えることができる。図形の性質を定義から1つずつ作り上げていくことを理解する。

学年	1年	教科・科目 【講座名】	数学 【標準クラス】	単位数 週の授業時数	5
----	----	----------------	------------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>	
教科書「数学の世界 ～MATH CONNECT 数学のつながり～」(大日本図書)	
補助教材「改訂版 体系数学1(代数編)」(数研出版)	
「改訂版 体系数学1(幾何編)」(数研出版)	
「改訂版 体系数学2(代数編)」(数研出版)	
「改訂版 体系問題集 数学1(代数編)標準」(数研出版)	
「改訂版 体系問題集 数学1(幾何編)標準」(数研出版)	
「改訂版 体系問題集 数学2(代数編)標準」(数研出版)	
<b>学習の目標</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いることや方程式の意味を理解するとともに、数量の関係や法則などを表現して処理する能力を培う。</li> <li>2 文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりする能力を養うとともに、連立二元一次方程式について理解し用いる能力を培う。</li> <li>3 平面図形や空間図形についての観察、操作や実験などの活動を通して、図形に対する直感的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。</li> <li>4 基本的な平面図形の性質について、理解を深めるとともに、図形の性質の考察における数学的な推論の必要性と意味及びその方法を理解し、論理的に考察し表現する能力を培う。</li> <li>5 具体的な事象を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数の関係を見だし表現し考察する能力を養う。</li> <li>6 データ分析における基本的な用語の意味を理解し、処理する力を身につける。</li> </ol>	
<b>評価の方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年4回の定期考査</li> <li>2. 単元テスト、小テスト</li> <li>3. 問題集などの課題への取り組み状況</li> <li>4. 授業中への取り組み状況</li> </ol> <p>※1, 2の項目を80%、3, 4の項目を20%に換算し、総合的に評価を行い右の達成率の基準で評価を決める。</p>	<p>以下の基準で評価を決める</p> <p>5 … 達成率 85%以上</p> <p>4 … 達成率 75%以上 85%未満</p> <p>3 … 達成率 45%以上 75%未満</p> <p>2 … 達成率 20%以上 45%未満</p> <p>1 … 達成率 20%未満</p>
<b>学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)</b>	
<p>数学は既習事項を利用する教科である。したがって、前回の授業で学んだことを復習し、さらに次の授業の内容を予習してから授業に入ることが望ましい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業について <p>授業は入力・理解・応用・確認の4段階を繰り返すことで成立する。解説や教材を通して定理や公式を自分自身に入力する。自分でじっくり考えその意味や、それが導き出された過程(証明)を理解する。自分の考えたことを積極的に発言・問題演習で応用する。発言が趣旨に沿っているか、問題演習でどのような点に着目すると解答を導くことができるのかを確認する。授業中にノートを使うことは、書くという行為や記録をまとめることがそれぞれの段階の一助となるため必須とする。</p> </li> <li>2 復習について <p>授業中に解いた練習問題や、問題集にある授業で扱った内容の問題を解き、理解を深める。授業のノートや参考書を活用し、模範解答を利用して解答方法を学び、あきらめず自力で完答できるまで繰り返し取り組んでほしい。他の単元との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。</p> </li> <li>3 予習について <p>復習をした上で、行うことが望ましい。前回の授業の先の部分の教材に目を通しておき、どんな内容を学習するのかを知っておくと、授業に参加しやすい。</p> </li> </ol>	
<b>その他</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通年で習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査の結果によりクラス編成を見直す。</li> <li>・ 授業に関する質問は、担当の教員だけでなく、数学科の教員ならば誰でもよいので積極的に質問すること。</li> </ul>	

月	単元	学習目標
4月	体系数学1 代数編 第1章 正の数と負の数 ・正の数と負の数 ・加法と減法, 乗法と除法 ・四則の混じった計算	具体的な場面で正の数と負の数を用いて表現したり処理したりできる。
5月	第2章 式の計算 ・文字式 ・多項式の計算 ・文字式の利用	異なる単位をそろえ, 同類項でまとめる。また, 規則性を見出し, 文字式を用いて説明することができる。
<b>前期中間考査</b>		
6月	第3章 方程式 ・方程式とその解 ・1次方程式の解き方 ・1次方程式の利用	一元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用することができる。
7・8月	・連立方程式 ・連立方程式の利用	連立二元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用することができる。
<b>前期期末考査</b>		
9月	体系数学1 幾何編 第1章 平面図形 ・平面図形の基礎, 図形の移動 ・作図・面積と長さ	対称や移動など, 図形を多角的に捉え, 適切に作図し, 面積や長さを求めることができる。
10月	第2章 空間図形 ・いろいろな立体 ・空間における平面と直線 ・立体の表面積と体積	立方体の切断面を考察することができる。立方体の展開図を考え, 辺や面の位置関係を適切に捉えることができる。表面積・体積を正しく計算処理できる。
11月	体系数学1 代数編 第4章 不等式 ・不等式の性質 ・不等式の解き方 ・不等式の利用 ・連立不等式	不等式を適切に変形し, 1次不等式, 連立不等式を解くことができる。応用的な事象を不等式で表現し, 的確に処理できる。不等式の性質を理解し, 問題の解決に活用できる。
<b>後期中間考査</b>		
12月	第5章 1次関数 ・比例, 反比例とそのグラフ ・比例, 反比例の利用 ・1次関数とそのグラフ	比例, 反比例の性質を理解し, 値域や定義域などを踏まえてグラフに書き表すことができる。また, グラフから式を読み取ることができる。
1月	・1次関数の方程式 ・1次関数の利用	与えられた条件から1次関数を求めることができる。また, 具体的な問題を, 1次関数を利用して解くことができる。
2月	体系数学2 代数編 第5章 データの活用 ・資料の整理, 代表値 ・データの散らばりと四分位範囲	ヒストグラムや代表値の必要性和意味を理解し, 資料の傾向をとらえることができる。
<b>学年末考査</b>		
3月	体系数学1 幾何編 §3 図形と合同 ・平行線と角 ・多角形の内角と外角	多角形を三角形に分けて考えることができる。

学年	1年	教科・科目 【講座名】	数学 【基礎クラス】	単位数 週の授業時数	5
----	----	----------------	------------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>	
教科書「数学の世界 ～MATH CONNECT 数学のつながり～」(大日本図書)	
補助教材「改訂版 体系数学1(代数編)」(数研出版)	
「改訂版 体系数学1(幾何編)」(数研出版)	
「改訂版 体系数学2(代数編)」(数研出版)	
「改訂版 体系問題集 数学1(代数編)標準」(数研出版)	
「改訂版 体系問題集 数学1(幾何編)標準」(数研出版)	
「改訂版 体系問題集 数学2(代数編)標準」(数研出版)	
<b>学習の目標</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いることや方程式の意味を理解するとともに、数量の関係や法則などを表現して処理する能力を培う。</li> <li>2 文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりする能力を養うとともに、連立二元一次方程式について理解し用いる能力を培う。</li> <li>3 平面図形や空間図形についての観察、操作や実験などの活動を通して、図形に対する直感的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。</li> <li>4 基本的な平面図形の性質について、理解を深めるとともに、図形の性質の考察における数学的な推論の必要性と意味及びその方法を理解し、論理的に考察し表現する能力を培う。</li> <li>5 具体的な事象を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数の関係を見だし表現し考察する能力を養う。</li> <li>6 データ分析における基本的な用語の意味を理解し、処理する力を身につける。</li> <li>7 上記1～6について、特に基礎の理解と計算処理力を高めることに重点をおく。</li> </ol>	
<b>評価の方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年4回の定期考査</li> <li>2. 単元テスト、小テスト</li> <li>3. 問題集などの課題への取り組み状況</li> <li>4. 授業中への取り組み状況</li> </ol> <p>※1, 2の項目を80%、3, 4の項目を20%に換算し、総合的に評価を行い右の達成率の基準で評価を決める。</p>	<p>以下の基準で評価を決める</p> <p>5 … 達成率 85%以上</p> <p>4 … 達成率 75%以上 85%未満</p> <p>3 … 達成率 45%以上 75%未満</p> <p>2 … 達成率 20%以上 45%未満</p> <p>1 … 達成率 20%未満</p>
<b>学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)</b>	
<p>数学は既習事項を利用する教科である。したがって、前回の授業で学んだことを復習し、さらに次の授業の内容を予習してから授業に入ることが望ましい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業について <p>授業は入力・理解・応用・確認の4段階を繰り返すことで成立する。解説や教材を通して定理や公式を自分自身に入力する。自分でじっくり考えその意味や、それが導き出された過程(証明)を理解する。自分の考えたことを積極的に発言・問題演習で応用する。発言が趣旨に沿っているか、問題演習でどのような点に着眼すると解答を導くことができるのかを確認する。授業中にノートを使うことは、書くという行為や記録をまとめることがそれぞれの段階の一助となるため必須とする。</p> </li> <li>2 復習について <p>授業中に解いた練習問題や、問題集にある授業で扱った内容の問題を解き、理解を深める。授業のノートや参考書を活用し、模範解答を利用して解答方法を学び、あきらめず自力で完答できるまで繰り返し取り組んでほしい。他の単元との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。</p> </li> <li>3 予習について <p>復習をした上で、行うことが望ましい。前回の授業の先の部分の教材に目を通しておき、どんな内容を学習するのかを知っておくと、授業に参加しやすい。</p> </li> </ol>	
<b>その他</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通年で習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査の結果によりクラス編成を見直す。</li> <li>・ 授業に関する質問は、担当の教員だけでなく、数学科の教員ならば誰でもよいので積極的に質問すること。</li> </ul>	

月	単元	学習目標
4月	体系数学1 代数編 第1章 正の数と負の数 ・正の数と負の数 ・加法と減法, 乗法と除法 ・四則の混じった計算	具体的な場面で正の数と負の数を用いて表現したり処理したりできる。特に基礎計算力を身につける。
5月	第2章 式の計算 ・文字式 ・多項式の計算 ・文字式の利用	異なる単位をそろえ, 同類項でまとめる計算処理が的確にできる。また, 規則性を見出し, 文字式を用いることができる。
<b>前期中間考査</b>		
6月	第3章 方程式 ・方程式とその解 ・1次方程式の解き方 ・1次方程式の利用	一元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用することができる。特に計算法則を正しく理解する。
7・8月	・連立方程式 ・連立方程式の利用	連立二元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用することができる。
<b>前期期末考査</b>		
9月	体系数学1 幾何編 第1章 平面図形 ・平面図形の基礎, 図形の移動 ・作図・面積と長さ	対称や移動など, 図形を多角的に捉え, 適切に作図し, 面積や長さを求めることができる。
10月	第2章 空間図形 ・いろいろな立体 ・空間における平面と直線 ・立体の表面積と体積	立方体の切断面を考察することができる。展開図を考え, 辺や面の位置関係を適切に捉えることができる。表面積・体積を正しく計算処理できる。
11月	体系数学1 代数編 第4章 不等式 ・不等式の性質 ・不等式の解き方 ・不等式の利用 ・連立不等式	不等式を適切に変形し, 解くことができる。不等式の性質を理解し, 問題の解決に活用できる。
<b>後期中間考査</b>		
12月	第5章 1次関数 ・比例, 反比例とそのグラフ ・比例, 反比例の利用 ・1次関数とそのグラフ	比例, 反比例の性質を理解し, 値域や定義域などを踏まえてグラフに書き表すことができる。
1月	・1次関数の方程式 ・1次関数の利用	与えられた条件から1次関数を求めることができる。1次関数の方程式から通る点の座標を計算することができる。
2月	体系数学2 代数編 第5章 データの活用 ・資料の整理, 代表値 ・データの散らばりと四分位範囲	ヒストグラムや代表値の必要性和意味を理解し, 資料の傾向をとらえることができる。
<b>学年末考査</b>		
3月	体系数学1 幾何編 §3 図形と合同 ・平行線と角 ・多角形の内角と外角	多角形を三角形に分けて考えることができる。

学年	2年	教科・科目 【講座名】	数学【発展クラス】	単位数 週の授業時数	5
----	----	----------------	-----------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書「新編 新しい数学 ~MATH CONNECT 数学のつながり~」（東京書籍）					
補助教材「改訂版 体系数学2（代数編）」（数研出版）					
「改訂版 体系問題集 数学2（代数編 標準）」（数研出版）					
「改訂版 体系数学1（幾何編）」（数研出版）					
「改訂版 体系問題集 数学1（幾何編 標準）」（数研出版）					
「改訂版 体系数学2（幾何編）」（数研出版）					
「改訂版 体系問題集 数学2（幾何編 標準）」（数研出版）					
学習の目標					
1 式の計算、平方根、2次方程式、関数 $y = ax^2$ 、確率、図形と相似と円または三平方の定理における考え方に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断する力を身につける。					
2 式の計算、平方根、2次方程式、関数 $y = ax^2$ 、確率、図形と相似と円または三平方の定理において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える力を身につけたりする。					
3 式の計算、平方根、2次方程式、関数 $y = ax^2$ 、確率、図形と相似と円または三平方の定理において、事象を数学的な表現・処理や推論する力を身につける。					
4 式の計算、平方根、2次方程式、関数 $y = ax^2$ 、確率、図形と相似と円または三平方の定理における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、発展的な知識を身につける。					
5 上記1～4について発展的内容の問題にも触れることで将来的な数学的思考力とその表現力を養う。					
評価の方法					
1. 年4回の定期考査					
2. 単元テスト、小テスト					
3. 問題集などの課題への取り組み状況					
4. 授業中の取り組み状況					
※1, 2の項目を70%、3, 4の項目を30%に換算し、総合的に評価を行い右の達成率の基準で評価を決める。					
<p style="text-align: center;">以下の基準で評価を決める</p> <p>5 … 達成率 85%以上</p> <p>4 … 達成率 75%以上 85%未満</p> <p>3 … 達成率 45%以上 75%未満</p> <p>2 … 達成率 20%以上 45%未満</p> <p>1 … 達成率 20%未満</p>					
学習のアドバイス（授業への臨み方、復習や予習の方法）					
数学は既習事項を利用する教科である。したがって、前回の授業で学んだことを復習し、さらに次の授業の内容を予習してから授業に入ることが望ましい。					
1 授業について					
授業は入力・理解・応用・確認の4段階を繰り返すことで成立する。解説や教材を通して定理や公式を自分自身に入力する。自分でじっくり考えその意味や、それが導き出された過程（証明）を理解する。自分の考えたことを積極的に発言・問題演習で応用する。発言が趣旨に沿っているか、問題演習でどのような点に着眼すると解答を導くことができるのかを確認する。授業中にノートを使うことは、書くという行為や記録をまとめることがそれぞれの段階の一助となるため必須とする。					
2 復習について					
授業中に解いた練習問題や、問題集にある授業で扱った内容の問題を解き、理解を深める。授業のノートや参考書を活用し、模範解答を利用して解答方法を学び、あきらめず自力で完答できるまで繰り返し、取り組んでほしい。他の単元との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。					
3 予習について					
復習をした上で、行うことが望ましい。前回の授業の先の部分の教材に目を通しておき、どんな内容を学習するのかを知っておく。また、単元全体を一読して全体の流れが理解できていると尚良い。					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通年で習熟度別の少人数展開授業を実施する。考査や提出物の状況によりクラス編成を見直す。</li> <li>・ 授業・単元の内容に関する質問は、担当の教員だけでなく、数学科の教員ならば誰でもよいので積極的に質問すること。</li> </ul>					

月	単元	学習目標
4月	体系数学1 幾何編 第4章 三角形と四角形 ・二等辺三角形 ・直角三角形 ・平行四辺形	・三角形の合同条件を利用した発展的な図形の証明をすることができる。 ・さまざまな図形の定義や定理を組み合わせ、証明を完成させるまでに効率よく記述し、説明することができる。
5月	・平行線と面積 ・三角形の辺と角 体系数学2 代数編 第1章 式の計算 ・多項式の計算	・三角形の辺と角の大小、三角形の成立条件に関する性質を理解し、その証明方法を理解し、表現することができる。 ・おき換えなどの工夫や公式の組み合わせにより、式の計算を効率的に行うことができる。
	前期中間考査	
6月	・因数分解 ・式の計算の利用 第2章 平方根 ・根号を含む式の計算 ・有理数と無理数 ・近似値と有効数字	・公式を利用し、複雑な式の値を求めたり、数や図形に関する性質を証明したりできる。 ・整数部分と小数部分を表し、式の値を計算できる。 ・根号を含む文字式を、整数にする文字の値を求め、発展的な問題に活用する。
7・8月	第3章 2次方程式 ・2次方程式の解き方 ・2次方程式の応用	・判別式を利用し実数解をもつ条件を求めることができる。 ・関数などの問題解決にも方程式を利用することができる。
	前期期末考査	
9月	体系数学2 幾何編 第1章 図形と相似 ・相似な図形 ・三角形の相似条件 ・平行線と線分の比 ・中点連結定理 ・面積比、体積比	・補助線や複数の定理を組み合わせ、性質を証明したり、線分の長さや比を求めたりできる。 ・さまざまな図形において、思考しながら面積比や体積比を求めることができる。
10月	第3章 円 ・外心と垂心 ・円周角 ・円に内接する四角形 ・円と接線 ・円の接線と弦のつくる角 ・方べきの定理 ・2つの円	・円に関するさまざまな角の性質を利用し、効率的に図形の証明を行い説明することができる。 ・接弦定理を利用し、角の大きさを求められる。 ・方べきの定理を用いて、線分の長さを求められる。 ・2つの円に関する性質を理解し、その問題を解くことができる。
11月	体系数学2 代数編 第4章 関数 $y = ax^2$ ・関数 $y = ax^2$ のグラフ ・関数 $y = ax^2$ の値の変化 ・関数 $y = ax^2$ の値の応用 ・いろいろな関数	・いろいろな関数のグラフをかくことができる。 ・複雑な事象の問題解決に、いろいろな関数のグラフを活用し、説明することができる。 ・応用問題、発展問題に対して問題文を正しく読み、それに対して的確な式を立式することで問題を解決することができる。
	後期中間考査	
12月	第5章 確率と標本調査 ・場合の数 ・確率の計算 ・標本調査	・順列や組合せにおいて、特別な並べ方や選び方をした事象の確率を求めることが活用できる。複雑な事象に対して、状況を把握し、順列や組み合わせの考え方を適用できる。
1月	体系数学2 幾何編 第4章 三平方の定理 ・三平方の定理と平面図形	・関数や既習の図形の問題解決に、三平方の定理を利用できる。
2月	・三平方の定理と空間図形 第2章 線分の比と計量 ・三角形の重心 ・線分の比と面積比 ・チェバの定理、メネラウスの定理	・2種類を組み合わせた立体において定理を活用し、効率的に面積や体積を求めることができる。
	学年末考査	
3月	・中学数学総合演習	

学年	2年	教科・科目 【講座名】	数学【標準クラス】	単位数 週の授業時数	5
----	----	----------------	-----------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書「数学の世界」(大日本図書)					
補助教材「改訂版 体系数学2(代数編)」(数研出版)					
「改訂版 体系問題集 数学2(代数編 標準)」(数研出版)					
「改訂版 体系数学1(幾何編)」(数研出版)					
「改訂版 体系問題集 数学1(幾何編 標準)」(数研出版)					
「改訂版 体系数学2(幾何編)」(数研出版)					
「改訂版 体系問題集 数学2(幾何編 標準)」(数研出版)					
<b>学習の目標</b>					
1 式の計算、平方根、2次方程式、関数 $y = ax^2$ 、確率、図形と相似と円または三平方の定理における考え方に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断する力を身につける。					
2 式の計算、平方根、2次方程式、関数 $y = ax^2$ 、確率、図形と相似と円または三平方の定理において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える力を身につけたりする。					
3 式の計算、平方根、2次方程式、関数 $y = ax^2$ 、確率、図形と相似と円または三平方の定理において、事象を数学的な表現・処理や推論する力を身につける。					
4 式の計算、平方根、2次方程式、関数 $y = ax^2$ 、確率、図形と相似と円または三平方の定理における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、発展的な知識を身につける。					
<b>評価の方法</b>					
1. 年4回の定期考査					
2. 単元テスト、小テスト					
3. 問題集などの課題への取り組み状況					
4. 授業中の取り組み状況					
※ 1, 2の項目を70%、3, 4の項目を30%に換算し、総合的に評価を行い右の達成率の基準で評価を決める。					
以下の基準で評価を決める 5 … 達成率 85%以上 4 … 達成率 75%以上 85%未満 3 … 達成率 45%以上 75%未満 2 … 達成率 20%以上 45%未満 1 … 達成率 20%未満					
<b>学習のアドバイス(授業への臨み方、復習や予習の方法)</b>					
数学は既習事項を利用する教科である。したがって、前回の授業で学んだことを復習し、さらに次の授業の内容を予習してから授業に入ることが望ましい。					
1 授業について					
授業は入力・理解・応用・確認の4段階を繰り返すことで成立する。解説や教材を通して定理や公式を自分自身に入力する。自分でじっくり考えその意味や、それが導き出された過程(証明)を理解する。自分の考えたことを積極的に発言・問題演習で応用する。発言が趣旨に沿っているか、問題演習でどのような点に着眼すると解答を導くことができるのかを確認する。授業中にノートを使うことは、書くという行為や記録をまとめることがそれぞれの段階の一助となるため必須とする。					
2 復習について					
授業中に解いた練習問題や、問題集にある授業で扱った内容の問題を解き、理解を深める。授業のノートや参考書を活用し、模範解答を利用して解答方法を学び、あきらめず自力で完答できるまで繰り返し、取り組んでほしい。他の単元との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。					
3 予習について					
復習をした上で、行うことが望ましい。前回の授業の先の部分の教材に目を通しておき、どんな内容を学習するのかを知っておくと、授業に参加しやすい。					
<b>その他</b>					
・ 通年で習熟度別の少人数展開授業を実施する。考査や提出物の状況によりクラス編成を見直す。					
・ 授業・単元の内容に関する質問は、担当の教員だけでなく、数学科の教員ならば誰でもよいので積極的に質問すること。					

月	単元	学習目標
4月	体系数学1 幾何編 第4章 三角形と四角形 ・二等辺三角形 ・直角三角形 ・平行四辺形	・三角形の合同条件を利用した発展的な図形の証明をすることができる。 ・さまざまな図形の定義や定理を組み合わせ、証明を完成させるまでに効率よく記述し、説明することができる。
5月	・平行線と面積 ・三角形の辺と角 体系数学2 代数編 第1章 式の計算 ・多項式の計算	・三角形の辺と角の大小、三角形の成立条件に関する性質を理解し、その証明方法を理解し、表現することができる。 ・おき換えなどの工夫や公式の組み合わせにより、式の計算を効率的に行うことができる。
前期中間考査		
6月	・因数分解 ・式の計算の利用 第2章 平方根 ・根号を含む式の計算 ・有理数と無理数 ・近似値と有効数字	・公式を利用し、複雑な式の値を求めたり、数や図形に関する性質を証明したりできる。 ・整数部分と小数部分を表し、式の値を計算できる。 ・根号を含む文字式を、整数にする文字の値を求め、発展的な問題に活用する。
7・8月	第3章 2次方程式 ・2次方程式の解き方 ・2次方程式の応用	・判別式を利用し実数解をもつ条件を求めることができる。 ・関数などの問題解決にも方程式を利用することができる。
前期期末考査		
9月	体系数学2 幾何編 第1章 図形と相似 ・相似な図形 ・三角形の相似条件 ・平行線と線分の比 ・中点連結定理 ・面積比、体積比	・補助線や複数の定理を組み合わせ、性質を証明したり、線分の長さや比を求めたりできる。 ・さまざまな図形において、思考しながら面積比や体積比を求めることができる。
10月	第3章 円 ・外心と垂心 ・円周角 ・円に内接する四角形 ・円と接線 ・円の接線と弦のつくる角 ・方べきの定理 ・2つの円	・円に関するさまざまな角の性質を利用し、効率的に図形の証明を行い説明することができる。 ・接弦定理を利用し、角の大きさを求められる。 ・方べきの定理を用いて、線分の長さを求められる。 ・2つの円に関する性質を理解し、その問題を解くことができる。
11月	体系数学2 代数編 第4章 関数 $y = ax^2$ ・関数 $y = ax^2$ のグラフ ・関数 $y = ax^2$ の値の変化 ・関数 $y = ax^2$ の値の応用 ・いろいろな関数	・いろいろな関数のグラフをかくことができる。 ・複雑な事象の問題解決に、いろいろな関数のグラフを活用し、説明することができる。 ・応用問題、発展問題に対して問題文を正しく読み、それに対する的確な式を立式することで問題を解決することができる。
後期中間考査		
12月	第5章 確率と標本調査 ・場合の数 ・確率の計算 ・標本調査	・順列や組合せにおいて、特別な並べ方や選び方をした事象の確率を求めることが活用できる。複雑な事象に対して、状況を把握し、順列や組み合わせの考え方を適用できる。
1月	体系数学2 幾何編 第4章 三平方の定理 ・三平方の定理と平面図形	・関数や既習の図形の問題解決に、三平方の定理を利用できる。
2月	・三平方の定理と空間図形 第2章 線分の比と計量 ・三角形の重心 ・線分の比と面積比 ・チェバの定理、メネラウスの定理	・2種類を組み合わせた立体において定理を活用し、効率的に面積や体積を求めることができる。
学年末考査		
3月	・中学数学総合演習	

学年	2年	教科・科目 【講座名】	数学【基礎クラス】	単位数 週の授業時数	5
----	----	----------------	-----------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>	
教科書「数学の世界」(大日本図書)	
補助教材「改訂版 体系数学2(代数編)」(数研出版)	
「改訂版 体系問題集 数学2(代数編 標準)」(数研出版)	
「改訂版 体系数学1(幾何編)」(数研出版)	
「改訂版 体系問題集 数学1(幾何編 標準)」(数研出版)	
「改訂版 体系数学2(幾何編)」(数研出版)	
「改訂版 体系問題集 数学2(幾何編 標準)」(数研出版)	
<b>学習の目標</b>	
<p>1 式の計算、平方根、2次方程式、関数 <math>y = ax^2</math>、確率、図形と相似と円または三平方の定理における考え方に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断する力を身につける。</p> <p>2 式の計算、平方根、2次方程式、関数 <math>y = ax^2</math>、確率、図形と相似と円または三平方の定理において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える力を身につけたりする。</p> <p>3 式の計算、平方根、2次方程式、関数 <math>y = ax^2</math>、確率、図形と相似と円または三平方の定理において、事象を数学的な表現・処理や推論する力を身につける。</p> <p>4 式の計算、平方根、2次方程式、関数 <math>y = ax^2</math>、確率、図形と相似と円または三平方の定理における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、発展的な知識を身につける。</p> <p>5 上記1～4について、特に基本的内容の理解と、確かな計算処理力に重点を置く。</p>	
<b>評価の方法</b>	
<p>1. 年4回の定期考査</p> <p>2. 単元テスト、小テスト</p> <p>3. 問題集などの課題への取り組み状況</p> <p>4. 授業中の取り組み状況</p> <p>※1, 2の項目を70%、3, 4の項目を30%に換算し、総合的に評価を行い右の達成率の基準で評価を決める。</p>	<p>以下の基準で評価を決める</p> <p>5 … 達成率 85%以上</p> <p>4 … 達成率 75%以上 85%未満</p> <p>3 … 達成率 45%以上 75%未満</p> <p>2 … 達成率 20%以上 45%未満</p> <p>1 … 達成率 20%未満</p>
<b>学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)</b>	
<p>数学は既習事項を利用する教科である。したがって、前回の授業で学んだことを復習し、さらに次の授業の内容を予習してから授業に入ることが望ましい。</p> <p>1 授業について</p> <p>授業は入力・理解・応用・確認の4段階を繰り返すことで成立する。解説や教材を通して定理や公式を自分自身に入力する。自分でじっくり考えその意味や、それが導き出された過程(証明)を理解する。自分の考えたことを積極的に発言・問題演習で応用する。発言が趣旨に沿っているか、問題演習でどのような点に着眼すると解答を導くことができるのかを確認する。授業中にノートを使うことは、書くという行為や記録をまとめることがそれぞれの段階の一助となるため必須とする。</p> <p>2 復習について</p> <p>授業中に解いた練習問題や、問題集にある授業で扱った内容の問題を解き、理解を深める。授業のノートや参考書を活用し、模範解答を利用して解答方法を学び、あきらめず自力で完答できるまで繰り返し、取り組んでほしい。他の単元との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。</p> <p>3 予習について</p> <p>復習をした上で、行うことが望ましい。前回の授業の先の部分の教材に目を通しておき、どんな内容を学習するのかを知っておくと、授業に参加しやすい。</p>	
<b>その他</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通年で習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査の結果によりクラス編成を見直す。</li> <li>・ 授業に関する質問は、担当の教員だけでなく、数学科の教員ならば誰でもよいので積極的に質問すること。</li> </ul>	

月	単元	学習目標
4月	体系数学1 幾何編 第4章 三角形と四角形 ・二等辺三角形 ・直角三角形 ・平行四辺形	・三角形の合同条件を利用した発展的な図形の証明をすることができる。 ・さまざまな図形の定義や定理を組み合わせ、証明を完成させるまでに効率よく記述し、説明することができる。
5月	・平行線と面積 ・三角形の辺と角 体系数学2 代数編 第1章 式の計算 ・多項式の計算	・三角形の辺と角の大小、三角形の成立条件に関する性質を理解し、その証明方法を理解し、表現することができる。 ・置き換えなどの工夫や公式の組み合わせにより、式の計算を効率的に行うことができる。
前期中間考査		
6月	・因数分解 ・式の計算の利用 第2章 平方根 ・根号を含む式の計算 ・有理数と無理数 ・近似値と有効数字	・公式を利用し、複雑な式の値を求めたり、数や図形に関する性質を証明したりできる。 ・整数部分と小数部分を表し、式の値を計算できる。 ・根号を含む文字式を、整数にする文字の値を求め、発展的な問題に活用する。
7・8月	第3章 2次方程式 ・2次方程式の解き方 ・2次方程式の応用	・判別式を利用し実数解をもつ条件を求めることができる。 ・関数などの問題解決にも方程式を利用することができる。
前期期末考査		
9月	体系数学2 幾何編 第1章 図形と相似 ・相似な図形 ・三角形の相似条件 ・平行線と線分の比 ・中点連結定理 ・面積比、体積比	・補助線や複数の定理を組み合わせ、性質を証明したり、線分の長さや比を求めたりできる。 ・さまざまな図形において、思考しながら面積比や体積比を求めることができる。
10月	第3章 円 ・外心と垂心 ・円周角 ・円に内接する四角形 ・円と接線 ・円の接線と弦のつくる角 ・方べきの定理 ・2つの円	・円に関するさまざまな角の性質を利用し、効率的に図形の証明を行い説明することができる。 ・接弦定理を利用し、角の大きさを求められる。 ・方べきの定理を用いて、線分の長さを求められる。 ・2つの円に関する性質を理解し、その問題を解くことができる。
11月	体系数学2 代数編 第4章 関数 $y = ax^2$ ・関数 $y = ax^2$ のグラフ ・関数 $y = ax^2$ の値の変化 ・関数 $y = ax^2$ の値の応用 ・いろいろな関数	・いろいろな関数のグラフをかくことができる。 ・複雑な事象の問題解決に、いろいろな関数のグラフを活用し、説明することができる。 ・応用問題、発展問題に対して問題文を正しく読み、それに対して的確な式を立式することで問題を解決することができる。
後期中間考査		
12月	第5章 確率と標本調査 ・場合の数 ・確率の計算 ・標本調査	・順列や組合せにおいて、特別な並べ方や選び方をした事象の確率を求めることが活用できる。複雑な事象に対して、状況を把握し、順列や組み合わせの考え方を適用できる。
1月	体系数学2 幾何編 第4章 三平方の定理 ・三平方の定理と平面図形	・関数や既習の図形の問題解決に、三平方の定理を利用できる。
2月	・三平方の定理と空間図形 第2章 線分の比と計量 ・三角形の重心 ・線分の比と面積比 ・チェバの定理、メネラウスの定理	・2種類を組み合わせた立体において定理を活用し、効率的に面積や体積を求めることができる。
学年末考査		
3月	・中学数学総合演習	

学年	3年	教科・科目 【講座名】	数学【発展クラス】	単位数 週の授業時数	5
----	----	----------------	-----------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>											
教科書「新編 新しい数学 ~MATH CONNECT 数学のつながり~」（東京書籍）											
補助教材「改訂版 体系数学2（幾何編）」（数研出版）											
「改訂版 体系問題集 数学2（幾何編 標準）」（数研出版）											
「改訂版 体系数学3（数式・関数編）」（数研出版）											
「改訂版 体系問題集 数学3（数式・関数編 標準）」（数研出版）											
「改訂版 体系数学3（論理・確率編）」（数研出版）											
「改訂版 体系問題集 数学3（論理・確率編 標準）」（数研出版）											
「改訂版 チャート式 基礎からの数学I+A」（数研出版）											
<b>学習の目標</b>											
1 数を複素数まで拡張して2次方程式や高次方程式を解くことができるようにする。また、整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。											
2 2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。											
3 平面図形や空間図形および場合の数や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。											
<b>評価の方法</b>											
1. 年4回の定期考査											
2. 単元テスト、小テスト											
3. 問題集などの課題への取り組み状況											
4. テスト直しノートへの取り組み状況											
※1, 2の項目を70%、3, 4の項目を30%に換算し、総合的に評価を行い右の達成率の基準で評価を決める。											
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">以下の基準で評価を決める</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5 … 達成率 85%以上</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4 … 達成率 75%以上 85%未満</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3 … 達成率 45%以上 75%未満</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2 … 達成率 20%以上 45%未満</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 … 達成率 20%未満</td> </tr> </table>						以下の基準で評価を決める	5 … 達成率 85%以上	4 … 達成率 75%以上 85%未満	3 … 達成率 45%以上 75%未満	2 … 達成率 20%以上 45%未満	1 … 達成率 20%未満
以下の基準で評価を決める											
5 … 達成率 85%以上											
4 … 達成率 75%以上 85%未満											
3 … 達成率 45%以上 75%未満											
2 … 達成率 20%以上 45%未満											
1 … 達成率 20%未満											
<b>学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）</b>											
数学は既習事項を利用する教科であるので、前回の授業で学んだことを復習してから授業に入ることが望ましい。											
＜授業について＞											
自分でじっくり考え、自分の考えたことを積極的に発言してほしい。重要な定理や公式は、その意味や、それが導き出された過程（証明）をしっかりと学び、理解してほしい。また、問題演習では、どのような点に着眼すると解答を導くことができるのかを学んでほしい。											
授業中にノートをとることで、理解は一層深まる。それは、書くという行為や記録をまとめることが理解の一助になるからである。復習にも活用できるノート作りを心がけたい。											
＜復習について＞											
授業中に解いた練習問題や、問題集にある授業で扱った内容の問題を解き、理解を深める。授業のノートや参考書を活用し、あきらめず自力で完答できるまで取り組んでほしい。また模範解答を利用し、解答方法を学ぶことも良い。他の単元との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。											
<b>その他</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通年で習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査や単元テストの結果等によりクラス編成を見直す。</li> <li>・ 授業に関する質問は、担当の教員だけでなく、数学科の教員ならば誰でもよいので積極的に質問すること。</li> </ul>											

月	単元	学習目標
4月	体系数学3 数式・関数編 第1章 数と式 ・多項式 ・整式の割り算 ・分数式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・式の形に着目し、展開や因数分解の公式を使うことができる。</li> <li>・整式の割り算や分数式の計算、2文字の対称式の値を求めることができる。</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実数</li> </ul> 体系数学3 論理・確率編 第1章 集合と論理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・集合</li> <li>・命題と条件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指数法則や、絶対値を含む1次方程式、1次不等式の解き方が分かる。</li> <li>・集合の意味を理解し、数学的な事象を、集合を用いて説明することができる。</li> <li>・必要条件、十分条件、必要十分条件の意味を理解し、それらを用いて数学的な事象を説明することができる。</li> </ul>
<b>前期中間考査</b>		
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合と証明</li> <li>・集合の要素の個数</li> </ul> 体系数学3 数式・関数編 第3章 2次関数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数のグラフ</li> <li>・関数のグラフの移動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対偶や背理法の有用性を認識し、その考え方をういて、数学的な事象を説明することができる。</li> <li>・2次式を平方完成して、2次関数のグラフがかけられる。2次関数のグラフにおいて、軸や頂点の意味が分かる。</li> <li>・2次関数のグラフを、平行移動や対称移動した放物線の式を求めることができる。</li> </ul>
7・8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数の最大値、最小値</li> <li>・2次関数の決定</li> <li>・2次関数のグラフと方程式</li> <li>・2次不等式</li> <li>・2次不等式の応用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数の最大値、最小値を求めることができる。</li> <li>・最大値、最小値から2次関数の式を決定できる。</li> <li>・頂点や軸、通る点から2次関数の式を決定できる。</li> <li>・判別式を利用し、2次関数のグラフとx軸の位置関係を調べられる。</li> <li>・2次不等式を解くことができる。</li> <li>・2次不等式を含む連立不等式が解ける。</li> <li>・2次不等式を利用する文章題を解くことができる。</li> </ul>
<b>前期期末考査</b>		
9月	体系数学3 論理・確率編 第4章 式と証明 <ul style="list-style-type: none"> <li>・恒等式</li> <li>・等式の証明</li> <li>・不等式の証明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・恒等式の係数を求められる。</li> <li>・3つの等式の証明法を理解し、恒等式の証明ができる。</li> <li>・実数の平方や平方の和に関する性質を利用して、不等式が成り立つことを証明できる。</li> <li>・条件のある不等式の証明を考察しようとする。</li> </ul>
10月 ・ 11月	体系数学2 幾何編 第2章 線分の比と計量 <ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の重心と面積比</li> <li>・チェバ、メネラウスの定理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の重心の性質や相似比などを理解し、線分の長さや三角形の面積比を求められる。</li> <li>・チェバの定理やメネラウスの定理を利用し、線分の比を求められる。</li> </ul>
<b>後期中間考査</b>		
12月	第3章 円 <ul style="list-style-type: none"> <li>・接線と弦の作る角</li> <li>・方べきの定理</li> <li>・2つの円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接弦定理を利用し、角の大きさを求められる。</li> <li>・方べきの定理を用いて、線分の長さを求められる。</li> <li>・2つの円に関する性質を理解し、その問題を解くことができる。</li> </ul>
1月	体系数学3 数式・関数編 第2章 複素数と方程式 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次方程式の解と判別式</li> <li>・解と係数の関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複素数の定義やその性質を理解し、複素数計算ができる。</li> <li>・判別式を用いて、2次方程式の解の種類を判別できる。</li> <li>・解と係数の関係を理解し、式の値を求められる。</li> <li>・複雑な2次式を複素数の範囲で因数分解できる。</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・因数定理</li> <li>・高次方程式</li> <li>・いろいろな方程式</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剰余の定理を用いて、基本問題を解くことができる。</li> <li>・因数定理を用いて、整式を因数分解したり、高次方程式を解いたりすることができる。</li> <li>・3乗根の性質を用い、簡単な式の値を求められる。</li> <li>・虚数解をもつ3次方程式の係数を求められる。</li> </ul>
<b>学年末考査</b>		
3月	体系数学3 論理・確率編 第2章 場合の数と確率 <ul style="list-style-type: none"> <li>・場合の数</li> <li>・二項定理</li> <li>・試行と事象</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順列や組合せを区別して、その総数を計算で求めることができる。</li> <li>・二項定理の仕組みを理解し、問題解決に利用することができる。</li> <li>・試行と事象について理解し、確率を計算することができる。</li> </ul>

学年	3年	教科・科目 【講座名】	数学【標準クラス】	単位数 週の授業時数	5
----	----	----------------	-----------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書「新編 新しい数学 ~MATH CONNECT 数学のつながり~」（東京書籍）					
補助教材「改訂版 体系数学2（幾何編）」（数研出版）					
「改訂版 体系問題集 数学2（幾何編 標準）」（数研出版）					
「改訂版 体系数学3（数式・関数編）」（数研出版）					
「改訂版 体系問題集 数学3（数式・関数編 標準）」（数研出版）					
「改訂版 体系数学3（論理・確率編）」（数研出版）					
「改訂版 体系問題集 数学3（論理・確率編 標準）」（数研出版）					
「改訂版 チャート式 基礎からの数学I+A」（数研出版）					
<b>学習の目標</b>					
1 数を複素数まで拡張して2次方程式や高次方程式を解くことができるようにする。また、整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。					
2 2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。					
3 平面図形や空間図形および場合の数や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。					
<b>評価の方法</b>					
1. 年4回の定期考査					
2. 単元テスト、小テスト					
3. 問題集などの課題への取り組み状況					
4. テスト直しノートの取り組み状況					
※1, 2の項目を70%、3, 4の項目を30%に換算し、総合的に評価を行い右の達成率の基準で評価を決める。					
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>以下の基準で評価を決める</p> <p>5 … 達成率 85%以上</p> <p>4 … 達成率 75%以上 85%未満</p> <p>3 … 達成率 45%以上 75%未満</p> <p>2 … 達成率 20%以上 45%未満</p> <p>1 … 達成率 20%未満</p> </div> </div>					
<b>学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）</b>					
数学は既習事項を利用する教科であるので、前回の授業で学んだことを復習してから授業に入ることが望ましい。					
＜授業について＞					
自分でじっくり考え、自分の考えたことを積極的に発言してほしい。重要な定理や公式は、その意味や、それが導き出された過程（証明）をしっかりと学び、理解してほしい。また、問題演習では、どのような点に着眼すると解答を導くことができるのかを学んでほしい。					
授業中にノートをとることで、理解は一層深まる。それは、書くという行為や記録をまとめることが理解の一助になるからである。復習にも活用できるノート作りを心がけたい。					
＜復習について＞					
授業中に解いた練習問題や、問題集にある授業で扱った内容の問題を解き、理解を深める。授業のノートや参考書を活用し、あきらめず自力で完答できるまで取り組んでほしい。また模範解答を利用し、解答方法を学ぶことも良い。他の単元との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。					
<b>その他</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通年で習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査や単元テストの結果等によりクラス編成を見直す。</li> <li>・ 授業に関する質問は、担当の教員だけでなく、数学科の教員ならば誰でもよいので積極的に質問すること。</li> </ul>					

月	単元	学習目標
4月	体系数学3 数式・関数編 第1章 数と式 ・多項式 ・整式の割り算 ・分数式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・式の形に着目し、展開や因数分解の公式を使うことができる。</li> <li>・整式の割り算や分数式の計算、2文字の対称式の値を求めることができる。</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実数</li> </ul> 体系数学3 論理・確率編 第2章 集合と論理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・集合</li> <li>・命題と条件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指数法則や、絶対値を含む1次方程式、1次不等式の解き方が分かる。</li> <li>・集合の意味を理解し、数学的な事象を、集合を用いることができる。</li> <li>・必要条件、十分条件、必要十分条件の意味を理解し、それらを用いることができる。</li> </ul>
<b>前期中間考査</b>		
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合と証明</li> <li>・集合の要素の個数</li> </ul> 体系数学3 数式・関数編 第3章 2次関数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数のグラフ</li> <li>・関数のグラフの移動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対偶や背理法の有用性を認識し、その考え方を用いることができる。</li> <li>・2次式を平方完成して、2次関数のグラフがかけられる。2次関数のグラフにおいて、軸や頂点の意味が分かる。</li> <li>・2次関数のグラフを、平行移動や対称移動した放物線の式を求めることができる。</li> </ul>
7・8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数の最大値、最小値</li> <li>・2次関数の決定</li> <li>・2次関数のグラフと方程式</li> <li>・2次不等式</li> <li>・2次不等式の応用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数の最大値、最小値を求めることができる。</li> <li>・最大値、最小値から2次関数の式を決定できる。</li> <li>・頂点や軸、通る点から2次関数の式を決定できる。</li> <li>・判別式を利用し、2次関数のグラフとx軸の位置関係を調べられる。</li> <li>・2次不等式を解くことができる。</li> <li>・2次不等式を含む連立不等式が解ける。</li> <li>・2次不等式を利用する文章題を解くことができる。</li> </ul>
<b>前期期末考査</b>		
9月	体系数学3 論理・確率編 第4章 式と証明 <ul style="list-style-type: none"> <li>・恒等式</li> <li>・等式の証明</li> <li>・不等式の証明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・恒等式の係数を求められる。</li> <li>・3つの等式の証明法を理解し、恒等式の証明ができる。</li> <li>・実数の平方や平方の和に関する性質を利用して、不等式が成り立つことを証明できる。</li> <li>・条件のある不等式の証明を考察しようとする。</li> </ul>
10月 ・ 11月	体系数学2 幾何編 第2章 線分の比と計量 <ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の重心と面積比</li> <li>・チェバ、メネラウスの定理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の重心の性質や相似比などを理解し、線分の長さや三角形の面積比を求められる。</li> <li>・チェバの定理やメネラウスの定理を利用し、線分の比を求められる。</li> </ul>
<b>後期中間考査</b>		
12月	第3章 円 <ul style="list-style-type: none"> <li>・接線と弦の作る角</li> <li>・方べきの定理</li> <li>・2つの円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接弦定理を利用し、角の大きさを求められる。</li> <li>・方べきの定理を用いて、線分の長さを求められる。</li> <li>・2つの円に関する性質を理解し、その問題を解くことができる。</li> </ul>
1月	体系数学3 数式・関数編 第2章 複素数と方程式 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次方程式の解と判別式</li> <li>・解と係数の関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複素数の定義やその性質を理解し、複素数計算ができる。</li> <li>・判別式を用いて、2次方程式の解の種類を判別できる。</li> <li>・解と係数の関係を理解し、式の値を求められる。</li> <li>・複雑な2次式を複素数の範囲で因数分解できる。</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・因数定理</li> <li>・高次方程式</li> <li>・いろいろな方程式</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剰余の定理を用いて、基本問題を解くことができる。</li> <li>・因数定理を用いて、整式を因数分解したり、高次方程式を解いたりすることができる。</li> <li>・3乗根の性質を用い、簡単な式の値を求められる。</li> <li>・虚数解をもつ3次方程式の係数を求められる。</li> </ul>
<b>学年末考査</b>		
3月	体系数学3 論理・確率編 第2章 場合の数と確率 <ul style="list-style-type: none"> <li>・場合の数</li> <li>・二項定理</li> <li>・試行と事象</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順列や組合せを区別して、その総数を計算で求めることができる。</li> <li>・二項定理の仕組みを理解し、問題解決に利用することができる。</li> <li>・試行と事象について理解し、確率を計算することができる。</li> </ul>

学年	3年	教科・科目 【講座名】	数学【基礎クラス】	単位数 週の授業時数	5
----	----	----------------	-----------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書「新編 新しい数学 ~MATH CONNECT 数学のつながり~」(東京書籍)					
補助教材「改訂版 体系数学2(幾何編)」(数研出版)					
「改訂版 体系問題集 数学2(幾何編 標準)」(数研出版)					
「改訂版 体系数学3(数式・関数編)」(数研出版)					
「改訂版 体系問題集 数学3(数式・関数編 標準)」(数研出版)					
「改訂版 体系数学3(論理・確率編)」(数研出版)					
「改訂版 体系問題集 数学3(論理・確率編 標準)」(数研出版)					
「改訂版 チャート式 基礎からの数学I+A」(数研出版)					
<b>学習の目標</b>					
1 数を複素数まで拡張して2次方程式や高次方程式を解くことができるようにする。また、整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。					
2 2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。					
3 平面図形や空間図形および場合の数や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。					
<b>評価の方法</b>					
1. 年4回の定期考査					
2. 単元テスト、小テスト					
3. 問題集などの課題への取り組み状況					
4. テスト直しノートへの取り組み状況					
※1, 2の項目を70%、3, 4の項目を30%に換算し、総合的に評価を行い右の達成率の基準で評価を決める。					
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>以下の基準で評価を決める</p> <p>5 … 達成率 85%以上</p> <p>4 … 達成率 75%以上 85%未満</p> <p>3 … 達成率 45%以上 75%未満</p> <p>2 … 達成率 20%以上 45%未満</p> <p>1 … 達成率 20%未満</p> </div> </div>					
<b>学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)</b>					
数学は既習事項を利用する教科であるので、前回の授業で学んだことを復習してから授業に入ることが望ましい。					
＜授業について＞					
自分でじっくり考え、自分の考えたことを積極的に発言してほしい。重要な定理や公式は、その意味や、それが導き出された過程(証明)をしっかりと学び、理解してほしい。また、問題演習では、どのような点に着眼すると解答を導くことができるのかを学んでほしい。					
授業中にノートをとることで、理解は一層深まる。それは、書くという行為や記録をまとめることが理解の一助になるからである。復習にも活用できるノート作りを心がけたい。					
＜復習について＞					
授業中に解いた練習問題や、問題集にある授業で扱った内容の問題を解き、理解を深める。授業のノートや参考書を活用し、あきらめず自力で完答できるまで取り組んでほしい。また模範解答を利用し、解答方法を学ぶことも良い。他の単元との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。					
<b>その他</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通年で習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査や単元テストの結果等によりクラス編成を見直す。</li> <li>・ 授業に関する質問は、担当の教員だけでなく、数学科の教員ならば誰でもよいので積極的に質問すること。</li> </ul>					

月	単元	学習目標
4月	体系数学3 数式・関数編 第1章 数と式 ・多項式 ・整式の割り算 ・分数式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・式の形に着目し、展開や因数分解の公式を使うことができる。</li> <li>・整式の割り算や分数式の計算、2文字の対称式の値を求めることができる。</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実数</li> </ul> 体系数学3 論理・確率編 第3章 集合と論理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・集合</li> <li>・命題と条件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指数法則や、絶対値を含む1次方程式、1次不等式の解き方が分かる。</li> <li>・集合の意味を理解し、数学的な事象を、集合を用いることができる。</li> <li>・必要条件、十分条件、必要十分条件の意味を理解し、それらを用いることができる。</li> </ul>
<b>前期中間考査</b>		
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合と証明</li> <li>・集合の要素の個数</li> </ul> 体系数学3 数式・関数編 第3章 2次関数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数のグラフ</li> <li>・関数のグラフの移動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対偶や背理法の有用性を認識し、その考え方を用いることができる。</li> <li>・2次式を平方完成して、2次関数のグラフがかけられる。2次関数のグラフにおいて、軸や頂点の意味が分かる。</li> <li>・2次関数のグラフを、平行移動や対称移動した放物線の式を求めることができる。</li> </ul>
7・8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数の最大値、最小値</li> <li>・2次関数の決定</li> <li>・2次関数のグラフと方程式</li> <li>・2次不等式</li> <li>・2次不等式の応用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数の最大値、最小値を求めることができる。</li> <li>・最大値、最小値から2次関数の式を決定できる。</li> <li>・頂点や軸、通る点から2次関数の式を決定できる。</li> <li>・判別式を利用し、2次関数のグラフとx軸の位置関係を調べられる。</li> <li>・2次不等式を解くことができる。</li> <li>・2次不等式を含む連立不等式が解ける。</li> <li>・2次不等式を利用する文章題を解くことができる。</li> </ul>
<b>前期期末考査</b>		
9月	体系数学3 論理・確率編 第4章 式と証明 <ul style="list-style-type: none"> <li>・恒等式</li> <li>・等式の証明</li> <li>・不等式の証明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・恒等式の係数を求められる。</li> <li>・3つの等式の証明法を理解する。</li> <li>・実数の平方や平方の和に関する性質を利用して、不等式が成り立つことを証明できる。</li> </ul>
10月 ・ 11月	体系数学2 幾何編 第2章 線分の比と計量 <ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の重心と面積比</li> <li>・チェバ、メネラウスの定理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の重心の性質や相似比などを理解し、線分の長さや三角形の面積比を求められる。</li> <li>・チェバの定理やメネラウスの定理を利用し、線分の比を求められる。</li> </ul>
<b>後期中間考査</b>		
12月	第3章 円 <ul style="list-style-type: none"> <li>・接線と弦の作る角</li> <li>・方べきの定理</li> <li>・2つの円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接弦定理を利用し、角の大きさを求められる。</li> <li>・方べきの定理を用いて、線分の長さを求められる。</li> <li>・2つの円に関する性質を理解する。</li> </ul>
1月	体系数学3 数式・関数編 第2章 複素数と方程式 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次方程式の解と判別式</li> <li>・解と係数の関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複素数の定義やその性質を理解する。</li> <li>・判別式を用いて、2次方程式の解の種類を判別できる。</li> <li>・解と係数の関係を理解する。</li> <li>・複雑な2次式を複素数の範囲で因数分解できる。</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・因数定理</li> <li>・高次方程式</li> <li>・いろいろな方程式</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剰余の定理を用いて、基本問題を解くことができる。</li> <li>・因数定理を用いて、整式を因数分解したり、高次方程式を解いたりすることができる。</li> <li>・3乗根の性質を用い、簡単な式の値を求められる。</li> <li>・虚数解をもつ3次方程式の係数を求められる。</li> </ul>
<b>学年末考査</b>		
3月	体系数学3 論理・確率編 第2章 場合の数と確率 <ul style="list-style-type: none"> <li>・場合の数</li> <li>・二項定理</li> <li>・試行と事象</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順列や組合せを区別して、その総数を計算で求めることができる。</li> <li>・二項定理の仕組みを理解する。</li> <li>・試行と事象について理解し、確率を計算することができる。</li> </ul>

## 理科 学習指導計画

教科の目標		本物から学ぶ理科授業を実践し、次の5点の育成を目標とする。 1 自然の事物・現象に進んで関わる。 2 目的意識をもって観察、実験などを行う。 3 科学的に探究する能力と態度を養う。 4 自然の事物・現象についての理解を深める。 5 科学的な見方や考え方を養う。		
学年	区分	区分の目標	学習内容	学習の特色
前期課程	第1学年	基礎学力養成期	(化学分野) 身の回りの物質 化学変化と原子・分子 (地学分野) 大地の成り立ちと変化 気象とその変化	専門教員による学習分野別指導 化学分野, 地学分野
	第2学年		(物理分野) 身近な物理現象 電流とその利用 (生物分野) 植物の生活と種類 動物の生活と生物の変遷	
	第3学年	充実期	(物理分野) 運動とエネルギー (化学分野) 化学変化とイオン (生物分野) 生命の連続性 (地学分野) 地球と宇宙 ( 総合 ) 科学技術や自然と人間	専門教員による学習分野別指導
第4学年	【物理基礎】 運動とエネルギー, エネルギーの利用 【化学基礎】 化学と人間生活, 物質の構成, 物質の変化 【生物基礎】 遺伝子, 体内環境の維持, 多様性と生態系		3領域を学び, 基礎的な科学的素養を幅広く養う。	
後期課程	第5学年	発展期	【化学】 無機物質, 有機化合物, 高分子化合物 【物理】 様々な運動, 波, 電気と磁気 【生物】 生命現象と物質, 生殖と発生	【化学】に加え, 希望に合わせて, 【物理】 【生物】から1科目を選択する。
	第6学年		【物理基礎演習】 運動とエネルギー, エネルギーの利用 【物理、物理演習】 電気と磁気, 原子 【化学基礎演習】 化学と人間生活, 物質の構成, 物質の変化 【化学、化学演習】 物質の状態, 物質の変化 【生物基礎演習】 遺伝子, 体内環境の維持, 多様性と生態系 【生物、生物演習】 環境応答, 生態と環境, 進化と系統 遺伝子とバイオテクノロジー	【物理、化学、生物】 5年生から継続して学習し, 科学的に探究する能力と態度を養う。  【物理演習、化学演習、生物演習】 進路希望に合わせて選択し, 学習の深化をはかる。

学年	1年	教科・科目 【講座名】	理科1分野	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	-------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書 「新しい科学1年」 (東京書籍) 補助教材 「理科便覧」 (浜島書店) 「中高一貫 進展理科 化学編」 (文理)					
<b>学習の目標</b>					
1 物質や我々を取り巻く自然に関する事物・現象に進んで関わる。 2 観察, 実験の結果を分析して解釈し表現する。 3 化学的な事物・現象についての観察, 実験を行い, 観察・実験技能を習得する。 4 「身の回りの物質」 「化学変化と原子・分子」 について理解する。 5 日常生活から疑問や課題を見だし, 探究しようとする。					
<b>評価の方法</b>					
評価は, 次の項目を総合的に判断して行う。 ①出席状況 ②観察や実験への取り組み ③観察や実験のレポート ④問題集や小テスト等の提出課題 ⑤自由研究 ⑥定期考査 (全4回) 評価は次の3観点毎に行い, 総合評価と併せて学期末に提示する。 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度					
<b>学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)</b>					
1年生では, 「化学分野」 の学習を行います。学習を通して, 身の回りの疑問が解決し, 自然の事物・現象についての新たな視点が得られます。日頃から, 様々な現象に興味や疑問をもち, そのことについて学習する習慣や調査する習慣を身に付けましょう。前向きに学習に取り組む姿勢をもつことが最も大切です。 1 授業への取り組み姿勢 授業時間を通して集中力が維持できるよう, 準備しましょう。 規則正しい生活 / 必要な物の準備 / 始業時間前の着席 など 場面毎にメリハリをつけましょう。 先生の話聞く / 意見交換する / 作業する / 一人で考える など 2 観察や実験への取り組み姿勢 常に, 目的を意識しましょう。安全かつ効率的に班員と協力して実験を行いましょう。 結果をよく分析して解釈し, どのようなことがわかるか自分なりに考えましょう。 3 授業後の学習姿勢 授業で学んだことを, アウトプットする時間をつくりましょう。 (1回の授業毎に30分以上)。 レポートの作成 / 問題集への取り組み(間違えた問題は必ず複数回取り組むこと。) 4 日常生活の中の学び 日常生活の中の疑問を大切にし, 自ら調べて明らかにする姿勢をもちましょう。					
<b>その他</b>					
・教室移動が多くあります。時間に遅れない行動を心がけてください。 ・観察や実験には, 危険が伴います。安全に十分留意して行動してください。 ・夏休みには, 自由研究に取り組みます。身の回りのことに疑問をもつことを大切にしてください。					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	【化学分野】 身の回りの物質とその性質	身の回りの物質の性質を様々な方法で調べ、固有の性質と共通の性質があることを見いだすことができる。	物質を比較観察することから化学的性質を理解することができる。
5月	【化学分野】 気体の発生と性質	気体を発生させてその性質を調べる実験から、気体の種類による特性を見いだすことができる。	複数の種類の物質に対する観察・実験を行い、その物質の特性をとらえることができる。
<b>前期中間考査</b>			
6月	【化学分野】 物質の溶解	物質が水に溶ける様子の観察を行い、水溶液の中では溶質が均一に分散していることを見いだすことができる。	科学現象の原因と仕組みを理解し、科学では同じ傾向（再現性）が求められることを理解する。
7・8月	自由研究の事前学習 【化学分野】 溶解度と再結晶	水溶液から溶質を取り出す実験を行い、その結果を溶解度と関連付けてとらえることができる。	実験の結果をもとにした考察を行うことができる。
<b>前期期末考査</b>			
9月	自由研究の発表 【化学分野】 状態変化と熱	物質の状態変化についての観察、実験を行い、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いだすことができる。	自ら実験内容（実験方法、実験結果の考察）を計画し、実行することができる。
10月	【化学分野】 物質の融点と沸点	物質の状態が変化するときの温度を測定し、物質は融点や沸点を境に状態が変化するを見いだすことができる。	自ら実験内容（仮説、実験方法、実験結果の考察）を計画し、実行することができる。
11月	【化学分野】 物質の成り立ち	物質を分解する実験を行い、物質は原子や分子からできていることを理解し、原子を記号で表すことができる。	記号や法則の理解のうえで、既存の科学資料を理解できる。また、記号を用いて科学的説明ができる。
<b>後期中間考査</b>			
12月	【化学分野】 化学変化（化合）	物質を化合させる実験を行い、反応前とは異なる物質が精製することを見だし、化学反応式で表すことができる。	様々な反応についての原子の組み合わせの変化について、科学的に説明することができる。
1月	【化学分野】 化学変化（酸化と還元）	酸化や還元の実験を行い、酸化や還元が酸素の関係する反応であることを見いだすことができる。	授業で扱った内容だけでなく、日常生活の中での酸化還元反応について説明することができる。
2月	【化学分野】 化学変化と熱	化学変化によって熱が発生する実験を行い、化学変化には熱の出入りが伴うことが理解できる。	科学的事象に関して正しい科学用語を用いて説明することができる。
<b>学年末考査</b>			
3月	【化学分野】 化学変化と物質の質量	化学変化に関する物質の質量を測定し、反応する物質の質量には一定の関係があることを見いだすことができる。	一般生活のうえでも科学的に考察できる態度がみられる。

学年	1年	教科・科目 【講座名】	理科2分野	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	-------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書 「新しい科学1年」 (東京書籍) 補助教材 「理科便覧」 (浜島書店) 「中高一貫 進展理科 地学編」 (文理)					
<b>学習の目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 物質や我々を取り巻く自然に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究する態度を養う。</li> <li>2 地学的な事物・現象についての観察、実験を行い、観察・実験技能を習得する。</li> <li>3 課題に対して仮説を設定し、目的を持って観察、実験を実施し、その結果を科学的に分析し、結論を導き出す力を身に付ける。</li> <li>4 根拠が明確で、他者を納得させることができるような記述や発言ができるような表現力を身に付ける。</li> </ol>					
<b>評価の方法</b>					
<p>評価は、次の項目を総合的に判断して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①自分の学びを管理・調整するためのポートフォリオ等</li> <li>②観察や実験を含む授業全般への取り組み方</li> <li>③観察や実験のレポート</li> <li>④問題集や小テスト等の課題</li> <li>⑤自由研究</li> <li>⑥定期考査 (全4回)</li> </ol> <p>評価は次の3観点毎に行い、総合評価と併せて学期末に提示する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①知識・技能</li> <li>②思考・判断・表現</li> <li>③主体的に学習に取り組む態度</li> </ol>					
<b>学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業への取り組み姿勢 「なりたい自分」や「身につけたい力」を具体的にして、目的意識をもって授業に取り組みましょう。</li> <li>2 観察や実験への取り組み姿勢 常に、目的を意識しましょう。 結果をよく分析して解釈し、仮説の真偽や目的に対する答えを論理的に述べましょう。</li> <li>3 授業後の学習姿勢 こまめに振り返る自分の学びについて振り返る機会を設けましょう。 まとめノート作成 / レポート作成 / 問題集への取り組み / ポートフォリオ作成</li> <li>4 他者との関わり 一人の課題や疑問を、クラスや学年のものとして捉えて、チームとして学べる成長できる環境を整えましょう</li> </ol>					
<b>その他</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室移動があります。時間に遅れない行動を心がけてください。</li> <li>・観察や実験には、危険が伴う場合があります。安全に十分留意して行動してください。特に理科室内での振る舞いは気を付けてください。</li> <li>・夏休みには、自由研究に取り組みます。身の回りのことに疑問をもつことを大切にしてください。</li> </ul>					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	【地学分野】 火山活動	火山の形、活動の様子及びその噴出物を調べ、それらを地下のマグマの性質と関連付けてとらえることができる。	物質・物体を比較観察することから化学的性質を理解することができる。
5月	【地学分野】 火山活動と火成岩	火山岩と深成岩の観察を行い、それらの組織の違いを成因と関連付けることができる。	複数の種類の物質・物体に対する観察・実験を行い、その物質の特性をとらえることができる。
	<b>前期中間考査</b>		
6月	【地学分野】 地震の伝わり方	地震の体験や記録を基に、その揺れの大きさや伝わり方の規則性に気付くことができる。	科学現象の原因と仕組みを理解し、科学では同じ傾向（再現性）が求められることを理解する。
7・8月	自由研究の事前学習 【地学分野】 地球内部の働き	地震の原因を地球内部の働きと関連付けてとらえ、地震に伴う土地の変化の様子を理解することができる。	実験の結果をもとにした考察を行うことができる。
	<b>前期期末考査</b>		
9月	自由研究の発表 【地学分野】 地層の重なり	野外観察などを行い、観察記録を基に、地層のでき方を考察し、重なり方や広がり方の規則性を見いだすことができる。	自ら実験内容（実験方法、実験結果の考察）を計画し、実行することができる。
10月	【地学分野】 地層の重なりと過去の様子	地層とその中の化石を手掛かりとして過去の環境と地質年代を推定することができる。	自ら実験内容（仮説、実験方法、実験結果の考察）を計画し、実行することができる。
11月	【地学分野】 気象観測	気象観測を行い、観測方法や記録の仕方を身につけるとともに、観測記録と天気の関係を見いだすことができる。	記号や法則の理解のうえで、既存の科学資料の理解できる。また、記号を用いて科学的説明ができる。
	<b>後期中間考査</b>		
12月	【地学分野】 霧や雲の発生	霧や雲の発生について観察、実験を行い、そのでき方を気圧、気温及び湿度の変化と関連付けることができる。	自ら実験内容（仮説、実験方法、実験結果の考察、実験方法の改善）を計画し、実行することができる。
1月	【地学分野】 前線の通過と天気の変化	前線の通過を伴う天気の変化の観測などに基づいて、その変化を暖気、寒気と関連付けてとらえることができる。	自ら実験内容（仮説、実験方法、実験結果の考察、実験方法の再考）を計画し、実行することができる。
2月	【地学分野】 日本の天気の特徴	天気図や気象衛星画像などから、日本の天気の特徴を気団と関連付けることができる。	科学的事象に関して正しい科学用語を用いて説明することができる。
	<b>学年末考査</b>		
3月	【地学分野】 大気の動きと海洋の影響	気象衛星画像や調査記録などから、日本の気象を大気の動きや海洋の影響に関連付けてとらえることができる。	一般生活のうえでも科学的に考察できる態度がみられる。

学年	2年	教科・科目 【講座名】	理科第1分野	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	--------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書 「新しい科学1年」「新しい科学2年」 (東京書籍) 補助教材 「理科便覧」 (浜島書店) 「中高一貫 進展理科 物理編」 (文理)					
<b>学習の目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実験・観察を通して、自然科学の規則性を見出し、科学的なものの見方を身に付け、自然を総合的に見る能力の充実を図る。</li> <li>2 自ら仮説を設定し、目的意識をもって実験・観察を行い、実験結果を図やグラフを使って表し、科学的に考察し、結論を導き出す能力を身に付ける。</li> <li>3 自ら課題を設定し、調査・探求したことを報告書にまとめる。</li> </ol>					
<b>評価の方法</b>					
自然科学に対する興味・関心・意欲、科学的思考力、技能、表現力、基礎基本の理解度を授業観察、定期考査、レポートやノート等の提出物で評価します。					
<b>学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業に集中して取り組み、配布プリントを活用してノートを丁寧にまとめましょう。実験の授業では、授業の中でレポートをきちんとまとめておくようにしましょう。</li> <li>2 家庭学習では、復習を中心に取り組み、重要語句などを定期的に復習すると学習の定着につながります。問題集や演習プリントでは、該当する範囲を繰り返して行い、わからないところは質問しましょう。</li> <li>3 実験・観察を通して、実験器具を扱う技術を習得し、考察・推察する力を養っていきましょう。また、班で活動する場面では協力して学びを高め合いましょう。</li> </ol>					
<b>その他</b>					

月	単元	学習目標	発展的な学習目標
4月	反射と屈折	光の反射や屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見いだすことができる。	屈折率について数値を用いて説明することができる。
5月	全反射・レンズ	凸レンズの働きについての実験を行い、物体の位置と像の位置及び像の大きさの関係を見いだすことができる。	レンズの法則を使って説明できる。
	前期中間考査		
6月	音源と振動、音速と音の性質	音についての実験を行い、音はものが振動することによって生じ空気中などを伝わること及び音の高さや大きさは発音体の振動の仕方に関係することを見いだすことができる。	音の波形を使って波の性質を説明することができる。振動数、振幅の大きさの変化を理解することができる。
7・8月	力の作用と表示、力のつり合い	物体に力を働かせる実験を行い、物体に力が働くとその物体が変形したり動き始めたり、運動の様子が変わったりすることを見いだすとともに、力は大きさと向きによって表されることを理解する。	力を矢印を使って図示し、合力、分力について考えることができる。
	前期期末考査		
9月	面に及ぼす力の効果 水圧と大気圧	圧力についての実験を行い、圧力は力の大きさと面積に関係があることを見いだすこと。また、水圧や大気圧の実験を行い、その結果を水や空気の重さと関連付けてとらえることができる。	圧力について、数値を用いて説明することができる。
10月	回路・電流と電圧	回路をつくり、回路の電流や電圧を測定する実験を行い、回路の各点を流れる電流や各部に加わる電圧についての規則性を見いだすことができる。	回路の接続について、その規則性から数値を用いて説明することができる。
11月	オームの法則、合成抵抗	金属線に加わる電圧と電流を測定する実験を行い、電圧と電流の関係を見いだすとともに金属線には電気抵抗があることを見いだすことができる。	オームの法則について複雑な回路の電流と電圧の関係を求めることができる。
	後期中間考査		
12月	ジュールの法則、電力と電力量	電流によって熱や光などを発生させる実験を行い、電流から熱や光などが取り出せること及び電力の違いによって発生する熱や光などの量に違いがあることを見いだすことができる。	エネルギーの観点から、電力について説明することができる。
1月	磁界と磁力線 電流のまわりに生じる磁界	磁石や電流による磁界の観察を行い、磁界を磁力線で表すことを理解するとともに、コイルの回りに磁界ができることを理解する。	磁界、磁力線の性質を説明することができる。
2月	磁界と力、電磁誘導	磁石とコイルを用いた実験を行い、磁界中のコイルに電流を流すと力が働くことを見いだすことができる。	フレミング左手の法則を、電流と磁界の関係から説明することができる。
	学年末考査		
3月	交流と静電気	異なる物質同士をこすり合わせると静電気が起こり、帯電した物体間では空間を隔てて力が働くこと及び静電気と電流は関係があることを見いだすことができる。	交流の性質を理解し、変圧器について説明することができる。静電気の性質を説明することができる。

学年	2年	教科・科目 【講座名】	理科第2分野	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	--------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書 「新編 新しい科学1年」「新編 新しい科学2年」 (東京書籍) 補助教材 「理科便覧」 (浜島書店) 「中高一貫 進展理科 生物編」 (文理)					
<b>学習の目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 物質や我々を取り巻く自然に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究する態度を養う。</li> <li>2 生物学的な事物・現象についての観察、実験を行い、観察・実験技能を習得する。</li> <li>3 課題に対して仮説を設定し、目的を持って観察、実験を実施し、その結果を科学的に分析し、結論を導き出す力を身に付ける。</li> <li>4 根拠が明確で、他者を納得させることができるような記述や発言ができるような表現力を身に付ける。</li> </ol>					
<b>評価の方法</b>					
<p>評価は、次の項目を総合的に判断して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①自分の学びを管理・調整した成果をはかる課題</li> <li>②観察や実験を含む授業全般への取り組み方</li> <li>③観察や実験のレポート</li> <li>④問題集や小テスト等の課題</li> <li>⑤自由研究</li> <li>⑥定期考査 (全4回)</li> </ol> <p>評価は次の3観点毎に行い、総合評価と併せて学期末に提示する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①知識・技能</li> <li>②思考・判断・表現</li> <li>③主体的に学習に取り組む態度</li> </ol>					
<b>学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業への取り組み姿勢 「なりたい自分」や「身につけたい力」を具体的にして、目的意識をもって授業に取り組みましょう。</li> <li>2 観察や実験への取り組み姿勢 常に、目的を意識しましょう。 結果をよく分析して解釈し、仮説の真偽や目的に対する答えを論理的に述べましょう。</li> <li>3 授業後の学習姿勢 こまめに振り返る自分の学びについて振り返る機会を設けましょう。 まとめノートの作成 / 実験・観察レポートの作成 / 問題集への取り組み / 単元末レポートの作成</li> <li>4 他者との関わり 一人の課題や疑問を、クラスや学年のものとして捉えて、チームとして学べる成長できる環境を整えましょう</li> </ol>					
<b>その他</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室移動が多くあります。時間に遅れない行動を心がけてください。</li> <li>・観察や実験には、危険が伴います。安全に十分留意して行動してください。</li> <li>・夏休みには、自由研究に取り組みます。身の回りのことに疑問をもつことを大切にしてください。</li> </ul>					

月	単元	学習目標	発展的な学習目標
4月	・身近な生物の観察 ・生物の特徴と分類	野外での生物の観察や、顕微鏡を使った生物の観察を行う技能を身に付け、生物同士の相違点や共通点を見出すことができる。	学習した内容について、自分なりに説明することができる。
5月	・身近な植物の分類 ・果実を作る花のつくり ・裸子植物と被子植物	花や葉、茎、根の観察記録に基づいて、それらを相互に関連付けて考察し、植物が体のつくりの特徴によって分類できることを見出すとともに、植物の種類を見分けることができる。	学習した内容について、自分なりに説明することができる。
	<b>前期中間考査</b>		
6月	・花を咲かせず種子を作らない植物 ・様々な植物の分類	シダ植物やコケ植物の観察結果から、種子植物との共通点や相違点を見出す。 また、これまでの知識を活用し、多くの植物を分類することができる。	学習した内容について、自分なりに説明することができる。
7・8月	・動物の分類 ・セキツイ動物 ・無セキツイ動物 ・動物分類表の作成	セキツイ動物の観察記録に基づき、体のつくりや子の生まれ方などの特徴を比較、整理し、セキツイ動物がいくつか仲間に分類できることを見出す。また、無セキツイ動物の特徴を知り、セキツイ動物との違いや共通点を見出し、多くの動物を分類することができる。	学習した内容について、自分なりに説明することができる。
	<b>前期期末考査</b>		
9月	・水中の小さな生物の観察 ・植物の細胞 ・動物の細胞 ・生物の体と細胞	生物の組織などの観察を、顕微鏡を用いて行い、生物の体が細胞できていることおよび、植物と動物の細胞のつくりの特徴を理解する。	学習した内容について、自分なりに説明することができる。
10月	・葉と光合成 ・光合成に必要なもの ・植物と呼吸	植物を用いた実験から、光合成や呼吸の仕組みを理解し、その二つの現象で出入りする物質の関係性を見出すことができる。	学習した内容について、自分なりに説明することができる。
11月	・植物と水 ・水の通り道	植物を用いた実験や観察から、蒸散の仕組みや機能を理解し、それまでの知識を関連付けて、水や栄養分の循環を見出すことができる。	学習した内容について、自分なりに説明することができる。
	<b>後期中間考査</b>		
12月	・消化のしくみ ・吸収のしくみ ・呼吸のはたらき ・血液のはたらき	消化や吸収についての観察、実験を行い、動物の体が必要な物質を取り入れて運搬し、循環させている仕組みを見出す。	学習した内容について、自分なりに説明することができる。
1月	・排出のしくみ ・刺激と反応	体内で不要になった物質を外部に排出する仕組みがあることを理解する。 ヒトを例に、動物がどのように外界からの刺激を受け取っているか理解する。	学習した内容について、自分なりに説明することができる。
2月	・神経のはたらき ・骨と筋肉のはたらき	自らの経験や自分の体を利用した実験結果から、刺激や反応の伝導・伝達経路を理解する。 また、それに付随する体の動きの仕組みを神経系と関連付けながら捉えることができる。	学習した内容について、自分なりに説明することができる。
	<b>学年末考査</b>		
3月	年間のまとめ	これまでの生物学的な学びをまとめ、分掌で表現することができる。	学習した内容について、表現し自らの生活に生かそうできる。

学年	3年	教科・科目 【講座名】	理科第1分野	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	--------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書「新しい科学3年」（東京書籍） 補助教材「理科便覧」（浜島書店） 「中高一貫 進展理科 物理編」（文理） 「中高一貫 進展理科 化学編」（文理）					
<b>学習の目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実験・観察を通して、自然科学の規則性を見出し、科学的なものの見方を身に付け、自然を総合的に見る能力の充実を図る。</li> <li>2 自ら仮説を設定し、目的意識をもって実験・観察を行い、実験結果を図やグラフを用いて表し、科学的に考察し、結論を導き出す能力を身に付ける。</li> <li>3 高校課程の学習につながる基礎的な内容を理解する。</li> </ol>					
<b>評価の方法</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>①出席状況</li> <li>②観察や実験への取り組み</li> <li>③観察や実験のレポート</li> <li>④問題集や小テスト等の提出課題</li> <li>⑤定期考査（全4回）</li> </ol> <p>評価は次の3観点毎に行い、総合評価と併せて学期末に提示する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①知識・技能</li> <li>②思考・判断・表現</li> <li>③主体的に学習に取り組む態度</li> </ol>					
<b>学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業に集中して取り組み、レポートや実験・観察等の課題を丁寧にこなすことで力がついていきます。また、提出物は期限内に内容を充実させて出しましょう。</li> <li>2 家庭学習では予習よりも復習を中心に取り組み、重要語句などを定期的に復習すると学習の定着につながります。</li> <li>3 実験・観察を通して、技術を習得し、考察・推察する力を養っていきましょう。また、班で活動する場面が多くなります。協力して学びを高めましょう。</li> <li>4 授業中に学習内容を理解するように集中して取り組み、分からないところは積極的に質問しましょう。</li> </ol>					
<b>その他</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室移動の際は、時間に遅れないよう心がけてください。</li> <li>・自由研究についてはコンクール等に出品することを前提に、<u>希望者は</u>夏休みを中心に取り組むこととします。</li> </ul>					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	運動の規則性 イオンと原子の成り立ち	運動と力の関係を考察できる。 原子の成り立ちとイオンの生成について説明できる。	運動と力の関係を文字式や数値を用いて表現できる。 イオン式を使って、イオンを表すことができる。
5月	等加速度運動 水溶液とイオン	自由落下や等加速度運動を、観察を通して理解している。 電解質、非電解質の違いを説明できる。	等加速度直線運動を文字式を使って表し、計算できる。 イオン式を使って、イオンを表すことができる。
<b>前期中間考査</b>			
6月	等速直線運動 イオン結合と組成式	運動の法則性を理解している。 組成式を書くことができる。	実験結果を用いて運動の法則性を導き出すことができる。 組成式を使うことができる。
7・8月	慣性・作用反作用 電流が流れる水溶液	運動の法則を理解している。 電離式を書くことができる。	力について図示することができ、ベクトル量であることを理解することができる。 電解質を溶かした水溶液に電流が流れる理由を、電離式やイオンを用いて説明できる。
<b>前期期末考査</b>			
9月	仕事とエネルギー 酸・アルカリの性質	仕事の定義を正確に把握できる。 酸とアルカリの性質を理解している。	物理の仕事について考察できる。 電離式を使って表すことができる。
10月	仕事の原理 酸・アルカリとイオン	仕事の原理を証明できる。 酸とアルカリのもととなるイオンを理解している。	仕事、仕事率について計算で求めることができる。 pH について表現し、理解できる。
11月	力学的エネルギー 中和と塩	力学的エネルギーを理解できる。 中和反応について理解している。	位置エネルギーや、運動エネルギーについて文字式を使って表現できる。 イオンを含めて説明できる。
<b>後期中間考査</b>			
12月	エネルギーの保存 化学変化と電池	エネルギーの保存を考察できる。 化学電池について理解している。	力学的エネルギーの保存の実験から、数式を用いて表すことができる。 化学電池について説明できる。
1月	いろいろなエネルギー 化学エネルギーの利用	さまざまなエネルギーについて考えることができる。 電池や電気分解など、化学エネルギーの利用について知る。	さまざまなエネルギーについて移り変わりを表現できる。 化学エネルギーの利用について説明できる。
2月	科学技術と人間 化学変化の量的関係	エネルギー資源について知る。 物質質量（モル）の概念を用いて化学変化の量的関係を考えることができる。 先端の科学技術について学ぶ。	身近なエネルギー資源について、生活の中のかかわりを説明できる。 物質質量の計算をすることができる。
<b>学年末考査</b>			
3月	科学技術の発展 自然の恵みと災害	わたしたちの生活と、科学のかかわりについて考えることができる。 自然がもたらす恵みと災害について考えることができる。	わたしたちの生活と科学のかかわりや自然がもたらす恵みと災害について理解し、個々の事例を挙げて説明できる。

学年	3年	教科・科目 【講座名】	理科第2分野	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	--------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書「新編 新しい科学3年」（東京書籍） 補助教材「理科便覧」（浜島書店） 「中高一貫 進展理科 生物編」（文理） 「中高一貫 進展理科 地学編」（文理）					
<b>学習の目標</b>					
1 実験・観察を通して、自然科学の規則性を見出し、科学的なものの見方を身に付け、自然を総合的に見る能力の充実を図る。 2 自ら仮説を設定し、目的意識をもって実験・観察を行い、実験結果を図やグラフを用いて表し、科学的に考察し、結論を導き出す能力を身に付ける。 3 高校課程の学習につながる基礎的な内容を理解する。					
<b>評価の方法</b>					
評価は、次の項目を総合的に判断して行う。 ①自分の学びを管理・調整するためのポートフォリオ等 ②観察や実験を含む授業全般への取り組み方 ③観察や実験のレポート ④問題集や小テスト等の課題 ⑤定期考査（全4回）  評価は次の3観点毎に行い、総合評価と併せて学期末に提示する。 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度					
<b>学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）</b>					
1 授業への取り組み姿勢 「なりたい自分」や「身につけたい力」を具体的にして、目的意識をもって授業に取り組みましょう。メタ認知をする機会を大切にして、自分の学びの状態を正確に把握すること。 2 観察や実験への取り組み姿勢 常に、目的を意識しましょう。 結果をよく分析して解釈し、仮説の真偽や目的に対する答えを論理的に述べましょう。 3 授業後の学習姿勢 こまめに振り返る自分の学びについて振り返る機会を設ける、または單元ごとの課題を見直しましょう。 まとめノートの作成 / レポートの作成 / 問題集への取り組み / ポートフォリオ作成 4 他者との関わり 一人の課題や疑問を、クラスや学年のものとして捉えて、チームとして学べる成長できる環境を整えましょう。					
<b>その他</b>					
自由研究についてはコンクール等に出品することを前提に、希望者は夏休みを中心に取り組むこととします。（＝自由提出）					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	細胞分裂と生物の成長	生物の成長を細胞の観点から説明することができる。	体細胞分裂の仕組みを染色体の分配という観点から説明することができる。
5月	生物の殖え方	生殖の特徴について理解する。	減数分裂による染色体の分配と受精により多様性が生じることを理解する。
	<b>前期中間考査</b>		
6月	遺伝の規則性と遺伝子	遺伝の規則性を見だし、問題を解くことで理解する。	二遺伝子雑種及び遺伝の法則に従わない遺伝の様式について理解する。
7・8月	DNAの構造とはたらき 生物の変遷と進化	DNAの構造や特徴を理解する。	タンパク質合成の仕組みについて説明することができる。
	<b>前期期末考査</b>		
9月	銀河系と太陽系 太陽、太陽系の天体 天体の位置の表し方	天体の位置や種類について整理し、理解する。	銀河の中の太陽系の位置や構成について理解する。
10月	日周運動と自転 年周運動と公転	地球の運動を宇宙からの視点で捉え、説明することができる。	観測地点の緯度の違いによる天体の運動の違いを説明することができる。
11月	季節の変化 月の運動と見え方	季節の変化や月の見え方を、地球の公転と関連させて理解する。	観測地点の緯度による特徴的な気温変化を説明することができる。
	<b>後期中間考査</b>		
12月	日食と月食 惑星と恒星	太陽が関わる天体の見え方を理解し、説明することができる。	太陽系の惑星について、太陽からの距離と大気の組成をはじめとする環境を関連付けて説明することができる。
1月	自然界のつり合い	生態系の役割について食物連鎖と関連させて理解する。	生態系のバランスについて理解し、生態系における物質の循環とエネルギーの移動を説明することができる。
2月	自然環境の調査と保全	自然環境を保全することの重要性を理解している。	自然環境保全の重要性について個々の事例を挙げ、説明することができる。
	<b>学年末考査</b>		
3月	自然環境の開発と保全 自然の恵みと災害	日常生活と、科学のかかわりについて自分の言葉で説明することができる。自然がもたらす恵みと災害について理解する。	日常生活と科学のかかわりや自然がもたらす恵みと災害について理解し、個々の事例を挙げて説明することができる。

# 音楽科 学習指導計画

教科の目標		1 表現および鑑賞の幅広い活動を通して、生涯に渡り音楽を愛好する心情を育てる。 2 音楽に対する感性を豊かにし、更に高める。 3 音楽活動の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。 4 音楽文化についての理解を深める。		
学年	区分	区分の目標	学習内容	学習の特色
前期課程	第1学年	基礎学力養成期	《表現》 歌唱：声楽の基礎、混声三部合唱 器楽：アルトリコーダー楽、箏（器奏法の基礎、独奏、二重奏） 創作：簡単なリズム創作・旋律創作 《鑑賞》 西洋音楽：歌曲、管弦楽曲 日本とアジアの音楽：雅楽ほか 《楽典・聴音》 音楽通論の基礎	・発達段階に応じた合唱 ・雅楽鑑賞教室(宮内庁楽) ・合唱コンクール ・和楽器に親しむ ・和楽器への体系的な取り組み ・和楽器の基礎技能 ・楽典・聴音の知識を活かした創作
	第2学年		《表現》 歌唱：楽曲に応じた発声方法、混声三部合唱 器楽：アルトリコーダー、箏（楽器奏法の応用、二重奏） 《鑑賞》 西洋音楽：歌曲、管弦楽曲 日本や世界の郷土音楽 《楽典》 音楽通論の応用	・発達段階に応じた合唱 ・合唱コンクール ・和楽器に親しむ ・和楽器への体系的な取り組み ・和楽器の基礎技能
	第3学年	充実期	《表現》 歌唱：美しい発声法、混声四部合唱 器楽：アルトリコーダー、箏（楽器奏法の応用、三重奏） 《鑑賞》 西洋音楽：歌劇・管弦楽曲 日本音楽：歌舞伎 《楽典》 音楽通論の発展	・発達段階に応じた合唱 ・合唱コンクール ・箏曲創作 ・和楽器への体系的な取り組み ・歌舞伎鑑賞
後期課程 第4学年	感性を高め、音楽活動の幅を広げ、創造的に表現する能力と幅広く鑑賞する能力を伸ばす		歌唱：楽曲に応じた美しい発声法、ア・カペラ、混声四部合唱、世界の歌曲 器楽：ギター、箏、器楽アンサンブル 創作：リズム創作 鑑賞：歌劇、ミュージカル、近現代音楽日本伝統音楽	・混声合唱 ・独唱 ・器楽アンサンブル ・創作発表会

学年	1年	教科・科目 【講座名】	音楽	単位数 週の授業時数	1.5
----	----	----------------	----	---------------	-----

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書 「中学生の音楽1」 (教育芸術社) 「中学生の器楽」 (教育芸術社) 補助教材 「MY SONG 8訂版」 (教育芸術社) 「音楽・表現と鑑賞の資料」 (正進社)					
<b>学習の目標</b>					
1 音や音楽への興味と関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにするとともに、音楽文化への理解を深める。 2 音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付ける。 3 多様な音楽に興味と関心をもち、幅広く鑑賞する能力を高める。					
<b>評価の方法</b>					
1 実技は題材ごとに発表の場を設け、実技試験を兼ねた発表会を行います。 ・歌唱 (校歌、混声合唱) 前期後期各1回 ・器楽 (アルトリコーダー、箏) 2 鑑賞は適宜プリントを評価します。 3 前期期末考査、学年末考査の得点、授業点など総合的に評価します。					
<b>学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)</b>					
[授業への臨み方] 1 毎時間の授業に全力で取り組んでください。 2 忘れ物がないように、しっかりと持ち物の管理をしてください。 3 提出物は期日までに必ず提出をするようにしてください。 4 グループ活動は仲間と協力して積極的に活動してください。 ・演奏が得意な人は積極的に生徒の見本となってください。 ・演奏が苦手な人は何事にも挑戦する前向きな気持ちで取り組みましょう。 5 楽器は共用のものもあります。丁寧に扱きましょう。 6 分からないことがあれば積極的に質問しましょう。					
[復習について] 題材ごとのプリント等は、個人ファイルできちんと管理し、復習に役立ててください。					
<b>その他</b>					
音楽の活動は、周りの人と協力し、積極的にかかわっていくことが大切です。毎時間の音楽活動に、主体的に参加してください。実技試験と筆記試験はほぼ同じ比重で評価します。また、提出物の評価も成績に大きく影響します。どちらも積み重ねをしっかりと行い、全力で臨んでください。					

月	題材	学習目標
4月	オリエンテーション 歌唱：「校歌」「夏の日の贈りもの」 ○聴音・楽典	・正しい姿勢・発声を意識して、校歌を意欲的に歌唱することができる。 ・パートのかかわりを感じ取りながら、同声二部合唱をすることができる。
5月	歌唱：「夏の日の贈りもの」 「校歌」歌唱テスト 鑑賞：四季より「春」 ○聴音・楽典	・混声二部合唱の仕組みを理解し、歌唱できる。 ・楽器の特徴や楽曲とソネットのかかわりを感じ取り、鑑賞することができる。
<b>前期中間考査</b>		
6月	歌唱：混声三部合唱 歌唱：「浜辺の歌」 鑑賞：映画音楽 ○聴音・楽典	・混声三部合唱の仕組みを理解し、歌唱できる。 ・楽曲の特徴を捉え、音楽の要素との関わりを感じ取りながら聴き、批評することができる。 ・日本歌曲の特徴を感じ、詩と旋律の結びつきを理解して歌唱することができる。
7・8月	前期期末考査に向けての復習 歌唱：混声三部合唱	・合唱コンクールの課題曲・自由曲の特徴を感じ取り、合唱することができる。
<b>前期期末考査</b>		
9月	歌唱：混声三部合唱 鑑賞：「魔王」 ○聴音・楽典	・合唱コンクールの課題曲・自由曲の特徴を感じ取り、表現を工夫しながら、合唱することができる。 ・詩と音楽の結びつきを感じ取りながら鑑賞することができる。 ・ハ長調の簡単な旋律を書き取ることができる。
10月	鑑賞：「魔王」 器楽：箏 基本的な奏法 箏曲「虫づくし」「姫松」	・詩と音楽の結びつきを感じ取りながら鑑賞することができる。 ・箏の基本的な弾き方を理解し、演奏することができる。
11月	器楽：箏 基本的な奏法 箏曲「さくらさくら」	・箏の基本的な弾き方を理解し、音色を味わいながら演奏することができる。
<b>後期中間考査</b>		
12月	器楽：箏 基本的な奏法 箏曲「さくらさくら」 →実技テスト 鑑賞：ミュージカル音楽	・箏の基本的な奏法を理解し、周囲の演奏を聴きながら、合わせて演奏することができる。 ・身体・歌唱表現と物語の内容の結びつきを感じ取りながら鑑賞することができる。
1月	鑑賞：「ソーラン節」 器楽：アルトリコーダー	・日本の民謡の歌い方や特徴を感じ取りながら、鑑賞することができる。 ・アルトリコーダーの基本的な奏法を理解し、演奏することができる。
2月	鑑賞：雅楽「平調 越天楽」 器楽：アルトリコーダー ○聴音・楽典	・雅楽の楽器や「越天楽」の楽曲について理解し、日本音楽の特徴や良さを感じ取ることができる。 ・アルトリコーダーの基本的な奏法を理解し、演奏することができる。
<b>学年末考査</b>		
3月	学年末考査 歌唱：混声三部合唱「時の旅人」 1年間のまとめ	・声部の役割を理解し、それを生かして合唱することができる。

学年	2年	教科・科目 【講座名】	音楽	単位数 週の授業時数	1
----	----	----------------	----	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「中学生の音楽2・3年上、下」 (教育芸術社) 「中学生の器楽」 (教育芸術社)					
補助教材 「MY SONG 7訂版」 (教育芸術社) 「音楽・表現と鑑賞の資料」 (正進社)					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を身に付けるとともに、音楽文化への理解を深める。</li> <li>2 楽曲構成の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を伸ばし、創造的に表現する能力を高める。</li> <li>3 音楽に対する総合的な理解を深め、幅広く鑑賞する能力を高める。</li> </ol>					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実技は題材ごとに発表の場を設け、実技試験を兼ねた発表会を行います。 歌唱 (混声合唱) 前期後期各1回 器楽 (アルトリコーダー、箏)</li> <li>2 鑑賞は適宜プリントを評価します。</li> <li>3 前期期末考査、学年末考査の得点、授業点など総合的に評価します。</li> </ol>					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<p>〔授業への臨み方〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 毎時間の授業に全力で取り組んでください。</li> <li>2 忘れ物がないように、しっかりと持ち物の管理をしてください。</li> <li>3 提出物は期日までに必ず提出をするようにしてください。</li> <li>4 グループ活動は仲間と協力して積極的に活動してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏が得意な人は積極的に生徒の見本となってください。</li> <li>・演奏が苦手な人は何事にも挑戦する前向きな気持ちで取り組みましょう。</li> </ul> </li> <li>5 楽器は共用のものもあります。丁寧に扱きましょう。</li> <li>6 分からないことがあれば積極的に質問しましょう。</li> </ol> <p>〔復習について〕</p> <p>題材ごとのプリント等は、個人ファイルできちんと管理し、復習に役立ててください。</p>					
その他					
<p>音楽の活動は、周りの人と協力し、積極的にかかわっていくことが大切です。毎時間の音楽活動に、主体的に参加してください。実技試験と筆記試験はほぼ同じ比重で評価します。どちらも積み重ねをしっかりと行い、全力で臨んでください。</p>					

月	題材	学習目標
4月	オリエンテーション 歌唱：混声三部合唱「翼をください」	・呼吸法、発声法をより豊かにし、曲中の流れを大事に歌いあげることができる。
5月	歌唱：混声三部合唱 鑑賞：フーガ ト短調	・混声三部合唱のハーモニーの美しさを感じ取ると共に、曲の特徴をとらえた表現の工夫をすることができる。 ・主題を聞き取り、旋律の重なり合いを楽しんで鑑賞することができる。 ・パイプオルガンの音色を聴き、豊かな響きを感じ取ることができる。
	<b>前期中間考査</b>	
6月	歌唱：混声三部合唱「時の旅人」 及び合唱コンクール自由曲	・混声三部合唱のハーモニーの美しさを感じ取ると共に、曲の特徴をとらえた表現の工夫をすることができる。
7・8月	歌唱：「夏の思い出」 歌唱：混声三部合唱「時の旅人」 及び合唱コンクール自由曲	・歌詞の情景を思い浮かべ、語感や強弱に気をつけて歌唱することができる。 ・曲の特徴を捉え、表現の工夫をすると共に、ハーモニーバランスなどを感じながら演奏できる。
	<b>前期期末考査</b>	
9月	歌唱：混声三部合唱「時の旅人」 及び合唱コンクール自由曲 鑑賞：交響曲第5番ハ短調	・曲の特徴を感じ取り、表現を工夫し主体的に演奏できる。 ・主題が繰り返され、変化する様子を感じ取ることができる。 ・交響曲、オーケストラについて知る。
10月	鑑賞：交響曲第5番ハ短調 器楽：箏 基本的な奏法 「さくら さくら」	・互いの演奏を聴きながら練習できる。 ・箏の基本的な弾き方を理解し、演奏することができる。
11月	器楽：箏曲「さくら さくら」 アンサンブル	・箏を演奏するための技能を高め、互いの音と息を合わせながら、合奏する。
	<b>後期中間考査</b>	
12月	器楽：箏曲「さくら さくら」 アンサンブル発表会 器楽：アルトリコーダー	・日本音楽特有のテンポや間、余韻を感じ、心を合わせて演奏する。 ・アルトリコーダーの基本的な知識・奏法を身に付ける。
1月	器楽：アルトリコーダー 鑑賞：「アイダ」 鑑賞：日本の郷土音楽	・派生音の運指を使って、リコーダー技能を高めることができる。 ・旋律の特徴を感じ取り、声の響きや強弱に気をつけて歌うことができる。 ・総合芸術としてのオペラの特徴や美しさを知り、味わって鑑賞できる。 ・アイダという演目を知り、登場人物の気持ちを想像しながら鑑賞することができる。 ・日本の民謡・郷土芸能の特徴と背景を感じ取りながら鑑賞する。
2月	歌唱：混声合唱曲「大地讃頌」 鑑賞：バレエ音楽	・混声四部合唱を意識したハーモニー作りができる。 ・物語の内容と身体表現、音楽のつながりを感じ取りながら鑑賞する。
	<b>学年末考査</b>	
3月	歌唱：混声合唱曲「大地讃頌」 学年末考査に向けてのまとめ 1年間のまとめ	・多声部の響きを聴きながら、混声四部合唱を意識したハーモニー作りができる。

学年	3年	教科・科目 【講座名】	音楽	単位数 週の授業時数	1
----	----	----------------	----	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書 「中学生の音楽2・3年上、下」 (教育芸術社) 「中学生の器楽」 (教育芸術社) 補助教材 「MY SONG 6訂版」 (教育芸術社) 「音楽・表現と鑑賞の資料」 (正進社)					
<b>学習の目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を身に付けるとともに、音楽文化への理解を深める。</li> <li>2 楽曲構成の豊かさや美しさを感じ取り、応用的な表現の技能を定着させ、創造的に表現する能力を身に付ける。</li> <li>3 音楽に対する総合的な理解を深め、幅広く鑑賞する能力を高める。</li> </ol>					
<b>評価の方法</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実技は題材ごとに発表の場を設け、実技試験を兼ねた発表会を行います。 歌唱 (混声合唱) 前期後期各1回・器楽 (アルトリコーダー、箏)</li> <li>2 鑑賞は適宜プリントを評価します。</li> <li>3 前期期末考査、学年末考査の得点、授業点など総合的に評価します。</li> </ol>					
<b>学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)</b>					
<p>〔授業への臨み方〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 毎時間の授業に全力で取り組んでください。</li> <li>2 忘れ物がないように、しっかりと持ち物の管理をしてください。</li> <li>3 提出物は期日までに必ず提出をするようにしてください。</li> <li>4 グループ活動は仲間と協力して積極的に活動してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏が得意な人は積極的に生徒の見本となってください。</li> <li>・演奏が苦手な人は何事にも挑戦する前向きな気持ちで取り組みましょう。</li> </ul> </li> <li>5 楽器は共用のものもあります。丁寧に扱きましょう。</li> <li>6 分からないことがあれば積極的に質問しましょう。</li> </ol> <p>〔復習について〕</p> <p>題材ごとのプリント等は、個人ファイルできちんと管理し、復習に役立ててください。</p>					
<b>その他</b>					
音楽の活動は、周りの人と協力し、積極的にかかわっていくことが大切です。毎時間の音楽活動に、主体的に参加してください。実技試験と筆記試験はほぼ同じ比重で評価します。どちらも積み重ねをしっかりと行い、全力で臨んでください。					

月	題材	学習目標
4月	オリエンテーション 歌唱：日本歌曲「花」	・日本歌曲の美しさを感じながら、歌唱できる。
5月	歌唱：日本歌曲「花」 混声四部合唱「大地讃頌」	・リズム・旋律の変化を感じとりながら演奏することができる。 ・主旋律やハーモニーバランスを考え、意識しながら演奏できる。
	<b>前期中間考査</b>	
6月	歌唱：混声四部合唱「大地讃頌」及び合唱コンクール自由曲 鑑賞：「ブルタバ」	・楽曲を特徴付けている音楽的諸要素を生かした合唱の表現ができる。 ・標題や時代背景を手がかりに曲に託された想いを感じ取ることができる。
7・8月	歌唱：混声四部合唱「大地讃頌」及び合唱コンクール自由曲 鑑賞：ポピュラー音楽	・豊かな発声を目指し、その楽曲にあった表現の工夫を主体的に考え、演奏できる。 ・世界の様々音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性を理解する。
	<b>前期期末考査</b>	
9月	歌唱：混声四部合唱「大地讃頌」 その他の混声合唱曲 鑑賞：歌舞伎・能	・歌詞に込められた作曲者の想いを感じ取り、どのように表現するか想いや意図をもって活動できる。 ・クラス全員で表現の工夫を共有し、美しいハーモニーで演奏できる。 ・歌舞伎と能での音楽の役割や特徴を感じ取って鑑賞できる。
10月	鑑賞：歌舞伎・能 器楽：箏曲「さくら さくら」	・互いの演奏を聴きながら練習できる。 ・箏の基本的な弾き方を理解し、演奏することができる。
11月	器楽：箏曲「さくら変奏曲」	・箏の基本奏法を高め、発展的奏法を習得できる。それらを使って、曲想にあった表現の工夫をすることができる。
	<b>後期中間考査</b>	
12月	歌唱：「帰れソレントへ」 器楽：箏曲「さくら変奏曲」発表会	・原語での歌唱により、言葉のアクセントやリズムを生かした演奏ができる。 ・他者の息づかいを感じ、日本音楽特有のテンポや間、余韻を感じながら演奏できる。
1月	器楽：アルトリコーダー 鑑賞：世界の諸民族の音楽	・リコーダーの基本的奏法を深め、演奏することができる。 ・世界の様々な音楽を鑑賞し、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽の良さや美しさを感じ取ることができる
2月	器楽：アルトリコーダー 歌唱：混声三部合唱	・派生音の運指を使って、リコーダー技能を高めることができる。 ・混声三部合唱のハーモニーの美しさを感じ、演奏することができる。
	<b>学年末考査</b>	
3月	歌唱：混声三部合唱発表会 学年末考査に向けてのまとめ 3年間のまとめ	・多声部の響きを聴きながら、混声三部合唱を意識したハーモニー作りができる。 3年間のまとめをする。

## 美術科 学習指導計画

教科の目標		(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表す。 (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練り、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める。 (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。		
学年	区分	区分の目標	学習内容	学習の特色
前期課程	第1学年	基礎学力養成期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・文字のデザイン (デザイン)</li> <li>・色彩の基礎知識</li> <li>・構成美の要素</li> <li>・自己紹介カード (絵画・デザイン)</li> <li>・堆朱のキーホルダー (工芸)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ティームティーチングによる個に応じた学習指導</li> <li>・校内作品展示</li> </ul>
	第2学年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・堆朱のキーホルダー (工芸)</li> <li>・色彩構成 (絵画・デザイン)</li> <li>・ロゴマーク (デザイン)</li> <li>・英国家具 (鑑賞)</li> <li>・西洋美術史 (鑑賞)</li> <li>・立体造形 (彫刻・鑑賞)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ティームティーチングによる個に応じた学習指導</li> <li>・学校行事との関連課題</li> <li>・校内作品展示</li> </ul>
	第3学年	充実期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体造形 (彫刻)</li> <li>・日本の工芸作品 (鑑賞)</li> <li>・沈金のお盆 (工芸)</li> <li>・日本美術史 (鑑賞)</li> <li>・透視図法を用いた絵画作品 (絵画)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ティームティーチングによる個に応じた学習指導</li> <li>・学校行事との関連課題</li> <li>・校内作品展示</li> </ul>
後期課程	第4学年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「鉛筆画」 (絵画)</li> <li>・「コラージュ」 (デザイン)</li> <li>・Music Videoの制作 (映像表現)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた学習指導</li> <li>・学校行事との関連課題</li> <li>・校内作品展示</li> </ul>

学年	1年	教科・科目 【講座名】	美術	単位数 週の授業 時数	1.5
----	----	----------------	----	-------------------	-----

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書 「美術1」 (光村図書)					
補助教材 「美術資料 東京の美術」 (秀学社)					
<b>学習の目標</b>					
1 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。					
2 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力、形や色彩による表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。					
3 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。					
<b>評価の方法</b>					
1 実技が主になるので、提出された作品、およびその制作過程を評価します。					
2 鑑賞は適宜プリントを評価します。					
3 前期期末考査、学年末考査の得点、授業点など総合的に評価します。					
<b>学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)</b>					
<b>*授業への臨み方</b>					
1 授業の目的を理解し、自分の表現したいもののイメージや意図について考え、様々な材料や道具にふれる表現活動に前向きに取り組んでいきましょう。					
2 作品の制作過程を意識し、計画的に集中して授業に取り組んでください。美術室で使用する道具や材料は皆が使用しますので気持ちよく使えるように心がけましょう。					
3 授業で制作した作品は、廊下などに展示します。自分の作品だけでなく、他の人の作品からも多くのことを学ぶ姿勢を持ちましょう。					
4 授業で学んだ知識や技法が、自分の身の回りのどのようところで生かされているのかを意識して、美術について考えます。					
<b>*学習達成目標</b>					
1 色彩の基礎的な知識やレタリングなどのデザイン的分野の技術を身につけた上で、それらを応用して作品制作の表現に生かすことができる。					
2 自分の身の回りの様々なものやこと、他者の制作した作品などに関心をもち、文字や言葉などで自分の考えを伝えることができる。また鑑賞分野について理解し、お互いに協力して作品制作に取り組むことができる。					
3 素材の特徴を理解し、自分の作品に生かすことができる。					
<b>*評価について</b>					
1 授業の目的を理解し、自分の身の回りのものと美術との関係を考えながら一生懸命に作品制作に取り組むことができたか。					
2 自分自身の作品や人の作品について、様々な視点から評価し、自分の言葉や文章で表現することができたか。					
3 作品の制作工程を想像し、見通しをもって道具や材料を選び計画的に制作することができたか。					
4 クロッキー帳へのメモやプリントの記述、学期に一回の定期考査、制作した作品をもとに観点ごとに評価する。					
<b>その他</b>					

月	単元	学習目標
4月	オリエンテーション 教科書を使った鑑賞活動・自己紹介	「美術」とは何かを自分なりに考えることができる。 作品を見て感じとったことを話し合う。
5月	文字のデザイン レタリング	身近な美術として「文字デザイン」を学ぶ。文字の形や色の効果を考え、表現する。
<b>前期中間考査</b>		
6月	レタリング 絵文字	文字の意味を理解し、絵と組み合わせてより、分かりやすく表現する。
7・8月	美術館について	美術館に興味を持ち、基本的な働きについて理解する。
<b>前期期末考査</b>		
9月	絵文字（着彩） アクリル絵の具の使い方	アクリル絵の具の特徴について理解し、着彩の基礎的な技術を習得する。
10月	色彩の基礎知識 構成美の要素	色彩・構成美の要素についての基礎を理解する。
11月	音を表現しよう	曲から発想し、自分のイメージを表現する。色彩の効果をふまえた、配色計画をたてる。
<b>後期中間考査</b>		
12月	音を表現しよう	音楽を聴いて感じたイメージを色や形で視覚化することで、感性と表現力を育成します。曲のテンポ、リズム、メロディ、雰囲気などの音楽的要素を、色彩の明暗や彩度、形の大小や動きといった造形要素に置き換える力を養います。音楽という聴覚芸術と美術という視覚芸術の共通性を理解し、異なる表現媒体を横断する創造的思考力を身につけます。
1月	漆工芸の基礎知識	漆工芸の制作。工芸が生活や社会に果たす役割を考えながら、表現や鑑賞の学習に取り組む姿勢を育てる。
2月	堆朱のキーホルダー制作	道具の正しい使い方を身に付け、工夫しながら制作する。伝統工芸として継承されてきた技術と現代の生活との繋がりを考える。
<b>学年末考査</b>		
3月	堆朱のキーホルダー制作 1年間のまとめ 鑑賞会	地域や伝統に根差した造形やデザインに関心を持ち、主体的に取り組む。 作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取り、意見を交換しあい、その良さや美しさを味わう。

学年	2年	教科・科目 【講座名】	美術	単位数 週の授業時数	1
----	----	----------------	----	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書 「美術2、3」 (光村図書)					
補助教材 「美術資料 東京の美術」 (秀学社)					
<b>学習の目標</b>					
1 美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。					
2 感性や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や基礎的技能を身に付け、多様な表現方法や造形要素に関心を持ち、創意工夫して豊かに表現する能力を伸ばす。					
3 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。					
<b>評価の方法</b>					
1 実技が主になる。提出された作品、およびその制作過程を評価します。					
2 鑑賞は適宜プリントを評価します。					
3 前期期末考査、学年末考査の得点、授業点など総合的に評価します。					
<b>学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)</b>					
<b>*授業への臨み方</b>					
1 授業の目的を理解し、自分の表現したいもののイメージや意図について考え、様々な材料や道具にふれながら表現活動に取り組みましょう。					
2 作品の制作過程を意識し、計画的に集中して授業に取り組んでください。美術室で使用する道具や材料は皆が使用しますので気持ちよく使えるように心がけましょう。					
3 授業で制作した作品は、廊下などに展示します。自分の作品だけでなく、他の人の作品からも多くのことを学ぶ姿勢をもってください。					
4 授業で学んだ知識や技法が、自分の身の回りのどのようところで生かされているのかを意識して、美術について考えます。					
<b>*学習達成目標</b>					
1 色彩の基礎的な知識、レタリングなどのデザイン分野の技術を身につけた上で、それらを活用して作品制作の表現に生かすことができる。					
2 自分の身の回りの様々なものやこと、他者の制作した作品などに関心を持ち、文字や言葉などを使って自分の考えを伝えることができる。また鑑賞分野について理解し、お互いに協力して作品制作に取り組むことができる。					
3 素材の特徴を理解し、自分の表現したい作品にいかすことができる。					
<b>*評価について</b>					
1 授業の目的を理解し、自分の身の回りのものと美術との関係を考えながら集中して作品制作に取り組むことができたか。					
2 自分自身の作品や人の作品について、様々な視点から評価し、自分の言葉や文章で表現することができたか。					
3 作品の制作工程を想像し見通しをもって道具や材料を選び、計画的に制作することができたか。					
4 クロッキー帳へのメモやプリントの記述、学期に一回の定期考査、制作した作品をもとに観点ごとに評価する。					
<b>その他</b>					

月	単元	学習目標
4月	堆朱のキーホルダー完成 アクリルガッシュの使い方	造形美の要素を使い作品を制作する。 自分の考えや思いをわかりやすく伝える能力を育む。
5月	色彩構成	生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深める。
<b>前期中間考査</b>		
6月	色彩構成・鑑賞会	自身の作品や友達作品を鑑賞する。 作品から感じとったことを言葉で表現する活動をおこなう。そのことによって自分や友達の作品の良さを見出すことができる。
7・8月	マークデザイン	伝えようとする情報を、視覚的な図で表現することができる。
<b>前期期末考査</b>		
9月	マークデザイン	社会に視野を広げながら、デザインを通して未来のあり方を考える。
10月	マークデザイン	デザインについて学び、生活や社会の様々な課題を解決する方法を考える。
11月	マークデザイン 鑑賞会（鑑賞）	作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図について考え、見方や感じ方を深めていく。
<b>後期中間考査</b>		
12月	学年宿泊行事事前学習（英国家具）	ブリティッシュヒルズの事前学習として英国家具の歴史を学ぶ。
1月	西洋美術史（鑑賞）	諸外国の美術の特徴を感じ取り、年代や地域間のつながりと影響関係を考え、文化的な交流について理解を深める。
2月	西洋美術史（鑑賞）	「美術のはじまり」から「現代アート」までの美術史を学ぶ。 それぞれの年代と地域に特徴的な固有の表現を展開。それらの関係性や交流の歴史をとらえることで、美術に向き合う視点を獲得し、この先のより豊かな表現に繋げることができる。
<b>学年末考査</b>		
3月	立体造形（彫刻） 導入	動きのある瞬間を複数の角度から素早くスケッチし、躍動感を効果的に表現できる構図やポーズを探究します。重心の位置や身体の傾き、動きの方向性を線で捉える力を養い、立体制作の具体的なイメージを明確化することを目標とします。

学年	3年	教科・科目 【講座名】	美術	単位数 週の授業時数	1
----	----	----------------	----	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書 「美術2、3」(光村図書)					
補助教材 「美術資料 東京の美術」(秀学社)					
<b>学習の目標</b>					
1 美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。					
2 感性や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や基礎的技能を身に付け、多様な表現方法や造形要素に関心を持ち、創意工夫して豊かに表現する能力を伸ばす。					
3 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解を深め、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。					
<b>評価の方法</b>					
1 実技が主になるので、提出された作品、およびその制作過程を評価します。					
2 鑑賞は適宜プリントを評価します。					
3 前期期末考査、学年末考査の得点、授業点など総合的に評価します。					
<b>学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)</b>					
<b>*授業への臨み方</b>					
1 授業の目的を理解し自分の表現したいもののイメージや意図について考える。また、様々な材料や道具がもつ特徴を理解し、作品を制作する。					
2 作品の制作過程を意識し、計画的に集中して授業に取り組んでください。美術室で使用する道具や材料は皆が使用しますので気持ちよく使えるように心がけましょう。					
3 授業で制作した作品は、廊下などに展示します。自分の作品だけでなく、他の人の作品からも多くのことを学ぶ姿勢をもちましょう。					
4 授業で学んだ知識や技法が、自分の身の回りのどのようところで生かされているのかを意識して、美術について考えます。					
<b>*学習達成目標</b>					
1 漆工芸などの工芸分野やデザイン分野の知識や技術を身につけた上で、それらを応用して作品制作の表現に生かすことができる。					
2 自分の身の回りの様々な美術作品や、他者の制作した作品などに関心を持ち、文字や言葉などを使って自分の考えを人に伝えることができる。また鑑賞分野について理解し、お互いに協力して作品制作に取り組むことができる。					
3 様々な素材、道具の特徴を理解し創意工夫しながら自身の表現に生かすことができる。					
4 日本の伝統文化や美術史の流れなどの鑑賞分野について理解することができる。					
<b>*評価について</b>					
1 授業の目的を理解し、自己や他者について考えながら一生懸命に作品制作に取り組むことができたか。					
2 自分自身の作品や人の作品について、様々な視点から鑑賞し、自分の言葉や文章で表現することができたか。					
3 作品の制作工程を想像し、見通しをもって計画的に制作することができたか。					
4 クロッキー帳へのメモやプリントの記述、学期に一回の定期考査、制作した作品をもとに観点ごとに評価する。					
<b>その他</b>					

月	単元	学習目標
4月	立体造形（彫刻）	紙粘土を用いた立体制作を通じて、動きやエネルギーを造形的に表現する力を育成します。人物や動物の動きの一瞬を観察し、重心の移動や身体の傾きなどを立体的に捉える観察力を養います。静止した作品の中に生命感や躍動感を表現する造形力を身につけ、作品鑑賞を通じて表現の多様性を理解することを目標とします。
5月	立体造形（彫刻）	単純化や省略，強調，材料の組合せなどを考え，創造的な構成を工夫する。心豊かに構想を練り、表現につなげる。
	<b>前期中間考査</b>	
6月	立体造形完成・鑑賞会	造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図，創造的な工夫などについて考え、美意識を高める。見方や感じ方を深めることができる。
7・8月	日本の伝統文様について	日本の伝統工芸作品について知り、伝統美や機能美について造形的なよさや美しさを感じることができる。
	<b>前期期末考査</b>	
9月	漆工芸（沈金盆制作）	日本の美術文化についての知識をもとに、日本の美について考える。また日本の伝統文様について学び、お盆に合った文様や絵柄を考える。
10月	漆工芸（沈金盆制作）	沈金刀の使い方を学び、下絵を元に丁寧に彫りをおこなう。
11月	漆工芸（沈金盆制作）	沈金刀の使い方を学び、下絵を元に丁寧に彫りをおこなう。
	<b>後期中間考査</b>	
12月	漆工芸（沈金盆制作）	金粉を用いて、漆工芸の作品に美しく加飾することができる。
1月	日本美術史（鑑賞）	日本の美術文化についての知識をもとに、日本の美について考える。文化を学び、美術の特徴を感じ取り、年代や地域間の影響、歴史を感じ取ることができる。日本美術作品の特徴やよさを自分の言葉で表現し、作品の意味や価値を主体的に味わう鑑賞能力を高める。
2月	透視図法	一点透視図法の特徴理解と正確な描画技能を基盤に、空間の奥行きや立体感を表現する思考力を養い、自分の発想をスケッチから立体表現へと展開する創造力を育む。
	<b>学年末考査</b>	
3月	鑑賞活動	作品に理解を深め、生涯を通して美術を愛好する姿勢を養うことができる。

# 保健体育科 学習指導計画

教科の目標	1 6年間の一貫した授業を通して、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を身に付ける。 2 健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図る。 3 運動やスポーツを通じて協働性や自己表現力を養い、多様な価値観を尊重する態度を形成する。				
前期課程	学年	区分	区分の目標	学習内容	学習の特色
前期課程	第1学年	基礎学力養成期	各種の運動の合理的な実践を通して運動の楽しさや喜びを味わい、生活を明るく健全にする態度を身に付ける。	・体育分野 体づくり運動（ラジオ体操、体力トレーニング） 器械運動（マット運動） 陸上競技（短距離走・リレー・長距離走） 水泳（クロール・平泳ぎ） 球技（バスケットボール・ティーボール） ダンス、武道（柔道）、体育理論 ・保健分野 健康な生活と疾病の予防① 心身の機能の発達と心の健康	・基礎力を身に付けることに重点を置き、教員主体の一斉授業の形態で行う。 ・個人ファイルを使用し、生徒が自ら準備や実践、点検が行えるようにする。
	第2学年			・体育分野 体づくり運動（ラジオ体操、体力トレーニング） 器械運動（マット運動、跳び箱運動） 陸上競技（短距離走・リレー・長距離走） 水泳（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ） 球技（サッカー・バレーボール） ダンス、武道（剣道）、体育理論 ・保健分野 傷害の防止 健康な生活と疾病の予防②	・ティームティーチングを有効に活用し、習熟度に応じたきめ細かい指導を展開する。 ・個人ファイルを使用し、生徒が自ら準備・実践・点検が行えるようにする。
	第3学年	充実期	運動における競争や協同の経験を通じて、公正な態度や進んで規律を守り互いに協力して責任を果たす態度を育てる。健康・安全に留意し運動することが出来る態度を身に付ける。	・体育分野 体づくり運動（ラジオ体操、体力トレーニング） 器械運動（マット運動） 陸上競技（短距離走・跳躍・投擲・長距離走） 水泳（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ） 球技（バドミントン・アルティメット） 体育理論 ・保健分野 健康と環境、健康な生活と疾病の予防③	・基礎力養成期に学習した内容をさらに充実させ、生徒主体の活動を取り入れる。 ・運動の特性に応じて、自己やグループの課題の解決を目指し、活動の仕方を考えたり工夫したりする。
後期課程	第4学年	発展期	生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現するための資質や能力、健康の保持増進のための実践力を身に付け、心身を鍛える。	【体育】 体づくり運動（サーキットトレーニング） 陸上競技（短距離走・長距離走） 水泳（平泳ぎ） 球技（バスケットボール・ティーボール） 体育理論 【保健】 現代社会と健康、安全な社会生活	・生徒主体の活動（グループ学習）を行う。 ・グループごとのノートを使用し、運動の行い方、戦術や課題を研究し、学習計画表にまとめる。 ・リーダーシップ・フォロワーシップをもって主体的に活動する。
	第5学年			【体育】 体づくり運動（サーキットトレーニング） 陸上競技（長距離走） 水泳（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ） 球技（バスケットボール・バレーボール・アルティメット） ニュースポーツ 体育理論 【保健】 生涯を通じる健康、健康を支える環境づくり	・課題解決型学習によって、グループごとに主体的に学習を進める。 ・運動の特性に合わせた学習の計画、実行、自己評価・総合評価を行う。
	第6学年	【体育】 体づくり運動 陸上競技（長距離走） 球技（バドミントン・卓球・ティーボール等） ニュースポーツ 体育理論 ダンス	・発展期のまとめとして、課題解決型学習を充実させる。 ・心身の働き、生活における運動の取り入れ方や意義に関する知識を理解し、身に付け、活かしていくことができるようにする。		



月	単元	学習目標
4月	オリエンテーション 体づくり運動 陸上競技（短距離走・リレー）	【体づくり運動】体づくり運動の学習に積極的に取り組もうとしている。仲間の補助をしたり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。
5月	陸上競技（短距離走・リレー） 水泳（クロール） 球技（バスケットボール・ティールール） 保健（健康な生活と病気の予防）	【陸上競技】クラウチングスタートから徐々に上体を起こしていき加速することができる。リレーでは、次走者がスタートするタイミングやバトンを受け渡すタイミングを合わせることができる。
<b>前期中間考査</b>		
6月	水泳（クロール） 球技（バスケットボール・ティールール） 体づくり運動 保健（健康な生活と病気の予防）	【水泳】手と足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐことができる。泳法を身に付けるためのポイントを見つけている。一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしていることができる。水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ることができる。
7・8月	水泳（クロール・平泳ぎ） 球技（バスケットボール・ティールール） 保健（健康な生活と病気の予防）	【球技】バスケットボールでは、ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。マークされていない味方にパスを出すことができる。ティールールでは、ボールの正面に回り込んで、緩い打球を捕ることができる。投げる腕を後方に引きながら投げ手と反対側の足を踏み出し、体重を移動させながら、大きな動作でねらった方向にボールを投げることができる。
<b>前期期末考査</b>		
9月	水泳（クロール・平泳ぎ） 球技（バスケットボール・ティールール） ダンス 武道（柔道）	【武道】横受け身では、体を横に向け下側の脚を前方に、上側の脚を後方にして、両脚と一方の腕全体で畳を強くたたくことができる。後ろ受け身では、あごを引き、頭をあげ、両方の腕全体で畳を強くたたくことができる。
10月	球技（バスケットボール・ティールール） 器械運動（マット運動） ダンス 武道（柔道）	【器械運動】体をマットに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ることができる。開始姿勢や終末姿勢、組合せの動きや手の着き方などの条件を変えて回ることができる。
11月	器械運動（マット運動） ダンス 武道（柔道）	【ダンス】軽快なリズムに乗って弾みながら、揺れる、回る、ステップを踏んで手をたたき、ストップを入れるなどリズムを捉えて自由に踊ったり、相手の動きに合わせてたりしたり、手をつなぐなど相手と対応しながら踊ることができる。
<b>後期中間考査</b>		
12月	陸上競技（長距離走） ダンス 武道（柔道）	【陸上競技】長距離走では、腕に余分な力を入れずに、リラックスして走ることができる。自己に合ったピッチとストライドで、上下動の少ない動きで走ることができる。
1月	陸上競技（長距離走） 保健（心身の機能の発達と心の健康）	【保健】健康の成り立ちと疾病の発生要因、生活習慣と健康について、理解することができる。
2月	陸上競技（長距離走） 保健（心身の機能の発達と心の健康）	【保健】心身の機能の発達と心の健康について、理解することができるとともに、ストレスに対処する技能を身につけることができる。
<b>学年末考査</b>		
3月	体づくり運動 体育理論	【体育理論】運動やスポーツが多様であることについて、理解することができるとともに、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。
		【全般】①自己の課題を発見し解決に向けて取り組みの工夫をすることができる。また、自己の考えたことを他者に伝えることができる。②技術の名称や行い方、関連して高まる体力について理解している。③特性や成り立ち、(伝統的な)考え方、技(技術)の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解する。④一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め合うことができる。



月	単元	学習目標
4月	オリエンテーション 体づくり運動 陸上競技（短距離走・リレー）	【体づくり運動】積極的に取り組み、仲間と協力し、分担した役割を果たす。ねらいや個々に応じて効率よく体をほぐし、体の動きを高めることができる。
5月	体づくり運動 陸上競技（短距離走・リレー） 保健（傷害の防止）	【陸上競技】短距離走・リレーでは滑らかな動きで、より速く走ることや、バトンの受け渡しでタイミングを合わせることに、跳躍では工夫して高く、遠くに跳ぶことができるようにする。 【保健】傷害の防止について理解を深める、特に応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができることや、応急手当には、心肺蘇生等があることを理解できる。自分たちの生活に関連付けて、仲間と話し合い意欲的に取り組んでいる。
	<b>前期中間考査</b>	
6月	水泳（クロール・背泳ぎ） 球技（バレーボール、サッカー） 保健（傷害の防止）	【水泳】手と足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐことができる。泳法を身に付けるためのポイントを見つけている。一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするすることができる。水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ることができる。
7・8月	水泳（平泳ぎ・背泳ぎ） 球技（バレーボール、サッカー） 保健（傷害の防止）	【球技】バレーボールではボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開できる。サッカーではボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開できる。攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
	<b>前期期末考査</b>	
9月	水泳（平泳ぎ・背泳ぎ） 球技（バレーボール、サッカー） 保健（健康な生活と疾病の予防）	【保健】健康な生活と疾病の予防について理解を深める。課題を発見し、解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができる。
10月	器械運動（マット運動、跳び箱運動） ダンス 剣道	【器械運動】マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、跳び箱運動では切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うことができ、安全に留意して取り組んでいる。
11月	器械運動（マット運動、跳び箱運動） ダンス 剣道	【ダンス】みんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、積極的に取り組むとともに、よさを認め合うことができる。 【武道】剣道では積極的に取り組むとともに、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解する。
	<b>後期中間考査</b>	
12月	陸上競技（長距離走） ダンス・剣道	【陸上競技】長距離走では、ペースを守り一定の距離を走ることができる。公道でのマナーを守り安全に留意して取り組むことができる。
1月	陸上競技（長距離走） 保健（健康な生活と疾病の予防）	
2月	保健（健康な生活と疾病の予防）	
	<b>学年末考査</b>	
3月	体づくり運動 体育理論	【体育理論】運動やスポーツの意義や効果などについて理解できる。



月	単元	学習目標
4月	オリエンテーション 体づくり運動 陸上競技（短距離走）	【体づくり運動】体づくり運動に自主的に取り組み、健康安全を確保できるようにする。運動を継続する意義を理解し自己の課題に応じた運動の取り組みができる。
5月	体づくり運動 陸上競技（短距離走） 水泳 （クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ） 球技（バドミントン・アルティメット）	【陸上競技（短距離）】陸上競技の特性や成り立ちなどを理解することができる。中間走へのつなぎを滑らかにするなどして速く走ることができる。 【水泳】効率よく泳ぐことができるようにする。記録の向上や競技の楽しさを味わいルールやマナーを大切にすることができる。
<b>前期中間考査</b>		
6月	水泳 （平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ・水難防止） 球技（バドミントン・アルティメット） 保健（健康と環境）	【球技】バドミントンでは勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作をすることができる。
7・8月	水泳 （平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ・水難防止） 球技（バドミントン・アルティメット） 保健（健康と環境）	【球技】アルティメットでは、基本的な技能の習得をし、ゲームの中でその技能を発揮することができる。 【保健】健康と環境について理解を深めることができる。
<b>前期期末考査</b>		
9月	水泳 （平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ・水難防止） 球技（バドミントン・アルティメット）	
10月	器械運動（マット運動）	【器械運動】技ができる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技で演技することができる。シンクロマット運動で技と曲を融合させ、仲間と協力して演技を完成させることができるようにする。
11月	器械運動（マット運動） 陸上競技（跳躍・投てき）	【陸上競技】跳躍では助走のスピードとリズムカルな動きをいかして、力強く踏み切って競争できるようにする。
<b>後期中間考査</b>		
12月	陸上競技（跳躍・投てき・長距離走）	【陸上競技】長距離走では力みのないフォームやリズムカルな腕振りを意識し、自己に適したペースを維持して走ることができる。
1月	陸上競技（跳躍・投てき・長距離走） 保健（健康な生活と疾病の予防）	【保健】健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができる。
2月	陸上競技（長距離走） 体育理論 保健（健康な生活と疾病の予防）	【体育理論】運動やスポーツが多様であること、運動やスポーツの意義や効果について、学習した知識を活用したり応用したりする。
<b>学年末考査</b>		
3月	体づくり運動 体育理論	

## 技術・家庭科(技術分野) 学習指導計画

教科の目標		<p>1 技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成する。</p> <p>2 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、情報リテラシーやICTリテラシーを高める。</p> <p>3 情報社会への進展に対応するために必要な知識や知見を身に付け、その発展に寄与するための資質・能力を育む。</p>		
学年	区分	区分の目標	学習内容	学習の特色
前期課程	第1学年	基礎学力養成期	<p>【技術・家庭科(技術分野)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や社会を支える情報の技術</li> <li>・ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツ</li> <li>・社会の発展と情報の技術</li> <li>・材料と加工の技術</li> <li>・設計</li> <li>・木材による製作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ティームティーチングによる学習指導</li> <li>・ICTスキルの習得</li> <li>・情報社会に参画する態度(情報モラル等)の向上</li> <li>・複数の製作例から選択することができるキットを用いたものづくり(木材加工)</li> </ul>
	第2学年		<p>【技術・家庭科(技術分野)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木材による製作</li> <li>・エネルギー変換の技術</li> <li>・電気に関する技術・安全な使い方</li> <li>・発電について</li> <li>・機械に関する技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年をまたいでの木材加工</li> <li>・文化祭での展示</li> <li>・交流電源のテーブルタップ製作</li> <li>・機構を知るための教材を用いたものづくり</li> </ul>
	第3学年	充実期	<p>【技術・家庭科(技術分野)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機構をいかした機械加工</li> <li>・生活や社会と生物育成の技術</li> <li>・計測・制御のプログラミングによる問題の解決</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ティームティーチングによる学習指導</li> <li>・学年をまたいでの機械加工</li> <li>・文化祭での展示</li> <li>・ロボットのプログラミングによる問題解決学習</li> <li>・植物の栽培</li> <li>・レポートによるアカデミックスキルの習得</li> </ul>

学年	1年	教科・科目 【講座名】	技術・家庭【技術分野】	単位数 週の授業時数	1
----	----	----------------	-------------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書 「技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて」 (開隆堂)					
<b>学習の目標</b>					
<p>技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成する。</p> <p>情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得し、情報に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深める。</p>					
<b>評価の方法</b>					
<p>提出物や作品の提出状況（どのくらい提出できているか、提出物の出来具合はどうか、作品づくりにどのくらい工夫がしてあるか）や授業態度（作業や授業への取り組み方）、定期考査の得点、ノートや作業の記録がしっかり取れているかをもとに評価します。</p>					
<b>学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 予習は特に必要はないが、連絡された持ち物を用意し、教室を確認して授業に臨む。</li> <li>2 復習は教科の特性上、学年をまたいでも必要となるため、プリント等はノートに見直ししやすいように貼っておくこと。</li> <li>3 授業で配布される資料は、6 学年にわたり必要な情報も多いため、自分でメモをとったり、記憶したりして、しっかりと管理すること。</li> </ol>					
<b>その他</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業時間を有効に活用し、時間内で仕上げられるよう、時間と作業の管理を行うこと。</li> <li>2 作業が遅れてしまったら、放課後や昼休みを利用し、遅れを取り戻すようにすること。</li> <li>3 技術係は前の時間の授業や Teams で次の授業の持ち物や教室を確認し、学級で伝えること。</li> <li>4 家庭でのコンピュータの使い方やインターネットを使うときのルールは、ご家庭の方とよく確認すること。</li> </ol>					

月	単元	学習目標
4月	ガイダンス 生活や社会と情報の技術	情報の技術が生活や社会で果たしている役割に気付く。 情報の技術に関する製品やサービスに込められた工夫やしぐみを調べる。
5月	情報の伝達	ソフトウェア、ハードウェアのはたらきを知る。 コンピュータシステムの詳細を知る。 情報のデジタル化のしぐみを考え処理する。
	<b>前期中間考査</b>	
6月	情報セキュリティと情報モラル	不正アクセス、不正利用を防ぐ技術、情報を発信するときのモラルを知る。
7・8月	コンピュータとプログラミング	処理の自動化とアルゴリズムの処理のしかたについて考える。 プログラムとプログラミング言語を目的によって使い分ける課題を設定する。
	<b>前期期末考査</b>	
9月	双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決	ユーザインタフェースの画像などを使用し視覚的に操作できるようにする。 情報の表現の工夫を理解する。
10月	製図のルールとかき方	製作品を図に表す方法を知る。 構想図や製作図を正しくかき表すことができる。
11月	問題解決の流れ 構想と設計	材料と加工の技術による問題解決の手順を知る。 問題を解決するための課題を設定する。 設計の流れと必要な要素を知る。 設定した課題に向けた設計を行う。
	<b>後期中間考査</b>	
12月	生活や社会と材料と加工の技術 身の回りにある材料と加工の技術	材料と加工の技術が生活や社会で果たしている役割に気付く。 材料と加工の技術に関する製品に込められた工夫や仕組みを調べる。
1月	さまざまな材料と加工	身の回りの製品に利用されている材料の種類と加工技術を理解する。
2月	じょうぶな構造や部材	製品を丈夫にするための構造や部材の形状を知る。
	<b>学年末考査</b>	
3月	材料取り（けがき） 切断	けがきの方法を知り、正確に材料取りができる。 両刃のこぎりの使い方を知り、正確に切断できる。

学年	2年	教科・科目 【講座名】	技術・家庭【技術分野】	単位数 週の授業時数	1
----	----	----------------	-------------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書 「技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて」 (開隆堂)					
<b>学習の目標</b>					
技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成する。					
<b>評価の方法</b>					
提出物や作品の提出状況（どのくらい提出できているか、提出物の出来具合はどうか、作品づくりにどのくらい工夫がしてあるか）や授業態度（作業や授業への取り組み方）、定期考査の得点、ノートや作業の記録がしっかり取れているかをもとに評価します。					
<b>学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 予習は特に必要はないが、係から連絡された持ち物を用意し、教室を確認して授業に臨む。</li> <li>2 復習は教科の特性上、学年をまたいでも必要となるため、プリント等はノートに見直ししやすいように貼っておくこと。</li> </ol>					
<b>その他</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業時間を有効に活用し、時間内で仕上げられるよう、時間と作業の管理を行うこと。</li> <li>2 作業が遅れてしまったら、放課後や昼休みを利用し、遅れを取り戻すようにすること。</li> <li>3 技術係は、前の時間の授業や Teams で次の授業の持ち物や教室を確認し、学級で伝えること。</li> <li>4 家庭でのコンピュータの使いかたやインターネットを使うときのルールは、ご家庭の方とよく確認すること。</li> </ol>					

月	単元	学習目標
4月	切断	両刃のこぎりの使い方を知り、正確に切断できる。
5月	切削	切削加工の役割を知り、正確に切削できる。
<b>前期中間考査</b>		
6月	穴あけ	穴あけの工具を知り、正確に穴あけができる。
7・8月	組立て これからの材料と加工の技術	組立ての工具を知り、正確に組立てができる。 材料と加工の技術での学習をふりかえる。
<b>前期期末考査</b>		
9月	エネルギー変換の技術	生活や社会で利用されているエネルギー変換の技術を見つける。
10月	電気の供給と利用	発電のしくみを理解する。 電気の供給のしくみを理解する。 電気エネルギーを変換する技術を知る。 身近な電気機器の構成を回路図を使って表す方法を理解する。 電気機器を保守点検する方法を理解する。
11月	問題解決の流れ テーブルタップ製作実習	エネルギー変換の技術を利用した問題解決の手順を知る。 製作手順を知り、作業を進めることができる。
<b>後期中間考査</b>		
12月	電気機器の安全な利用	電気機器を安全に利用するためのしくみを知る。
1月	運動の利用	動力を生み出すしくみについて理解する。
2月	オルゴール人形製作実習	共通部品や規格等を知り、作業を進めることができる。
<b>学年末考査</b>		
3月	オルゴール人形製作実習	製作手順を知り、作業を進めることができる。

学年	3年	教科・科目 【講座名】	技術・家庭【技術分野】	単位数 週の授業時数	0.5
----	----	----------------	-------------	---------------	-----

#### 教科書・補助教材

教科書 「New 技術・家庭 技術分野 明日を創造する」 (教育図書)

#### 学習の目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成する。

情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、それらを適切に評価し活用する能力と態度を身に付ける。

#### 評価の方法

提出物や作品の提出状況 (どのくらい提出できているか、提出物の出来具合はどうか、作品づくりにどのくらい工夫がしてあるか) や授業態度 (作業や授業への取り組み方)、定期考査の得点、ノートや作業の記録がしっかり取れているかをもとに評価します。

#### 学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)

- 1 予習は特に必要はないが、係から連絡された持ち物を用意し、教室を確認して授業に臨む。
- 2 復習は教科の特性上、学年をまたいでも必要となるため、プリント等はノートに見直ししやすいように貼っておくこと。
- 3 学び方を学ぶため、授業で取り組んだことのメモをとり、書籍等から必要な情報を効率的に得たり、他者とコミュニケーションをとったりするなど、学び方の質をあげること。
- 4 その問題がなぜ発生しているかの原因を考え、解決策を考え、実行し、その結果を次の問題解決に役立てる PDCA サイクルを意識して授業に取り組むこと。
- 5 情報処理の手順を考えたり、工夫したりする中で、新しい発想を生み出し活用することに取り組むこと。
- 6 協同学習を行うため、互いに学びあい、知的財産を創造・活用する意識をもって取り組むこと。

#### その他

- 1 授業時間を有効に活用し、時間内で仕上げられるよう、時間と作業の管理を行うこと。
- 2 作業が遅れてしまったら、放課後や昼休みを利用し、遅れを取り戻すようにすること。
- 3 技術係は前の時間の授業や Teams で次の授業の持ち物や教室を確認し、学級で伝えること。
- 4 家庭でのコンピュータの使いかたやインターネットを使うときのルールは、ご家庭の方とよく確認すること。

月	単元	学習目標
4月	問題を解決する工夫	目的や条件に合わせて、エネルギー変換の技術がどのように工夫されているかを見つけ、考える。
5月	保守・点検のしかた	機械や電気機器には、保守・点検が必要であることを知る。 製品には、正しい使用方法があることを知る。
<b>前期中間考査</b>		
6月	設計のしかた	設計を生かして問題を解決する手順を知る。
7・8月	設計に沿った製作	設計に沿って、安全で正確に製作できる。
<b>前期期末考査</b>		
9月	社会の発展とエネルギー変換の技術	エネルギー変換の技術の、これからの未来における役割や影響、誠実な生かし方を考える。
10月	計測・制御のプログラミングによる問題の解決	計測・制御システムの要素やその仕組みについて理解する。
11月	計測・制御のプログラミングによる問題の解決	適切なプログラミング言語を用いて、プログラムの編集・保存、動作の確認、デバッグができる。
<b>後期中間考査</b>		
12月	計測・制御のプログラミングによる問題の解決  生物育成の技術	適切なプログラミング言語を用いて、プログラムの編集・保存、動作の確認、デバッグができる。  生物育成の技術を知る。
1月	計測・制御のプログラミングによる問題の解決	問題を見だし、必要な機能をもつ計測・制御システムの設計・製作などの課題を設定し、その解決に取り組む。
2月	計測・制御のプログラミングによる問題の解決	他者と協力して作業に取り組み、問題を見だし、必要な機能をもつ計測・制御システムの設計・製作などの課題を設定し、その解決に取り組む。
<b>学年末考査</b>		
3月	計測・制御のプログラミングによる問題の解決	他者とともにその成果をお互いに認め合い、他者と協働して粘り強く物事を前に進める態度を高める。

## 技術・家庭科（家庭分野） 学習指導計画

教科の目標	家庭や生活の営みを人の一生の関わりの中でとらえ、家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣、食、住、消費生活を通して自分らしく生きる方法を学び自立して生活できる力を身に付ける。また、環境にやさしい生活の仕方を学び、一人一人がよりよい生活をするよう主体的にかかわる態度を高めていく。				
	学年	区分	区分の目標	学習内容	学習の特色
前期課程	第1学年	基礎学力養成充実期	生活全般の基礎的知識、技術を習得する	技術・家庭科（家庭分野） ○家族・家庭生活 ・ガイダンス ・家庭のはたらきと家庭の仕事 ○衣食住の生活〔食生活〕 ・食品と栄養素 ・中学生に必要な食事 ・日常食調理と地域の食文化 ・献立づくり	・講義と実習 ・調理実習、調べ学習では少人数展開授業
	第2学年			技術・家庭科（家庭分野） ○衣食住の生活〔衣生活〕 ・衣服の選択と手入れ ・布を用いた作品 ○衣食住の生活〔住生活〕 ・安全で健康的な住生活 ○消費生活・環境 ・購入・支払いと生活情報 ・消費生活が環境に与える影響	・講義と作品制作
	第3学年			技術・家庭科（家庭分野） ○家族・家庭生活 ・幼児の生活と家庭 ・幼児が安心できるかかわり ・かかわり合う地域と家庭	・講義と作品制作
後期課程	第5学年	発展期	学習したことを生かし内容を深める	家庭基礎 ○人の一生と家族 ○保育 ○高齢者 ○共生社会 ○食生活 ○衣生活 ○住生活 ○消費生活 ○環境	・人の一生を生涯発達の視点でとらえ、各ライフステージの特徴と課題について理解させ、共に支え合って生活することの重要性を認識させる

学年	1年	教科・科目 【講座名】	技術・家庭科【家庭分野】	単位数 週の授業時数	1
----	----	----------------	--------------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書 「技術・家庭」家庭分野 自立しともに支え合う生活へ（開隆堂出版）					
<b>学習の目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学生の食生活と栄養について、自分の食生活に関心を持ち、生活の中で食事の果たす役割を理解し、健康によい食習慣について考えるとともに、栄養素の種類と働きを知り、中学生に必要な栄養の特徴について理解する。</li> <li>○日常食の献立と食品の選び方について、食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概要について知り、1日分の献立をたてることができる。また、食品の品質を見分け、用途に応じて選択することができる。</li> <li>○日常食の調理と地域の食文化について、基礎的な日常食の調理ができる。また、地域の食材を生かすなどの調理を通して、地域の食文化について理解し、課題をもって日常食又は地域の食材を生かした調理などの活動について工夫し、計画を立てて実践できる。</li> </ul>					
<b>評価の方法</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業への取り組み、実習や課題ごとに作成するワークシート、小テスト、実技テスト、長期休暇の課題の提出状況などで評価します。</li> <li>○作品については、机間巡視で、その時間の課題の達成度や進度、技能や工夫点などを補助簿兼進度表に記入し、授業中と完成時に評価します。</li> <li>○調べ学習・作品は、クラスごとに発表の場を設け、生徒同士知識を広げるとともに工夫点などを評価します。</li> <li>○前期中間考査、後期中間考査では、知識・理解の部分を中心に総合的に評価します。</li> </ul>					
<b>学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）</b>					
<p>☆授業への臨み方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○特別な予習・復習の必要はありませんが、実習や製作、演習、講義などを通して生活の自立、生活を豊かにするための授業ですから、毎時間の授業に全力で楽しい気持ちで取り組んでください。</li> <li>○授業に必要な用具や物などの準備をし、忘れ物のないようにしましょう。</li> <li>○提出物は、期日を守って必ず提出してください。</li> <li>○授業や展覧会などで発表の場があります。準備をして臨むことと、友達の発表から情報を取り入れ、自分の生活に活かしていきましょう。</li> </ul> <p>☆予習や復習の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業で習ったことは実際に自分の家庭生活でやってみましょう。 (技術的なことは、何回も繰り返すことによりうまくなります。)</li> <li>○授業では基本的なことを学びますが、やり方は一つでないものもたくさんあります。展示物を見たり、話を聞いたり、調べたり、やってみて、知識を広げ、深めましょう。</li> </ul>					
<b>その他</b>					
家庭科の授業は、基本的には一斉授業で行い、内容に応じてティーム・ティーチング、少人数展開授業を行います。知識を得て理解し、繰り返しやってみることで技術が身につく、理解が深まります。また、基本的なことは変わらないものが多いですが、友達の意見もよく聞いて、自分の家庭生活で活かす工夫をしていきましょう。					

月	単元	学習目標
4月	<p>&lt;ガイダンス&gt;            ○家族・家庭生活            1. 今の自分とこれから            2. 家庭のはたらきと家庭の仕事            3. 様々な家族・家庭</p>	前期課程家庭分野のガイダンス的な内容を設定し、3学年間の学習の見通しを持たせる。
5月	<p>○衣食住の生活〔食生活〕            1. 人間にとっての食事            2. 食品と栄養素</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の食生活に関心をもち、生活の中で食事が果たす役割を理解し、健康に良い食習慣について知る。</li> <li>栄養素の種類と必要な栄養の特徴について知る。</li> </ul>
<b>前期中間考査</b>		
6月	<p>3. 中学生に必要な食事            ・中学生の発達と必要な栄養            ・目で見えて判断する栄養バランス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品を栄養的な特徴によって食品群に分類することができ、1日に必要な栄養量を食品群別に食品の量で置き換えて示した食品群別摂取量の目安があることを理解する。また、そこで示されている量を実際に食べている食品の量でわかる。</li> </ul>
7・8月	<p>4. 日常食の調理と地域の食文化            ・食品と調理</p>	
<b>前期期末考査</b>		
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>生鮮食品の選択と保存</li> <li>肉の特徴と調理</li> <li>調理実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>魚、肉、野菜を中心に基本的な日常食の調理ができること。また、安全と衛生に留意し、食品や調理用器具等の適切な管理ができる。</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>魚の特徴と調理</li> <li>調理実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>包丁の取り扱い、使い方がわかる。</li> <li>魚や肉の特徴を理解し、調理の目的に合った加熱方法の必要性がわかる。</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜の特徴と調理</li> <li>調理実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生、塩を振る、加熱による変化など野菜の特徴を理解し、食べ方の工夫ができる。</li> </ul>
<b>後期中間考査</b>		
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>加工食品の選択と保存</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常多く用いられている食品の品質を外観や表示などから見分けることができるようにするとともに、日常生活と関連付け、用途に応じた選択ができる。</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>受け継がれてきた食文化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の食材を生かした日常食などの調理を通して、地域の食文化に関心を持ち、その意義について理解できる。</li> </ul>
2月	<p>5. 献立づくり            ・1日分の献立</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>献立について、主食、嗜好、調理法、季節、費用などの点からも検討し、栄養を考えた食品の組み合わせを中心に考え、中学生に必要な栄養素量を満たす1日分の献立が立てられる。</li> </ul>
<b>学年末考査</b>		
3月	<p>6. 持続可能な食生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題をもって日常食の調理や地域の食材を生かした調理の計画を立てて実習などを行い、食生活をよりよくしようとする意欲と態度をもつ。</li> </ul>

学年	2年	教科・科目 【講座名】	技術・家庭科【家庭分野】	単位数 週の授業時数	1
----	----	----------------	--------------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書 「技術・家庭」家庭分野 自立しともに支え合う生活へ（開隆堂出版）					
<b>学習の目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>○人間を取り巻く環境として衣服と住まいを取り上げ、快適で豊かな衣生活・住生活を営むための基礎的・基本的な内容を理解する。</li> <li>○家庭生活と消費、家庭生活と環境について、消費者としての自覚を高め身近な消費生活の視点から環境に配慮した生活を主体的に営む能力と態度を育てる。</li> </ul>					
<b>評価の方法</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業への取り組み、実習や課題ごとに作成するワークシート、小テスト、実技テスト、長期休暇の課題の提出状況などで評価します。</li> <li>○作品については、机間巡視で、その時間の課題の達成度や進捗、技能や工夫点などを補助簿兼進捗表に記入し、授業中と完成時に評価します。</li> <li>○調べ学習・作品は、クラスごとに発表の場を設け、生徒同士知識を広げるとともに工夫点などを評価します。</li> <li>○前期中間考査、後期中間考査では、知識・理解の部分を中心に総合的に評価します。</li> </ul>					
<b>学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）</b>					
<p>☆授業への臨み方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○特別な予習・復習の必要はありませんが、実習や製作、演習、講義などを通して生活の自立、生活を豊かにするための授業ですから、毎時間の授業に全力で楽しい気持ちで取り組んでください。</li> <li>○授業に必要な用具や物などの準備をし、忘れ物のないようにしましょう。</li> <li>○提出物は、期日を守って必ず提出してください。</li> <li>○授業や展覧会などで発表の場があります。準備をして臨むことと、友達の発表から情報を取り入れ、自分の生活に活かしていきましょう。</li> </ul> <p>☆予習や復習の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業で習ったことは実際に自分の家庭生活でやってみましょう。 (技術的なことは、何回も繰り返すことによりうまくなります。)</li> <li>○授業では基本的なことを学びますが、やり方は一つでないものもたくさんあります。展示物を見たり、話を聞いたり、調べたり、やってみて、知識を広げ、深めましょう。</li> </ul>					
<b>その他</b>					
<p>家庭科の授業は、基本的には一斉授業で行い、内容に応じてチーム・ティーチング、少人数展開授業を行います。知識を得て理解し、繰り返しやってみることで技術が身につく、理解が深まります。また、基本的なことは変わらないものが多くありますが、友達の意見もよく聞いて、自分の家庭で活かす工夫をしていきましょう。</p>					

月	単元	学習目標
4月	○衣食住の生活 [衣生活] 1. 衣服のはたらきと手入れ ・衣服の手入れ ・洗濯の準備 ・補修や収納・保管	・衣服の社会生活上の機能を中心に理解し、時、場所、場合に応じた衣服の着用や個性を生かす着用の工夫ができる。 ・日常着をその材料と状態に応じて適切に洗濯したり、補修したりして計画的に活用するとともに、既制服の選択ができる。
5月		
6月	2. 衣服の選択と着方 ・既制服の選び方 ・和服の文化	・必要性を十分に考えて調達し、手入れや保管を適切に行う必要性に気付き生活に活かすことができる。
7・8月	3. 布を用いた作品で生活を演出 ・生活を豊かにするものの製作 ・製作実習	・身近な衣服の材料である布を用いた簡単な衣服や小物を製作することを通して、衣生活や住生活を豊かにするための工夫ができる。
9月	4. 持続可能な衣生活	・資源や環境に配慮する視点から問題を見だして課題を設定し、解決策について考え、工夫ができる。
10月	○衣食住の生活 [住生活] 1. 人間にとっての住まい 2. 生活に必要な住空間	・自分や家族の住空間と生活行為とのかかわりについて考え、住居の持つ基本的な役割を理解する。
11月	3. 自然とともにある住生活 4. 安全で健康的な住生活	・住まいの安全性の視点から、家族が安心して住むための室内環境の整え方を知り、住まいの在り方に関心をもって快適な住まい方の工夫ができる。
12月	4. 安全で健康的な住生活 5. 持続可能な住生活	・家庭内の事故の防ぎ方や自然災害への備え、室内の空気調節、音と生活とのかかわりなどの視点から室内環境の整え方が分かり、具体的に工夫できる。
1月	○消費生活・環境 1. 家庭生活と消費 2. 購入・支払いと生活情報	・消費生活のしくみを理解し、収入と支出をはかり、金銭管理の大切さを理解する。
2月	3. 消費者被害と消費者の自立	・消費者被害の現状と背景、悪質商法の手口と予防法について理解する。
3月	4. 持続可能な社会に向けて ・消費生活が環境に与える影響	・自分や家族の消費生活が環境に及ぼす影響について理解する。

学年	3年	教科・科目 【講座名】	技術・家庭科【家庭分野】	単位数 週の授業時 数	0.5
----	----	----------------	--------------	-------------------	-----

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書 「技術・家庭」家庭分野 自立しともに支え合う生活へ（開隆堂出版）					
<b>学習の目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼児との触れ合いや観察、家族・家庭に関する実践的・体験的な学習活動を通じて、幼児に関心を持ち、家族や幼児に主体的にかかわることができるようにする。</li> <li>○地域の人との交流や伝統や文化の継承など、家庭生活と地域とのかかわりについて理解し、地域を支えたり、地域に支えられたりしていることを理解する。</li> </ul>					
<b>評価の方法</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業への取り組み、実習や課題ごとに作成するワークシート、小テスト、実技テスト、長期休暇の課題の提出状況などで評価します。</li> <li>○作品については、机間巡視で、その時間の課題の達成度や進捗、技能や工夫点などを補助簿兼進捗表に記入し、授業中と完成時に評価します。</li> <li>○調べ学習・作品は、クラスごとに発表の場を設け、生徒同士知識を広げるとともに工夫点などを評価します。</li> <li>○前期中間考査、後期中間考査では、知識・理解の部分を中心に総合的に評価します。</li> </ul>					
<b>学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）</b>					
<p>☆授業への臨み方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○特別な予習・復習の必要はありませんが、実習や製作、演習、講義などを通して生活の自立、生活を豊かにするための授業ですから、毎時間の授業に全力で楽しい気持ちで取り組んでください。</li> <li>○授業に必要な用具や物などの準備をし、忘れ物のないようにしましょう。</li> <li>○提出物は、期日を守って必ず提出してください。</li> <li>○授業や展覧会などで発表の場があります。準備をして臨むことと、友達の発表から情報を取り入れ、自分の生活に活かしていきましょう。</li> </ul> <p>☆予習や復習の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業で習ったことは実際に自分の家庭生活でやってみましょう。 (技術的なことは、何回も繰り返すことによりうまくなります。)</li> <li>○授業では基本的なことを学びますが、やり方は一つでないものもたくさんあります。展示物を見たり、話を聞いたり、調べたり、やってみて、知識を広げ、深めましょう。</li> </ul>					
<b>その他</b>					
家庭科の授業は、基本的には一斉授業で行い、内容に応じてチーム・ティーチング、少人数展開授業を行います。知識を得て理解し、繰り返しやってみることで技術が身につく、理解が深まります。また、基本的なことは変わらないものが多くありますが、友達の意見もよく聞いて、自分の家庭で活かす工夫をしていきましょう。					

月	単元	学習目標
4月	○家族・家庭生活 4. 幼児の生活と家庭 ・幼児の体の発達 ・幼児の心の発達	・自分の成長を振り返ることによって、中学生の時期にある自分と家族や家庭生活とのかかわりについて考え、自分の成長や生活は、家族やそれにかかわる人々に支えられてきたことに気付く。
5月	4. 幼児の生活と家庭 ・幼児の1日の生活と生活習慣	・家庭や家族の基本的な機能や家庭生活と地域とのかかわりを理解するとともに、これからの自分と家族について考えることを通して、家族関係をよりよくする方法を具体的に考えることができる。
<b>前期中間考査</b>		
6月	4. 幼児の生活と家庭 ・幼児と遊び ・遊びを支える環境	・幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解する。
7・8月	4. 幼児の生活と家庭 ・遊びを支える環境	・幼児の観察や遊び道具の製作などの活動を通して、幼児の遊びの意義について理解する。
<b>前期期末考査</b>		
9月	4. 幼児の生活と家庭 ・家族や周囲のおとなの役割	・幼児の遊び道具は、子どもの成長やコミュニケーションを促すうえで大切なことに気付く。
10月	5. 幼児が安心できるかかわり ・ふれ合い体験の前に ・ふれ合い体験	・遊び道具を製作する際に、安全への配慮について十分に考え、計画を立てることができる。
11月	5. 幼児が安心できるかかわり ・ふれ合い体験	・安全な遊び道具と遊び環境について考えることができる。
<b>後期中間考査</b>		
12月	6. かかわり合う地域と家庭 ・生活を支える地域	・地域の人との交流を深める、伝統や文化の継承、地域の安全を守るなど、家庭生活と地域とのかかわりについて理解する。
1月	6. かかわり合う地域と家庭 ・地域で活動する高齢者	・高齢者の特徴について知るとともに、介助体験などを通して高齢者との関わり方について理解している。
2月	6. かかわり合う地域と家庭 ・多様な人々が暮らす地域	・自分や家族もそれぞれの活動に関わることで地域を支えたり、支えられたりしていることを理解する。
<b>学年末考査</b>		
3月	7. 持続可能な家庭生活  ○まとめ 3年間をふり返る	・持続可能な社会を目指して、自分たちができることを工夫し、実践しようとしている。

## 英語科 学習指導計画

教科の目標		<p>1 4技能の力をバランスよく身に付け、英語を使ってさまざまなコミュニケーションをとることができる。</p> <p>2 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。</p> <p>3 興味をもっていることや勉強を深めたい分野について英語を媒介として独学することができる。</p> <p>4 大学入試で進路実現が可能な学力を身に付ける。</p>			
学年	区分	区分の目標	学習内容	学習の特色	
前期課程	第1学年	基礎学力養成期	英語の学習に慣れる。 基礎的な知識や技能を身に付ける。	・フォニックス（文字と音） ・基本的な文法事項（人称代名詞、疑問詞疑問文、 <b>can</b> などの助動詞、進行形、過去形、三人称単数現在形など） ・基礎的な4技能5領域の力	【学習内容】教科書の内容を発展させたスキットを演じたり、教科書の内容を元に物語を作成し演じたりする。 【形態】習熟の程度を考慮した少人数展開授業を基本とする。
	第2学年		・基本的な文法事項（SVOOやSVOCなどの句型、未来表現、助動詞、動名詞、接続詞、現在完了、受動態など） ・基礎的な4技能5領域の力	【学習内容】教科書の内容を自分の言葉で説明する。 【形態】習熟の程度を考慮した少人数展開授業を基本とする。	
	第3学年	充実期	英語の学習を広げる。 英語に関することに挑戦する。	・基本的な文法事項（分詞、関係代名詞、間接疑問文、 <b>It is ... to</b> ～の構文、仮定法など） ・意思疎通のできる基礎的な4技能5領域の力	【学習内容】教科書の内容を端的にまとめ、自分の言葉で説明する。高校1年生レベルの多読や文法を学ぶ。 【形態】習熟の程度を考慮した少人数展開授業を基本とし、一部の授業において習熟度別の少人数展開授業を実施する。
後期課程	第4学年	発展期	英語の学習を深める。 英語を使って様々なことを行う。	・英語コミュニケーションⅠ(ECⅠ) ・論理表現Ⅰ(LEⅠ) ・文法事項（後置修飾、過去完了、仮定法、比較など） ・意思疎通のできる基礎的な4技能5領域の力	【学習内容】様々なジャンルの文章を読んで、意見や感想を述べる。 【形態】ECⅠは習熟の程度を考慮した少人数展開授業を基本とし、LEⅠは習熟度別の少人数展開授業を実施する。
	第5学年		・英語コミュニケーションⅡ(ECⅡ) ・論理表現Ⅱ(LEⅡ) ・文法事項（倒置、挿入、特別な構文など） ・意思疎通が十分にできる4技能5領域の力	【学習内容】ディベートやディスカッションに取り組む。 【形態】ECⅡは習熟の程度を考慮した少人数展開授業を基本とし、LEⅡは習熟度別の少人数展開授業を実施する。	
	第6学年	・英語コミュニケーションⅢ(ECⅢ) ・論理表現Ⅲ(LEⅢ) ・意思疎通が十分にできる高度な4技能5領域の力 ・大学入試問題に対応する力	【学習内容】英字新聞や雑誌、論文などを読み、自分の意見を書く。 【形態】習熟度別の少人数展開授業を基本とする。		

学年	1年	教科・科目 【講座名】	英語α	単位数 週の授業時数	4
----	----	----------------	-----	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
Here We Go! 1 (光村図書出版) JOYFUL WORKBOOK 1 (新学社) 英和・和英辞典					
<b>学習の目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどを理解するとともに, これらの知識を, 聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。</li> <li>2 コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 日常的な話題や社会的な話題について, 外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり, これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</li> <li>3 外国語の背景にある文化に対する理解を深め, 聞き手, 読み手, 話し手, 書き手に配慮しながら, 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</li> <li>4 KUDAN CAN-DO リストの Grade 1 の学習到達目標及び, Grade2 の一部を達成する。</li> </ol>					
<b>評価の方法</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 定期考査【知識・技能】【思考・判断・表現】</li> <li>2 スキット, スピーチ, サマリーなどの発表【思考・判断・表現】</li> <li>3 単語・文法などの小テスト【知識】</li> <li>4 ライティングテスト【思考・判断・表現】</li> <li>5 家庭学習課題【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ol>					
<b>学習のアドバイス (授業への臨み方, 予習や復習の方法)</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 KUDAN CAN-DO リストの学習到達目標を達成するための言語活動を行う。 →教科書の本文を基本として, スキット, スピーチなどの言語活動 (コミュニケーション活動) を授業の中で多く取り入れます。その基本になるのは音読練習です。授業では先生のモデルを, 家庭では教科書の QR コードを活用してモデル文を聞き, 何度も音読練習しましょう。また, クラスメイトの良い発表を見て, お互いに学び合うことも大切です。</li> <li>2 文法, 語彙, 発音などの学習活動と言語活動をバランスよく行う。 →授業で学んだ文法事項や語彙などは, 何度も「触れる」努力をしましょう。</li> <li>3 既習の言語材料を総合的に使用しながら, 自己表現活動を行う。 →言葉を学ぶ授業です。習ったことはすぐに取り入れ, スピーキングやライティング活動を通じて, 繰り返し使しましょう。そうすることで, 学習したことが自然と定着し, 表現の幅も広がります。</li> </ol>					
<b>その他</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 家庭学習で徹底的に復習する習慣をつける。</li> <li>2 NHK ラジオ『基礎英語 1』, 実用英語技能検定 (4 級) など, 授業以外の学習を自主的に行う。</li> <li>3 英和辞書の購入については, 授業中に詳細を説明します。家にある紙の辞書を使っても構いませんが, 電子辞書は使用できません。</li> <li>4 4 線ノートの購入については, 授業中に詳細を説明します。</li> <li>5 すべての授業は少人数展開で行う。</li> </ol>					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	Let's be friends! Unit 1 Here We Go!	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I am ~</li> <li>・ I like/don't like ~</li> <li>・ I can/can't ~</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会話から、その人の情報を聞き取ることができる。</li> <li>・ 自己紹介カードに、自分の情報を書くことができる。</li> </ul>
5月	Daily Life 1 国際郵便 Unit 2 Club Activities	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Are you ~?</li> <li>・ Do you ~?</li> <li>・ Can you ~?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外宛ての送り状に、宛名や住所を書くことができる。</li> <li>・ 会話から、好みや得意なことなどを聞き取ることができる。</li> <li>・好きなことや得意なことなどについて、たずね合うことができる。</li> </ul>
	前期中間考査		
6月	Unit 3 Enjoy the Summer	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 疑問詞 What</li> <li>・ I like ~ing.</li> <li>・ I want to V / Do you want to ~?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インタビューから、したいことなどを聞き取ることができる。</li> <li>・ 夏休みにしたいことについて、アンケートを取ることができる。</li> </ul>
7・8月	World Tour 1 世界の中学生 Active Grammar 1 You Can Do It! 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ am, are</li> <li>・ 一般動詞</li> <li>・ can</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界の挨拶や、中学生の生活の様子を知ることができる。</li> <li>・ 自分と相手のことを伝える言い方を理解することができる。</li> <li>・ 6人の中学生のプロフィールを読んで、共通点・相違点を見つけることができる。</li> <li>・ 自己紹介をし合い、お互いの共通点・相違点を見つけることができる。</li> </ul>
	前期期末考査		
9月	Unit 4 Our New Friend	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ He / She is ~ (肯定文・疑問文・否定文)</li> <li>・ 疑問詞 Who</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人物紹介から、基本的な情報を聞き取ることができる。</li> <li>・ 身近な人などについて、基本的な情報を紹介することができる。</li> </ul>
10月	Unit 5 This Is Our School Daily Life 2 落とし物 Active Grammar 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 疑問詞 Where</li> <li>・ 命令文、Let's</li> <li>・ 疑問詞 When</li> <li>・ 代名詞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校公開の案内状から、時間や場所などを読み取ることができる。</li> <li>・ お気に入りの学校内の施設について、たずね合うことができる。</li> <li>・ 落とし物の持ち主を探すやり取りができる。</li> <li>・ 代名詞の使い方を理解することができる。</li> </ul>
11月	Unit 6 Cheer Up, Tina Active Grammar 3 Daily Life 2 カフェ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三単現一般動詞の肯定文</li> <li>・ 三単現一般動詞の疑問文</li> <li>・ 三単現一般動詞の否定文</li> <li>・ is / 3人称単数形現在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紹介文から、その人物が誰かを読み取ることができる。</li> <li>・ 身近な人の基本的な情報を伝える、紹介文を書くことができる。</li> <li>・ 自分と相手以外のことを伝える言い方を理解するこ</li> </ul>

			とができる。 ・飲食店で、注文をするやり取りができる。
	<b>後期中間考査</b>		
12月	World Tour 2 世界の時刻 Active Grammar 4 Let's Read 1 What Am I? You Can Do It! 2	・疑問詞	・日本と世界の時差について知ることができる。 ・疑問詞を使ったいろいろな疑問文とその答え方を理解することができる。 ・説明文から、“I”についての情報を読み取ることができる。 ・「ドリームファミリー」の紹介から、家族の情報を聞き取ることができる。 ・グループで考えた「ドリームファミリー」を紹介することができる。
1月	Unit 7 New Year Holidays in Japan	・一般動詞の過去形（肯定文） ・一般動詞の過去形（疑問文） ・一般動詞の過去形（否定文）	・はがきから、出来事や感想などを読み取ることができる。 ・冬休みの出来事や感想などを伝える、はがきを書くことができる。
2月	Active Grammar 5 Daily Life 4 ウェブサイト Unit 8 Getting Ready for the Party Active Grammar 6 Daily Life 5 ラジオの中継	・現在進行形の肯定文 ・現在進行形の疑問文	・一般動詞と be 動詞の過去形について理解することができる。 ・ウェブサイトから、必要な情報を読み取ることができる。 ・写真の説明から、その場の状況を聞き取ることができる。 ・写真に、状況を説明するキャプションを書くことができる。 ・ラジオの中継から、現地の様子を聞き取ることができる。
	<b>学年末考査</b>		
3月	Let's Read 2 The Lion and the Mouse You Can Do It! 3 Let's Read More My Japanese Lessons	・look + 形容詞	・物語から、あらすじを読み取ることができる。 ・学校紹介のウェブサイトを読んで、自分たちの学校と同じところや違うところを見つけることができる。 ・グループで学校行事の紹介ページを作ることができる。 ・レポートから、筆者の体験に基づく感想などを読み取ることができる。

学 年	1 年	教科・科目 【講座名】	英語β English Activities	単位数 週の授業時数	1
--------	-----	----------------	---------------------------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
「Active Phonics」 (mpi・正進社)					
「中学実力練成テキスト英語1年」 (文理)					
「Picture Dictionary」					
<b>学習の目標</b>					
1 フォニックスのルールを身に付け、初めて見る単語でも発音できる。					
2 英語に特有の発音の方法を習得し、適切に発音できる。					
3 英語αの授業で学んだ文法事項を、項目別に整理して学習し、正しく理解する。					
4 英語αの授業で学んだ文法事項を、話したり書いたりすることに活用することができる。					
5 英語の学習を通じて、言語や文化に対する理解を深める。					
6 KUDAN CAN-DO リストの Grade 1 の学習目標、Grade 2 の一部を達成する。					
<b>評価の方法</b>					
1 授業中の意欲的な態度					
2 提出物、宿題、課題などの提出					
3 小テストの結果					
4 パフォーマンス評価 (発音、音読、スピーチ、会話など)					
<b>学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)</b>					
1 この授業では、英語αで学んだことをもとに、発展的な内容を扱ったり、身に付けた知識を活用できる力を伸ばす活動を行ったりする。					
2 フォニックスや文法など、ルールや規則を整理して学ぶ機会が多いので、復習を習慣的に行えるとよい。					
3 英語βの授業では書くことの指導があり、テーマに沿ったライティング活動の機会が多く設けられている。					
4 English Activities の授業で、聞くことと話すことの言語活動を行う。 →ネイティブの先生と積極的にコミュニケーションを図り、英語を使うことの楽しさを体感してください。					
5 授業ではクラスの仲間との協力が大切。お互いを尊重し、助け合って授業に取り組む。					
6 間違いを気にせず、積極的に授業に取り組む。					
<b>その他</b>					
・年度の初めは習熟の差があまりないので、少人数展開の授業を実施します。					

月	単元	学習目標
4月	Active Phonics 1 “Phonics Alphabets” Active Phonics 2 “Voiced vs Voiceless”	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アルファベットの音を理解する。</li> <li>・ 有声音と無声音の違いについて理解する。</li> </ul>
5月	Active Phonics 3 “Short Vowels” Active Phonics 4 “Silent E” be 動詞と一般動詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5つの短母音について理解する。</li> <li>・ 語尾にeがついた単語の読み方について理解する。</li> <li>・ 現在形の肯定、否定、疑問文について学習する。</li> </ul>
<b>前期中間考査</b>		
6月	名詞の複数形 助動詞 can	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 名詞が複数形の際のルールを理解する。</li> <li>・ 「～ができる」という表現を身につける。</li> </ul>
7・8月	Active Phonics 5 “Polite Vowels” 3人称単数現在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「礼儀正しい母音」と呼ばれる母音について理解する。</li> <li>・ 主語が3人称単数の際の文を理解する。</li> </ul>
<b>前期期末考査</b>		
9月	Active Phonics 6 “Consonant Diagraphs” Active Phonics 7 “Vowel Diagraphs” 疑問詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2文字子音について理解する。</li> <li>・ 現在形の肯定、否定、疑問文について学習する。母音について理解する。</li> <li>・ 5W1H を使用した疑問文およびその答え方を理解する。</li> </ul>
10月	Active Phonics 8 “Consonant Blends” 人称代名詞 There is / are ~.	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連続子音について理解する。</li> <li>・ 代名詞の主格、所有格、目的格、独立所有格（所有代名詞）について学習する。</li> <li>・ There を含む文章の構造を理解する。</li> </ul>
11月	Active Phonics 9 “Murmuring Vowels” Active Phonics 10 “Endings” 現在進行形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R のついた母音について理解する。</li> <li>・ 語尾変化について理解する。</li> <li>・ 理解した文法事項を、話す活動で応用することができる。</li> <li>・ 現在形と進行形の違いを踏まえて進行形を理解する。</li> </ul>
<b>後期中間考査</b>		
12月	GTEC for Students に向けて Listening, Speaking, Reading, Writing	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GTEC for Students の問題形式と Core レベルの難易度に慣れる。</li> </ul>
1月	過去形（規則変化） 前置詞と接続詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動詞の過去形を学習し、過去の文章の作り方を学ぶ。</li> <li>・ 前置詞と接続詞を含む文の構造を理解する。</li> </ul>
2月	過去形（不規則変化） 過去進行形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不規則変化する動詞の過去形を理解する。</li> <li>・ 過去形と過去進行形との違いをふまえて過去進行形を理解する。</li> </ul>
<b>学年末考査</b>		
3月	1年間の文法のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年間に学習した内容を整理して発信力をつける。</li> <li>・ 理解した文法事項を、話す活動で応用することができる。</li> </ul>

学年	2年	教科・科目 【講座名】	英語α	単位数 週の授業時数	4
----	----	----------------	-----	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
Here We Go! 2 (光村図書出版) JOYFUL WORKBOOK 2 (新学社) 英和・和英辞典					
<b>学習の目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどを理解するとともに, これらの知識を, 聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。</li> <li>2 コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 日常的な話題や社会的な話題について, 外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり, これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</li> <li>3 外国語の背景にある文化に対する理解を深め, 聞き手, 読み手, 話し手, 書き手に配慮しながら, 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</li> <li>4 KUDAN CAN-DO リストの Grade 2 の学習到達目標及び, Grade 3 の一部を達成する。</li> </ol>					
<b>評価の方法</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 定期考査【知識・技能】【思考・判断・表現】</li> <li>2 スキット, スピーチ, サマリーなどの発表【思考・判断・表現】</li> <li>3 単語・文法などの小テスト【知識】</li> <li>4 ライティングテスト【思考・判断・表現】</li> <li>5 家庭学習課題【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ol>					
<b>学習のアドバイス (授業への臨み方, 予習や復習の方法)</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 KUDAN CAN-DO リストの学習到達目標を達成するための言語活動を行う。 →教科書の本文を基本として, スキット, スピーチなどの言語活動 (コミュニケーション活動) を授業の中で多く取り入れます。その基本になるのは音読練習です。授業では先生のモデルを, 家庭では教科書の QR コードを活用してモデル文を聞き, 何度も音読練習しましょう。また, クラスメイトの良い発表を見て, お互いに学び合うことも大切です。</li> <li>2 文法, 語彙, 発音などの学習活動と言語活動をバランスよく行う。 →授業で学んだ文法事項や語彙などは, 何度も「触れる」努力をしましょう。</li> <li>3 既習の言語材料を総合的に使用しながら, 自己表現活動を行う。 →言葉を学ぶ授業です。習ったことはすぐに取り入れ, スピーキングやライティング活動を通じて, 繰り返し使しましょう。そうすることで, 学習したことが自然と定着し, 表現の幅も広がります。</li> </ol>					
<b>その他</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 家庭学習で徹底的に復習する習慣をつける。</li> <li>2 NHK ラジオ『基礎英語 2』, 実用英語技能検定 (3級) など, 授業以外の学習を自主的に行う。</li> <li>3 英和辞書の購入については, 授業中に詳細を説明します。家にある紙の辞書を使っても構いませんが, 電子辞書は使用できません。</li> <li>4 すべての授業は少人数展開で行う。</li> </ol>					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	Unit1 Hajin's Diary	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ be 動詞の過去形</li> <li>・ 一般動詞の過去形</li> <li>・ 接続詞 when</li> <li>・ SVC の文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日記を読んで、おおまかな内容を捉えることができる。</li> <li>・ 出来事や感想などを日記に書くことができる。</li> </ul>
5月	Unit2 Basketball Tournament	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動名詞</li> <li>・ to 不定詞</li> <li>・ 接続詞 that</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の話から、企画に必要な情報を聞き取ることができる。</li> <li>・ 企画への希望や意見を、その場で伝え合うことができる。</li> </ul>
6月	Unit3 Plans for the Summer	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未来形 be going to</li> <li>・ 未来形 will</li> <li>・ 接続詞 if</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メール用の件や、返事が必要なことを読み取ることができる。</li> <li>・ 件や気持ちが伝わるように、メールの返事を書くことができる。</li> </ul>
	前期中間考査		
7・8月	Unit4 Plans for the Summer	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ There is / are~.</li> <li>・ SVOO の文</li> <li>・ to 不定詞 (形容詞的用法)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グルメの紹介記事から、必要な情報を読み取ることができる。</li> <li>・ 町の名物の魅力が伝わるように、詳しく説明することができる。</li> </ul>
	前期期末考査		
9月	Unit5 How Do We Stay Safe?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 助動詞 must</li> <li>・ 助動詞 have to</li> <li>・ It is for 構文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害時に役立つものの説明から、必要な情報を聞き取ることができる。</li> <li>・ 必要だと思うものについて、意見を整理して伝え合うことができる。</li> </ul>
10月	Unit6 Guide Dogs	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ to 不定詞</li> <li>・ 接続詞 because</li> <li>・ 感情の理由を表す to 不定詞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紹介記事を読んで、おおまかな内容を捉えることができる。</li> <li>・ わかりやすい文章構成で、紹介記事を書くことができる。</li> </ul>
11月	Unit7 Working Together	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比較級</li> <li>・ 最上級</li> <li>・ as+形容詞+as</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポスター案の説明を聞いて、おおまかな内容を捉えることができる。</li> <li>・ 複数のポスター案を比べ、自分の意見とその理由を伝え合うことができる。</li> </ul>
	後期中間考査		
12月	Unit8 Performing a Play	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ want+人+to</li> <li>・ SVOC の文</li> <li>・ 受動態</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手紙から、書き手の意図や気持ちを読み取ることができる。</li> <li>・ 意図や気持ちが伝わるように、手紙の返事を書くことができる。</li> </ul>
1月	Story Retelling	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習の文法事項を使用したリテリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ストーリーについて、簡単な語句や文を使って話すことができる。</li> </ul>
2月	Let's Read More 1 Plastic Food Samples	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長文読解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 記事を読んで、おおまかな内容を捉えることができる。</li> </ul>
	学年末考査		
3月	Let's Read More 2 Ainu, My Voice	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長文読解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 映像作品を紹介したブログを読んで、おおまかな内容を捉えることができる。</li> </ul>

学 年	2年	教科・科目 【講座名】	英語β・EA	単位数 週の授業時数	1
--------	----	----------------	--------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
「改訂版 キクタン【Entry】」（アルク出版）					
「マーフィーのケンブリッジ英文法」（ケンブリッジ大学出版）					
「Picture Dictionary」					
<b>学習の目標</b>					
1 英語αの授業で学んだ文法事項を、項目別に整理して学習し、正しく理解する。					
2 英語αの授業で学んだ文法事項を、話したり書いたりすることに活用することができる。					
3 英語の学習を通じて、言語や文化に対する理解を深める。					
4 KUDAN CAN-DO リストの Grade 2 の学習目標、Grade 3 の一部を達成する。					
5 文法や語法、その使用場面など、ルールや規則を整理して学ぶ。					
<b>評価の方法</b>					
1 授業中の意欲的な態度					
2 提出物、宿題、課題などの提出					
3 小テストの結果					
4 パフォーマンス評価（発音、音読、スピーチ、会話など）					
<b>学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）</b>					
1 この授業では、英語α・EA で学んだことをもとに、発展的な内容を扱ったり、身に付けた知識を活用できる力を伸ばす活動を行ったりする。					
2 English Activities の授業で、聞くことと話すことの言語活動を行う。 →ネイティブの先生と積極的にコミュニケーションを図り、英語を使うことの楽しさを体感してください。					
3 文法や語法、その使用場面など、ルールや規則を整理して学ぶため、復習を習慣的に行うようにする。また、授業で学んだ英文法を会話や英作文の中で活用し、定着を図る。					
4 授業ではクラスの仲間との協力が大切。お互いを尊重し、助け合って授業に取り組む。					
5 間違いを気にせず、積極的に授業に取り組む。					
<b>その他</b>					
・少人数展開による授業を行います。					

月	単元	学習目標
4月	キクタン Week 1 マーフィーのケンブリッジ英文法 現在形	現在形の使い方を理解する。
5月	キクタン Week 2 マーフィーのケンブリッジ英文法 過去形	過去形の使い方を理解する。
6月	キクタン Week 3 マーフィーのケンブリッジ英文法 現在完了形	現在完了形の使い方を理解する。
	<b>前期中間考査</b>	
7・8月	キクタン Week 4, 5 マーフィーのケンブリッジ英文法 受動態	受動態の使い方を理解する。
	<b>前期期末考査</b>	
9月	キクタン Week 6 マーフィーのケンブリッジ英文法 動詞の形	動詞の形を理解する。
10月	キクタン Week 7, 8 マーフィーのケンブリッジ英文法 未来表現	未来表現の使い方を理解する。
11月	キクタン Week 9 マーフィーのケンブリッジ英文法 法助動詞と命令文	法助動詞と命令形の使い方を理解する。
	<b>後期中間考査</b>	
12月	キクタン Week 10 マーフィーのケンブリッジ英文法 There と it	There is/ There are の使い方を理解する。
1月	マーフィーのケンブリッジ英文法 助動詞	助動詞の使い方を理解する。
2月	マーフィーのケンブリッジ英文法 疑問文	疑問文の使い方を理解する。
	<b>学年末考査</b>	
3月	マーフィーのケンブリッジ英文法 これまでの復習	これまで学習した文法の復習をする。

学年	3年	教科・科目 【講座名】	英語α	単位数 週の授業時数	4
----	----	----------------	-----	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
教科書 「SUNSHINE English Course 3」 (開隆堂出版)					
補助教材 「JOYFUL WORKBOOK 3」 (新学社)、英和・和英辞典					
<b>学習の目標</b>					
1 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。					
2 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。					
3 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。					
4 KUDAN CAN-DO リストの Grade 3 の学習到達目標及び、Grade 4 の一部を達成する。					
<b>評価の方法</b>					
1 定期考査【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】					
2 スキット、スピーチ、サマリーなどの発表【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】					
3 単語・文法の小テスト【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】					
4 授業内のディクテーションテスト【知識】					
5 英作文ノート（コンポノート）【主体的に学習に取り組む態度】					
6 九段祭等に向けた展示作品、制作物【主体的に学習に取り組む態度】					
7 家庭での学習課題【主体的に学習に取り組む態度】					
<b>学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）</b>					
（授業への臨み方）					
1 KUDAN CAN-DO リストの学習到達目標を達成するための言語活動を行う。 教科書の本文を基本として、スキット、サマリーなどの言語活動（コミュニケーション活動）を授業の中で多く取り入れる。その基本になるのは音読練習である。授業では先生の手本を、家庭では教科書の QR コードを活用してモデル音声を聞き、何度も音読練習に取り組む。 また、クラスメイトの良い発表を見て、お互いに学び合うことも大切である。					
2 文法、語彙、発音などの学習活動と言語活動をバランスよく行う。 授業で学んだ文法事項や語彙などは、実技試験や展示作品、制作等で何度も触れる機会を設ける。使うことを繰り返すことで、定着をさせていく。特に、単語・文法の小テストでは定期的に どの程度定着されているかを確認する。					
3 既習の言語材料を総合的に使用しながら、自己表現活動を行う。 学んだことを活用する場として、スピーキングやライティング活動を設けている。これらの活動を通じて、これまでに小学校から現在までに至るまでの学習内容を繰り返し何度も使う。これにより、単語・文法やレストランや電話等で使用する特有の表現も身につく。					
（予習や復習の方法）					
復習に重点を置いている。原則、予習をする必要はない。教科書の音読、音読筆写、ディクテーション、ワークブックによる言語材料の復習を中心に家庭学習を行う。					
<b>その他</b>					
1 家庭学習で徹底的に復習する習慣をつける。					
2 NHK ラジオ『基礎英語』、実用英語技能検定（準2級）など、授業以外の学習を自主的に行う。					
3 少人数展開による授業を行う。					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	【Program 1】 Bentos Are Interesting!	<ul style="list-style-type: none"> <li>ask [tell/ want]～(人) to… / It is ～ (for+人) to… / 主語+be 動詞+形容詞+that ～.</li> <li>教科書本文のスキットやリテリング活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体調が悪くなった時に求める対応を即興で対話し、書くことができる。</li> <li>自分の大切なものについて即興で対話できる。</li> </ul>
5月	【Program 2】 Good Night. Sleep Tight. POWER UP 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>主語+動詞+(人)+疑問詞節 / 主語+動詞+人など+that ～.</li> <li>教科書本文のスキットやリテリング活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>間接疑問文を使って即興でスリーヒントクイズを出すことができる。</li> <li>電話で伝言を頼むことができる。</li> </ul>
前期中間考査			
6月	【Program 3】 A Hot Sport Today Our Project 7 Reading 1 Faithful Elephants	<ul style="list-style-type: none"> <li>主語+動詞+目的語+補語(名詞/形容詞) / 主語+動詞+目的語+動詞の原形</li> <li>教科書本文のスキットやリテリング活動</li> <li>単元全体の速読・精読</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の気持ちを動かすものについて即興で会話し、書くことができる。</li> <li>物語についての要約文を書くことができる。</li> </ul>
7・8月	【POWER UP 2】 【Program 4】 Sign Languages, Not Just Gestures!	<ul style="list-style-type: none"> <li>品物の不備について交換を依頼することができる。</li> <li>分詞の後置修飾</li> <li>教科書本文のスキットやリテリング活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>店員と客に分かれて即興のやり取りができる。</li> <li>外国の人に紹介したい日本のものについて発表し、書くことができる。</li> </ul>
前期期末考査			
9月	【POWER UP 3】 【Program 5】 The Story of Chocolate	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの校正を分析し、学校の行事や部活動を英語で書くことができる。</li> <li>関係代名詞(主格) who / which / that</li> <li>教科書本文のスキットやリテリング活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校ホームページを作成することができる。</li> <li>人や物、キャラクターについてスリーヒントクイズを出せる。</li> <li>自分の好きな人や物について書くことができる。</li> </ul>
10月	【Program 6】 The Great Pacific Garbage Patch 【Our Project 8】	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係代名詞(目的格) which / that / 省略</li> <li>教科書本文のリテリング活動やディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の町のPR文を作成し発表することができる。</li> <li>ディスカッションをして意見交換をすることができる。</li> </ul>
11月	【POWER UP 4】 【Program 7】 Is AI a Friend or an Enemy?	<ul style="list-style-type: none"> <li>デパート火災で避難経路を聞き取り書くことができる。</li> <li>仮定法過去 / I wish + 主語+仮定法過去</li> <li>教科書本文のリテリング活動やディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドラえものの道具が使えるとしたら何がしたいかを書くことができる。</li> <li>自分の町にあるとよいものについて即興で対話できる。</li> </ul>
後期中間考査			
12月	【Reading ②】 Malala's Voice for the Future 【Special Project】	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元全体の速読・精読</li> <li>中学校の思い出を書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際的な問題について自分の意見を即興で話すことができる。</li> </ul>
1月	【Further Reading ①】 【Further Reading ②】	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元全体の速読・精読</li> <li>本文の要点を捉え、要約文を書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文について自分の考えを即興で話すことができる。</li> </ul>
2月	【中1～中3までの内容を復習】 読解問題、復習テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章全体の速読・精読</li> <li>中学段階の内容を再確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トピックの概要や感想を即興で話すことができる。</li> </ul>
学年末考査			
3月	【中1～中3までの内容を復習】 読解問題、復習テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章全体の速読・精読</li> <li>中学段階の内容を再確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トピックの概要や感想を即興で話すことができる。</li> </ul>

学年	3年	教科・科目 【講座名】	英語β・EA	単位数 週の授業時数	1
----	----	----------------	--------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
「改訂版 第2版 キクタン【Entry】2000 語レベル」(アルク出版)					
「Ultimate 総合英語 3rd edition」(啓林館)					
「Picture Dictionary」または「マーフィーのケンブリッジ英文法」					
<b>学習の目標</b>					
1 英語αの授業で学んだ文法事項を、項目別に整理して学習し、正しく理解する。					
2 英語αの授業で学んだ文法事項を、話したり書いたりすることに活用することができる。					
3 英語の学習を通じて、言語や文化に対する理解を深める。					
4 KUDAN CAN-DO リストの Grade 2 の学習目標、Grade 3 の一部を達成する。					
5 文法や語法、その使用場面など、ルールや規則を整理して学ぶ。					
<b>評価の方法</b>					
1 授業中の意欲的な態度					
2 提出物、宿題、課題などの提出					
3 小テストの結果					
4 パフォーマンス評価(発音、音読、スピーチ、会話など)					
<b>学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)</b>					
1 この授業では、英語αで学んだことをもとに、発展的な内容を扱ったり、身に付けた知識を活用できる力を伸ばす活動を行ったりする。					
2 English Activities の授業で、聞くことと話すことの言語活動を行う。 →ネイティブの先生と積極的にコミュニケーションを図り、英語を使うことの楽しさを体感してください。					
3 文法や語法、その使用場面など、ルールや規則を整理して学ぶため、復習を習慣的に行うようにする。また、授業で学んだ英文法を会話や英作文の中で活用し、定着を図る。					
4 授業ではクラスの仲間との協力が大切。お互いを尊重し、助け合って授業に取り組む。					
5 間違いを気にせず、積極的に授業に取り組む。					
<b>その他</b>					
・少人数展開による授業を行います。					

月	単元	学習目標
4月	キクタン Week 7 Ultimate 総合英語 文の種類、文型と動詞	文型を理解する。
5月	キクタン Week 7~8 Ultimate 総合英語 時制	時制について理解する。
6月	キクタン Week 8 Ultimate 総合英語 完了形	完了形の使い方を理解する。
	<b>前期中間考査</b>	
7・8月	キクタン Week 9 Ultimate 総合英語 助動詞	助動詞の使い方を理解する。
	<b>前期期末考査</b>	
9月	キクタン Week 9~10 Ultimate 総合英語 受動態	受動態を理解する。
10月	キクタン Week 10 Ultimate 総合英語 不定詞	不定詞の使い方を理解する。
11月	キクタン Week 11 Ultimate 総合英語 原形不定詞、疑問詞+to 不定詞	不定詞について理解を深める。
	<b>後期中間考査</b>	
12月	キクタン Week 12 Ultimate 総合英語 動名詞	動名詞の使い方を理解する。
1月	キクタン Week 13 Ultimate 総合英語 現在分詞	現在分詞の使い方を理解する。
2月	キクタン Week 14 Ultimate 総合英語 過去分詞	過去分詞の使い方を理解する。
	<b>学年末考査</b>	
3月	キクタン Week 15 Ultimate 総合英語 これまでの復習	これまで学習した文法の復習をする。

学 年	3年	教科・科目 【講座名】	英語γ	単位数 週の授業時数	1
--------	----	----------------	-----	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
「マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）」 英和辞典					
<b>学習の目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語αの授業で学んだ文法事項を、項目別に整理して学習し、正しく理解する。</li> <li>・英語αの授業で学んだ文法事項を、話したり書いたりすることに実際に活用することができる。</li> <li>・KUDAN CAN-DO リストの Grade 3 の学習目標、Grade 4 の一部を達成する。</li> </ul>					
<b>評価の方法</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 定期考査【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】</li> <li>2 文法の小テスト【知識】</li> <li>3 家庭での学習課題【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ol>					
<b>学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに英語α・β・EAで学んだことを復習しながら、身に付けた知識を活用できる力を伸ばすための活動を行う。</li> <li>・文法や語法、その使用場面など、ルールや規則を整理して学ぶため、復習を習慣的に行うようにする。</li> <li>・授業で学んだ英文法を会話や英作文の中で活用し、定着を図る。</li> <li>・仲間と助け合うことで理解が深まる。お互いを尊重し、積極的に学び合うようにする。</li> </ul>					
<b>その他</b>					

月	単元	学習目標
4月	現在形 過去形	・一般動詞、be 動詞、進行形を含めて 現在形・過去形の使い方を理解する。
5月	現在完了形 受動態 動詞の形	・現在完了形の使い方を理解する。 ・受動態の使い方を理解する。
<b>前期中間考査</b>		
6月	未来表現	・未来表現の使い方を理解する。
7・8月	法助動詞と命令文 There と it 助動詞	・助動詞の使い方を理解する。 ・命令文の使い方を理解する。 ・There is の使い方を理解する。
<b>前期期末考査</b>		
9月	疑問文 間接話法	・様々な疑問文について理解する。 ・間接話法の使い方を理解する。
10月	動名詞と to 不定詞 基本的な動詞を用いた表現	・動名詞と to 不定詞の使い方を理解する。
11月	人称代名詞と所有格 冠詞	・人称代名詞の使い方を理解する。 ・冠詞の使い方を理解する。
<b>後期中間考査</b>		
12月	限定詞と代名詞	・限定詞や代名詞の使い方を理解する。
1月	形容詞と副詞	・形容詞や副詞の使い方を理解する。 ・比較の表現について理解する。
2月	語順 接続詞と節	・語順や接続詞、節の機能について 理解する。
<b>学年末考査</b>		
3月	前置詞 句動詞	・前置詞の使い方を理解する。 ・句動詞の使い方を理解する。

## 道徳 学習指導計画

<b>教科の目標</b>	1 自立心や自律性を高め、規律ある生活を送ろうとする態度を養う。 2 規範意識を高め、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を養う。 3 生命を尊重する心や自分の弱さを克服して気高く生きようとする心を育む。			
	<b>学年</b>	<b>区分</b>	<b>学習内容</b>	<b>各学年の指導の重点</b>
<b>前期課程</b>	<b>第1学年</b>	<b>基礎期</b>	A 主として自分自身に関すること (1) 自主、自律、自由と責任 (2) 節度、節制 (3) 向上心、個性の伸長 (4) 希望と勇気、克己と強い意志 (5) 真理の探究、創造	○望ましい生活習慣を身に付け、安全で調和のある生活をする事。 ○礼儀の大切さを理解し、時と場に応じて適切に行動すること。 ○集団の意義についての理解を深め、協力し合って集団生活の向上に努めること。 ○かけがえのない自他の生命を尊重すること。
			B 主として人との関わりに関すること (6) 思いやり、感謝 (7) 礼儀 (8) 友情、信頼 (9) 相互理解、寛容	○主体的に考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつこと。 ○温かい人間関係を築き、他の人々に対し思いやりの心をもつこと。 ○正義を重んじ、だれに対しても分け隔てなく接し、差別や偏見を許さないこと。 ○かけがえのない自他の生命を尊重すること。
	<b>第2学年</b>	<b>充実期</b>	C 主として集団や社会との関わりに関すること (10) 遵法精神、公德心 (11) 公正、公平、社会正義 (12) 社会参画、公共の精神 (13) 勤労 (14) 家族愛、家庭生活の充実 (15) よりよい学校生活、集団生活の充実 (16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 (17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 (18) 国際理解、国際貢献	○より高い目標を目指し、困難に屈しないでねばり強く最後までやり抜く強い意志をもつこと。 ○それぞれの個性や立場を尊重し、寛容な心や広い心をもつこと。 ○勤労の尊さを重んじ、奉仕の精神を進んで実践しようとする事。 ○かけがえのない自他の生命を尊重すること。
<b>第3学年</b>	<b>発展期</b>	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事 (19) 生命の尊さ (20) 自然愛護 (21) 感動、畏敬の念 (22) よりよく生きる喜び	○より高い目標を目指し、困難に屈しないでねばり強く最後までやり抜く強い意志をもつこと。 ○それぞれの個性や立場を尊重し、寛容な心や広い心をもつこと。 ○勤労の尊さを重んじ、奉仕の精神を進んで実践しようとする事。 ○かけがえのない自他の生命を尊重すること。	

学年	1年	教科・科目 【講座名】	特別の教科 道徳	単位数 週の授業時数	1
----	----	----------------	----------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>					
「中学道徳 きみがいちばんひかるとき」光村図書					
<b>学習の目標</b>					
<p>①望ましい生活習慣を身に付け、節度のある生活習慣を確立する。</p> <p>②礼儀の意義を理解し、時と場合に応じた適切な言動をとることができる。</p> <p>③自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。</p>					
<b>評価の方法</b>					
ワークシート、授業における発言や取り組み等					
<b>学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）</b>					
<p>予習の方法については、使用する資料等が事前にわかっている場合は、資料をあらかじめ読んで授業に臨むことが望ましい。</p> <p>復習の方法については、授業で学んだ内容を振り返りながら資料を読み返し、自身の考えを整理して行動に移そうとすることが重要である。</p>					
<b>その他</b>					
道徳の授業で学んだことを普段の生活の中で実践し、よりよく生きる態度を身につけることが重要である。					

月	単元	学習目標
4月	よりよい自己の探求 優しい心 いまを生きる大切さ	理想を求め、積極的に力強く人間らしい誠実な生き方を求めようとする道徳的心情を育む。
5月	家族のきずな 日々の心構え 自分をきたえる	家族の深い愛情に守られて今日があることに気づき、感謝の心で家族の愛に応えようとする道徳的心情を育む。
<b>前期中間考査</b>		
6月	善意や支えへの感謝 自主的な判断 目標に向かう意志 正しい異性理解	感謝の心は他者の厚情にふれたときの自然な感情であることに気づき、その気持ちを素直に表そうとする道徳的態度を育成する。
7・8月	弱さの克服 よりよい手段づくり	だれもがもっている人間らしいよさを認め、弱さに負けず、自分に恥じない生き方を見いだそうとする道徳的心情を育む。
<b>前期期末考査</b>		
9月	公德を尊ぶ心 好ましい世の中 礼の精神 いじめを許さぬ強さ	社会の一員として公共の場における態度を考え、気持ちよい社会を実現しようとする道徳的実践意欲を培う。
10月	自然を愛する心 真の友情 心のあたたかさ きまりの意義	人間が自然の中で生かされていることに気づき、自然を尊び、愛護に努めようとする道徳的態度を育成する。
11月	国を思う心 他に学ぶ姿勢 良心のめざめ 郷土を愛する心	日本人としての自覚をもち、国の発展に寄与しようという道徳的心情を育てる。
<b>後期中間考査</b>		
12月	誠実な行動と責任 勤労の尊さ かけがえのない家族	自分の行為が及ぼす結果を深く考え、誠実に責任をもつことのできる行動がとれるよう道徳的判断力を高める。
1月	誇りある生き方 生命の尊さ 真の国際貢献	人間には弱さを克服しようとする気高さがあることを知り、自分自身もよりよく生きようとする道徳的実践意欲を培う。
2月	支え合う家族 公正・公平な社会 思いやり	家族への敬愛の念を深め、家族の一員として積極的に家族を支え協力していこうとする道徳的実践意欲を培う。
<b>学年末考査</b>		
3月	愛校心 くじけない心	学校に愛着や誇りをもち、その一員としてよりよい学校づくりに意欲的に取り組もうとする道徳的実践意欲を培う。

学年	2年	教科・科目 【講座名】	特別の教科 道徳	単位数 週の授業時数	1
----	----	----------------	----------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>	
「中学道徳 きみがいちばんひかるとき」光村図書	
<b>学習の目標</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>①より高い目標を目指し、着実にやりぬく強い意志をもつ。</li> <li>②公德心及び社会連帯の自覚を高める。</li> <li>③礼儀の意義を理解し、時と場合に応じた適切な言動をとることができる。</li> <li>④勤労の貴さ意義を理解し、奉仕の精神をもって公共の福祉と社会の発展に努める。</li> </ul>	
<b>評価の方法</b>	
ワークシート、授業における発言や取り組み。	
<b>学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）</b>	
<p>予習の方法については、使用する資料等が事前にわかっている場合は、資料をあらかじめ読んで授業に臨むことが望ましい。</p> <p>復習の方法については、授業で学んだ内容を振り返りながら資料を読み返し、自身の考えを整理して行動に移そうとすることが重要である。</p>	
<b>その他</b>	
道徳の授業で学んだことを普段の生活の中で実践し、よりよく生きる態度を身につけることが重要である。	

月	単元	学習目標
4月	よりよい自己の探求 育み合う友情 自分を好きになる	偶然がもたらす出会いの神秘に思いを馳せ、よりよい生き方を目指そうとする道徳的実践意欲を培う。
5月	望ましい生活習慣 自然への畏敬 社会秩序を高める	生活の中でよい習慣を身に付ける大切さを知り、小さなことからでも実行に移そうとする道徳的実践意欲を培う。
<b>前期中間考査</b>		
6月	目標に向かう意志 ともに生きる社会 他に学ぶ姿勢 家族の深い愛	自らの可能性を信じ、目標や理想に向かってあきらめずに最後までやり遂げようとする道徳的実践意欲を培う。
7・8月	誠実な心 責任ある判断	人間の心には弱さ醜さと、誠実さが同居することに気づき、誠実さを励まし気高く生きようとする道徳的心情を育てる。
<b>前期期末考査</b>		
9月	夢をもち続ける生き方 よりよい社会の実現 感謝の心にこたえる 強い正義感	挫折に絶望することなく、理想を求め、人生を意欲的に豊かに生きようとする道徳的実践意欲を培う。
10月	人間のすばらしさ 働くということの意味 自然への感動 あたたかい人間愛	人間のもつ強さや気高さを信じ、人間として誇りある生き方を見出そうとする道徳的心情を育てる。
11月	自己を生かし輝く集団 かけがえのない命 国際協力を考える 責任ある判断	集団の中で自分の個性を生かし、一員としての役割と責任を果たそうとする道徳的実践意欲を培う。
<b>後期中間考査</b>		
12月	社会への奉仕 時と場合に応じた礼儀 思いやる心	勤労は個人のためだけでなく社会を支えていることを理解し、公共の福祉と社会の発展に尽くす実践意欲を培う。
1月	家族への敬愛 国を愛する心 正義を重んじる心	家族の大切さを知り、敬愛の念を深め、家族の一員として積極的に協力していく道徳的態度を育成する。
2月	正しい異性理解 愛校心 良心に恥じない生き方	異性の特性や違いを正しく受け止め、ひとつの人格としてその尊厳を重んじようとする道徳的態度を育成する。
<b>学年末考査</b>		
3月	他を思いやる心 郷土の一員としての自覚	人の温かさを知り、他の人に対して感謝と思いやりの心をもって接しようとする道徳的態度を育成する。

学年	3年	教科・科目 【講座名】	特別の教科 道徳	単位数 週の授業時数	1
----	----	----------------	----------	---------------	---

<b>教科書・補助教材</b>	
「中学道徳 きみがいちばんひかるとき」光村図書 私たちの道徳 文部科学省 心みつめて 東京都教育委員会	
<b>学習の目標</b>	
①より高い目標を目指し、着実にやりぬく強い意志をもつ。 ②温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対して思いやりの心をもつ。 ③生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。 ④世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立ち人類の幸福に貢献する。	
<b>評価の方法</b>	
ワークシート、授業における発言や取り組み等	
<b>学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）</b>	
予習の方法については、使用する資料等が事前にわかっている場合は、資料をあらかじめ読んで授業に臨むことが望ましい。 復習の方法については、授業で学んだ内容を振り返りながら資料を読み返し、自身の考えを整理して行動に移そうとすることが重要である。	
<b>その他</b>	
道徳の授業で学んだことを普段の生活の中で実践し、よりよく生きる態度を身につけることが重要である。	

月	単元	学習目標
4月	よりよい自己の追求 誠実な生き方 目標に向かう意志	人間としてよりよく生きるため、理想の自己を目指し、前向きに歩み続ける道徳的実践意欲を培う。
5月	父母への感謝 信頼に支えられた友情 美しい生活習慣	父母の深い愛情を知り、家族の一員としてよりよい家庭生活を営もうとする道徳的態度を育成する。
<b>前期中間考査</b>		
6月	感謝の心が支えるもの 生命の尊さ 自然への畏敬 働く意味を考える	互いに贈り合う感謝の心が人との関係に潤いをもたらすことに気づき、日々の生活の中でその心を大切にしていこうとする道徳的態度を育成する。
7・8月	弱さの克服 試練が育てる友情	自己の弱さ醜さと向き合い、それを克服することで誇りある生き方に近づこうとする道徳的態度を育成する。
<b>前期期末考査</b>		
9月	礼儀の意義 生きる喜び 深い人類愛 いじめを許さぬ心	礼儀の意義を理解し、人間尊重の精神をもって時と場にふさわしい言動がとれる道徳的判断力を高める。
10月	郷土を愛する心 勤労の尊さ 自然への畏敬 思慮深い判断と責任	自分の住む地域社会への認識を深め、郷土を愛し、その発展に貢献しようとする道徳的実践意欲を培う。
11月	思いやりの心 家族への敬愛 正しい異性理解 法の理解と遵守	思いやりの根底にある人間への深い理解と共感を認識し、人間愛に満ちた道徳的心情を育てる。
<b>後期中間考査</b>		
12月	伝統の継承 支え合う心 公正、公平な心	わが国の伝統文化の重みを知り、それを継承していくことの重要性に気づき、よき後継者になろうという道徳的心情を育む。
1月	謙虚な心 心のふれ合い 役割の自覚	相手の立場や考え方を尊重し、謙虚な広い心で他に学ぼうとする道徳的態度を育成する。
2月	誇りある生き方 志高く生きる 愛校心	人間のもつ美しさ気高さを信じ、誇りある崇高な生き方を実現しようとする道徳的心情を育てる。
<b>学年末考査</b>		
3月	きまりを守る 自分を磨く	きまりを遵守し、確実に義務を果たすことで、よりよい社会をつくらうとする道徳的実践意欲を培う。

---

令和8年度 学習指導計画 前期課程

編集・発行 千代田区立九段中等教育学校  
〒102-0073 東京都千代田区九段北二丁目2番1号  
電話 03(3263)7190 (代表) ファクシミリ 03(3288)3499  
ホームページ <http://www.kudan.ed.jp>